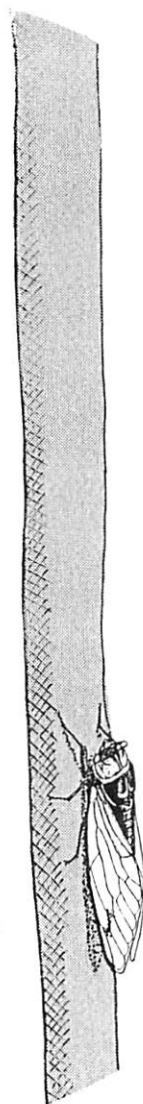
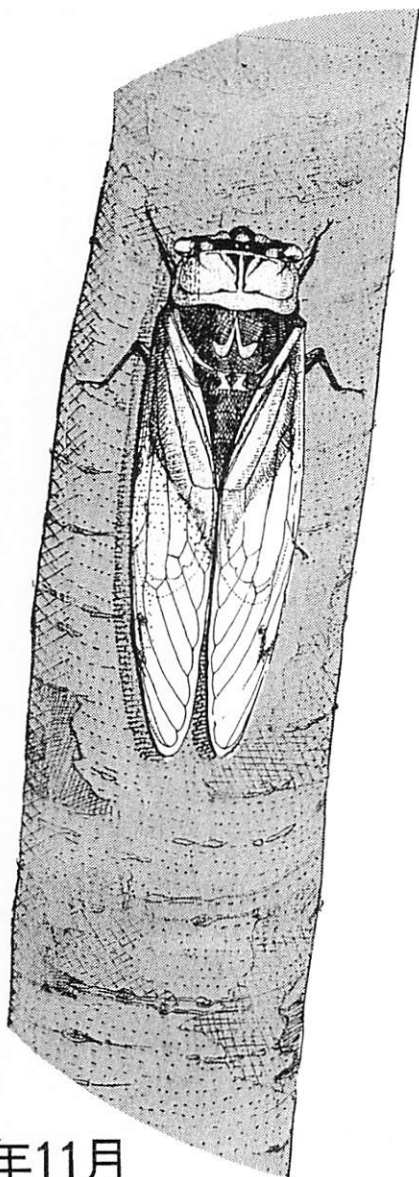


きべりはむし

第 2 5 卷 第 2 号



アカエゾゼミ
S.K

1997年11月

兵庫昆虫同好会

兵庫県産蝶類分布資料(9)

—ミドリシジミ族 6種の記録—

(ミドリシジミ・フジミドリシジミ・ウラジロミドリシジミ・
オオミドリシジミ・ジョウザンミドリシジミ・エソミドリシジミ)

広畑政巳・近藤伸一

はじめに

前回に引き続きミドリシジミ族6種の兵庫県内における分布状況について報告する。記載の方法は、前回と同様に県内の記録を各産地1例ずつをあげて、気付いたことを付記した。採集記録のうち場所が特定出来ない箇所については、分布図、垂直分布表から省いた。

本稿を草するにあたり、岩村巖氏、徳岡正己氏には多くの貴重なデータの提供を快諾いただいたのははじめ、次の方々に採集記録の提供をいただき、産地の状況等をご教示いただいた。ここに記してお礼申し上げる。

石井為久 稲田和久 入江照夫 故 尾崎 勇
木下賢司 木村三郎 北浦保夫 黒田 収
佐々木薫 大東康人 高島 昭 苦木隆幸
春井博文 森下泰治 唐土洋一 八木 弘
米村和繁

1 ミドリシジミ

(1) 分布の状況

ハンノキを食樹として、北海道、本州、四国、九州の平地、山地に広く分布する。県下の分布は図1のように、全域に広く点在しているが、丹波地域から但馬東部にかけての区域に分布の空白域がある。しかし、これらの区域については、詳しい記録がないだけで、篠山町には採集記録もあり、新しい生息地が発見される可能性は高い。日高町稲葉三川山が現在確認されている北限の生息地で、南淡町阿万が南限である。

(2) 生息環境の現況

ハンノキの分布する湿地や水田、河川、池など

の周辺が主な生息地で、里のチョウという印象が強い。標高300m以下に生息地が集中しているが、1,000mを越える場所でも採集されている。集落周辺に生息場所が多いため、開発され消失した産地も多い。幼虫は初夏にハンノキの葉を綴った巣を造り、発見は極めて容易なので、今後の調査を期待したい。

(3) 採集記録

川西市満願寺	4♂3♀	23-VI-1983	松井賢慈	39)
〃 西多田		5-VII-1969	小坂利明	25)
〃 西畦野		25-VI-1977	仲田元亮	25)
〃 山原		25-VI-1977	仲田元亮	25)
〃 笹部		23-VI-1973	松浦 徹	22)
〃 鼓ヶ滝・多田・東多田				2)
〃 東谷				46)
〃 一の鳥居～吉川	1♀			
		3-VII-1960	日浦 勇	49)
三田市市之瀬	2幼虫	5-V-1985	近藤伸一	
〃 乙原	60幼虫	5-V-1979	杠 隆史	21)
〃 木器	7卵	11-IV-1976	若林守男	1)
〃 本郷	42卵	22-XI-1981	勝屋 潤	43)
宝塚市大原野	3幼虫	3-VI-1973	松浦 徹	21)
〃 武田尾				2)
〃 西谷西部	♂	18-VI-1983		40)
〃 榎峠		1-VII-1979		40)
〃 玉瀬		9-VII-1979		40)
〃 波豆～三田市木器		18-VII-1978		40)
〃 切畑	♂	24-VI-1951	吉阪道雄	49)
猪名川町三草山	1♂	12-VII-1986	緒方正雄	22)
〃 内馬場	25卵	17-II-1991		23)
〃 銀山		29-VI-1975	小坂利明	25)
〃 槻並		26-VI-1977	小坂利明	25)
〃 下阿古谷・上阿古谷・紫合				2)

西宮市山口町	4幼虫	29-IV-1981	近藤伸一	
〃 金仙寺	1♂	16-VI-1982	杠 隆史	21)
〃 甲山森林公園	1幼虫	5-V-1995		37)
〃 赤坂峠	2♂	31-VI-1963	田中 蕃	1)
神戸市須磨区多井畑	1♂1♀			
		11-VII-1964	三木 進	4)
垂水区名谷				26)
北区有馬	1♀	16-VII-1961	尾崎 勇	
〃 丹生山	3♂3♀	18-VI-1961	尾崎 勇	
〃 山田町				26)
〃 道場町	2♂1♀(羽化)			
		5~7-VI-1958	吉坂道雄	49)
〃 山の街	3♀	5-VII-1952	吉坂道雄	49)
〃 箕谷	1♂3♀	27-VI-1954	吉坂道雄	49)
西区玉津町	3♂2♀	21-VI-1959	尾崎 勇	
〃 大山寺	2♂	16-VI-1963	尾崎 勇	
〃 押部谷	1♀	1-VII-1962	尾崎 勇	
〃 藍那			尾崎 勇	
明石市松蔭新田	1♀	14-VI-1987	近藤伸一	
〃 東山町	1♂	7-VII-1962	大東康人	
三木市久留美	1♂羽化	13-VI-1988	芝 直幸	24)
〃 平井	2♂羽化	13-VI-1988	芝 直幸	24)
〃 志染町戸田	4♂	21-VI-1986	永幡嘉之	24)
〃 細川町増田	2♂	VI	小倉 滋	41)
〃 大村	3♂	17-VI-1987	永幡嘉之	24)
〃 与呂木	1♂	14-VI-1988	永幡嘉之	24)
小野市来住	1♂1♀	24-VI-1987	高島 昭	
〃 下来住				46)
加古川市志方町氷室	1♂	18-VI-1983	近藤伸一	
〃 上荘町				46)
西脇市津万八日山	2exs.	15-VI-1974	徳岡正己	
〃 鹿野	1♀	15-VI-1974	徳岡正己	
〃 塚口	3♂	26-VI-1976	徳岡正己	
〃 〃				17)
〃 富吉				44)
〃 武島		9-VI-1959		44)
〃 谷	6♂	4-VII-1976	徳岡正己	
社町下久米				17)
〃 〃	50exs.	25-VI-1977	徳岡正己	
〃 喜田	採卵多数	1-V-1980	徳岡正己	
中町奥中	20卵	12-VII-1976	若林守男	1)

黒田庄町白山	27-VI-1959	44)
〃 喜多		44)
姫路市書写	2幼虫	20-V-1981 近藤伸一
〃 御立北山	1♀	24-VI-1978 広畑政巳
〃 御立	1♂	27-VI-1989 高島 昭

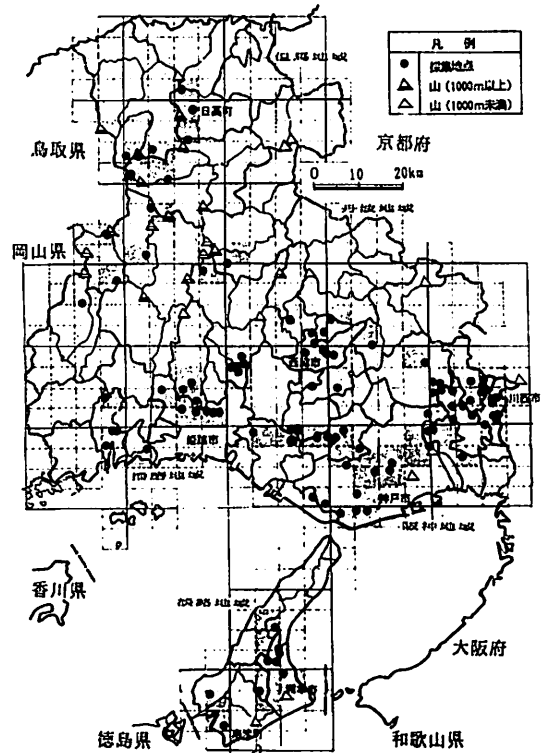


図1 ミドリシジミの県内分布

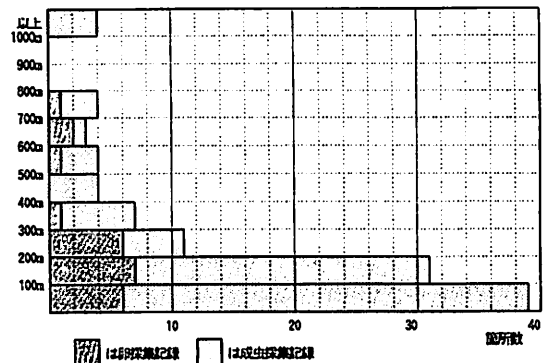


表1 ミドリシジミの垂直分布

姫路市上砥堀	8卵	24-III-1976	井手敏晴	1)
" 広峰・増井				
" 林田町八幡神社	2幼虫	13-V-1984	広畑政巳	
夢前町山富	1♂	27-VI-1981	近藤伸一	
" 小坪	8卵	24-II-1977	高田・井手	1)
" 菅生潤				17)
市川町下瀬谷	3♂8♀	20-VI-1993	広畑政巳	
福崎町加治谷	6幼虫	4-V-1978	広畑政巳	
" 日光寺山	1♂	16-VI-1975	森下泰治	
" 井ノ口	1♀	28-VI-1974	石井為久	
" 東田原				17)
大河内町砥堀	1♂1♀	9-VIII-1981	広畑政巳	
波賀町水谷	10幼虫(2齢)	15-V-1977	高田・井手	1)
" 道谷			尾崎 勇	5)
千種町三室山			尾崎 勇	5)
" 鷹巣	1幼虫	19-V-1985	近藤伸一	
御津町礎岩			稲田和久	
相生市山手町	3♂2♀	14-VI-1968	米村和繁	
" 三濃山	1ex.	19-VII-1981	苦木隆幸	
" 光明山・龍泉・佐方				17)
佐用郡海内	1♂	16-VI-1974	尾崎 勇	
日高町名色林道	1♀	30-VII-1981	福井文嗣	6)
" 稲葉三川山	1♀	7-VIII-1993	大東康人	7)
村岡町大笹	2♂	3-VII-1982	木下賢司	6)
美方町熱田	7卵	5-XI-1977	高田忠彦	1)
生野町生野牧場	3♂2♀	28-VII-1971	井上 健	51)
八鹿町妙見	13卵	14-X-1977	高田・井手	1)
大屋町杉ヶ沢	1♂	14-VII-1979	木下賢司	6)
関宮町鉢伏山	1♀	23-VII-1963	尾崎 勇	
" 氷ノ山小豆コロガシ	1♂	24-VII-1991	永幡嘉之	7)
" 氷ノ山東尾根	1♀	23-VII-1991	永幡嘉之	7)
今田町今田	15卵	12-III-1977	高田忠彦	1)
岡野村(現篠山町)				2)
洲本市千草中村	1♀	17-VI-1978	近藤伸一	50)
" 中河原	2♂	5-VI-1978	近藤伸一	50)
" 三木田	5幼虫	23-IV-1978	近藤伸一	
" 安乎	1♂	10-VI-1946	堀田 久	8)
" 先山	1♂	1-VII-1978	浅田 卓	50)

津名郡大町	3♂	19-VI-1967	登日邦明	8)
緑町中条中筋	11幼虫	23-IV-1978	近藤伸一	50)
西淡町伊加利	1蛹	23-V-1978	近藤伸一	50)
南淡町阿万	1♂	14-VI-1961	藤平 明	8)

2 フジミドリシジミ

(1) 分布の状況

ブナ、イヌブナを食樹として、北海道、本州、四国、九州の限られた地区に分布している。県下の分布は図2のとおり西播磨地域北部から但馬地区にかけてブナ、イヌブナの分布域に点在しているが、いずれの場所でも生息地は局限される。ブナは丹波や六甲山にも分布し、イヌブナは県南部に点在しているが、県南東部におけるフジミドリシジミの生息は確認されていない。城崎町来日岳が現在確認されている北限の生息地で、山崎町梯が南限となっている。

(2) 生息環境の現況

溪流に沿ったブナ、イヌブナ林に生息場所は多いが、尾根部のブナ、イヌブナからも卵は見つかる。採集記録のおおまかな標高は、表2のように400m付近から1,000mを越える場所までである。県南部では山崎町梯の500m付近が低標高地の産地である。ブナは海拔700m以上の冷温帯が主な分布地であるが、日本海側では300m付近まで分布域を下げ、香住町三川では230mからみられ、浜坂町久斗山では200m以下でもみられるので、北部地域では400m以下の標高でも生息している可能性は高い。

県下のブナ林は、針葉樹の植林地に代わったり、農地に転用されたりして産地及び個体数は近年著しく減少した。

(3) 採集記録

山崎町梯				5)
波賀町赤西溪谷	2卵	19-III-1978	白井祐一	1)
" 坂の谷	2♂	2-VII-1977	福原ほか	1)
" 道谷	1♂	8-VII-1967	喜多舒彦	1)
" 引原	1♀	1-IX-1981	稲田和久	14)

一宮町縦ノ木林道 2卵 28-III-1982 広畑政巳
千種町西河内ミソギ峠 1卵
19-XI-1982 広畑政巳
江浪峠 1卵 19-XI-1982 広畑政巳
城崎町来日岳 2♂1♀ 17-VI-1995 梁瀬 守 7)
日高町名色林道 1♂ 8-VII-1978 木下賢司 6)

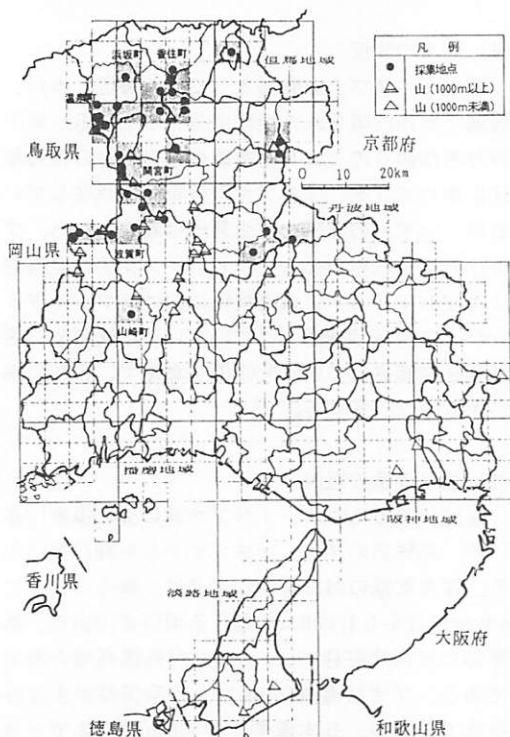


図2 フジミドリシジミの県内分布

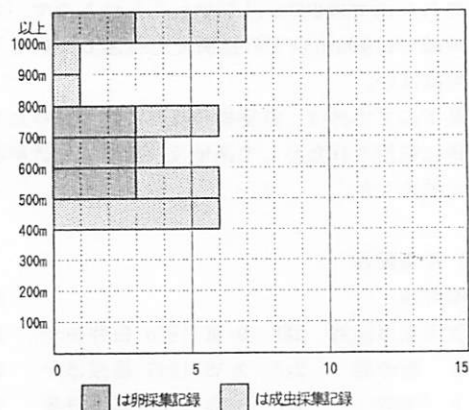


表2 フジミドリシジミの垂直分布

日高町稲葉三川山 4♂1♀
18-VI-1994 梁瀬 守 7)
三川山 3♂ 26-VI-1978 高田忠彦 1)
神鍋高原 2卵 10-XII-1977 小林健介 1)
香住町三川 1幼虫 11-IV-1977 高田・井手 1)
出石町東床ノ尾山 1♂ 20-VI-1979 木下賢司 6)
温泉町上山 2♂ 1-VII-1985 前平照雄 6)
霧ヶ滝 1幼虫 3-V-1976 若林ほか 1)
海上 10卵 17-XII-1977 小林健介 1)
高山 6卵 23-XI-1977 小林健介 1)
美原高原 2卵 3-XI-1978 徳岡正己 1)
菅原 1卵 9-XI-1980 徳岡正己 1)
菅原 佐々木薫
小ヅッコ 8♂ 29-VI-1991 永幡嘉之 20)
扇ノ山 1♀ 18~20-VIII-1953 奥谷禎一 16)
美方町熱田 3卵 23-XI-1978 若林ほか 1)
村岡町小城 1卵 27-III-1983 近藤伸一 1)
村岡 4卵 10-XII-1977 小林健介 1)
和田山町糸井溪谷 3卵 14-II-1976 高田・井手 1)
生野町黒川 58卵 24-III-1985 入江照夫ほか 13)
銀山湖周辺 36卵 23-X-1982 勝屋 潤 43)
大屋町横行 3卵 16-XII-1979 近藤伸一 1)
関宮町須賀ノ山 2♀ 3-VII-1977 高田・白井 1)
氷ノ山小豆コロガシ 1♀
24-VII-1991 永幡嘉之 7)
八鹿町妙見山 2卵 14-X-1977 高田・井手 1)
青垣町播州峠 1卵 11-III-1995 徳岡正己 1)

3 ウラジロミドリシジミ

(1) 分布の状況

ナラガシワ、カシワを食樹として、北海道、本州、四国、九州に分布している。県下の分布は図3のとおり西播磨地域南部と大阪府に接した川西市、猪名川町に分布が集中し、但馬地域には広く点在する。浜坂町の海岸部が北限の生息地で、南部には広い分布の空白地帯があるが、淡路北部にも卵の記録がある。

(2) 生息環境の現況

ナラガシワの生える二次林を生息地とするが、

例外的に浜坂町の海岸部ではカシワ林に生息している。生息地の標高は200m以下が中心となり、600mが標高の上限のようである。

(3) 採集記録

川西市笹部	1♀	22-VI-1952	若林ほか	1)
〃 一の鳥居	2♀	14-VI-1974	松浦 徹	22)
〃 西畦野	3♀	28-VI-1981	有田 斉	22)
〃 東多田	1♂	7-VI-1987	川元 裕	22)
〃 移瀬	1幼虫	5-V-1985	有田 斉	22)
〃 西多田		10-VII-1966	小坂利明	25)
〃 平野				29)
〃 花屋敷満願寺の川西飛地				29)
〃 鼓ヶ滝・出合・多田				2)
猪名川町仁部	5卵	9-I-1983	近藤伸一	
〃 阿古谷	2♂2♀	2-VII-1960	若林ほか	1)
〃 内馬場		21-VI-1981		25)
〃 三草山				2)
加美町的場	12卵	10-X-1978	福田洋一	1)
八千代町赤坂	8卵	10-X-1978	喜多舒彦	1)
姫路市元町			相坂耕作	11)
〃 林田町六九谷			尾崎 勇	5)
龍野市平木	5卵	18-XII-1977	福原ほか	1)
新宮町千本	数卵	15-I-1984	近藤伸一	
〃 牧	数卵	15-I-1984	近藤伸一	
〃 二柏野	5卵	6-VI-1985	広畑政巳	15)
〃 新宮	10♂6♀	15-VI-1963	岩村 巖	
山崎町須賀沢	12卵	22-II-1984	広畑政巳	
〃 蟹ヶ沢	1幼虫	14-V-1978	井手敏晴	1)
〃 青木	6卵	19-I-1980	岩村 巖	10)
安富町植木野	1卵	6-III-1977	梶谷 徹	1)
一宮町井ノ内	20卵	3-IV-1977	若林・高田	1)
〃 福中			尾崎 勇	9)
波賀町音水	4♀羽化	25-IV-1968	尾崎 勇	
相生市小河	1♀	21-VI-1966	米村和繁	
上郡町小野豆	1卵	22-II-1984	佐々木薫	
〃 白旗山	1♀	15-VI-1967	唐土洋一	
〃 広根	1♂	19-VI-1966	唐土洋一	
〃 野桑	1♂	19-VI-1977	井手敏晴	1)
〃 尾長谷	1♂2♀	8-VI-1997		30)
佐用町上石井	1♂	15-VI-1975	広畑政巳	

佐用町下石井	3♂1♀	16-VI-1974	広畑政巳
〃 青木	2卵	8-III-1981	広畑政巳
〃 若洲	4卵	27-XI-1983	広畑政巳
〃 海内	1♂	16-VI-1974	尾崎 勇
〃 平福	3♂1♀	22-VI-1961	尾崎 勇
〃 平谷	1♂2♀	21-VI-1961	尾崎 勇

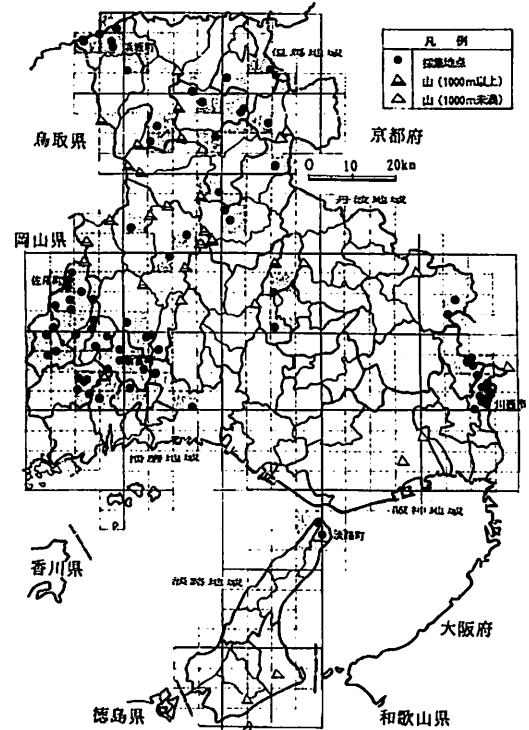


図3 ウラジロミドリシジミの県内分布

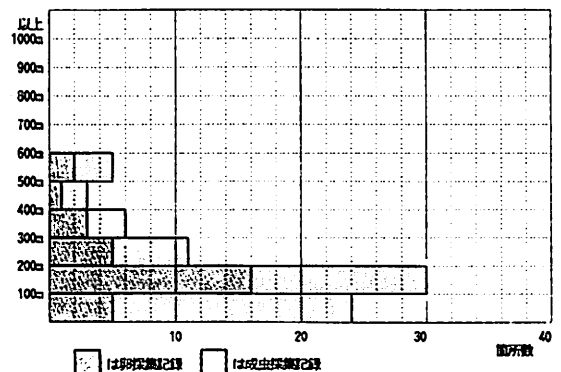


表3 ウラジロミドリシジミの垂直分布

佐用町佐用坂	2♂1♀	18-VI-1977	高田・井手	1)
上月町下秋里	1♂	15-VI-1975	広畑政巳	
〃 上秋里	1♂	16-VI-1974	尾崎 勇	
〃 久崎	21♂6♀	16-VI-1963	岩村 巖	
〃 円光寺	4♂1♀	12-VI-1997		30)
〃 中山	1♀	14-VI-1997	大東康人	
〃 尾崎	1♀	29-VI-1997	大東康人	
南光町乙原	4卵	27-X-1976	靴谷 徹	1)
〃 東徳久城山田倉谷			春井博文	
〃 上三河	1♂	12-VI-1982	高島 昭	
〃 (旧三河村)	1♀	14-VI-1959	中谷貞寿	45)
三日月町弦谷	16♂3♀	15-VI-1963	岩村 巖	
〃 本郷	6卵	26-XI-1978	高田忠彦	1)
豊岡市福成寺	2♀	3-VII-1978	木下賢司	6)
〃 奥野	1♂	9-VI-1983	前平照雄	6)
〃 法花寺	2卵	16-X-1978	高田忠彦	1)
日高町鶴岡	1♀	19-VI-1979	木下賢司	6)
〃 栃本	1♀	19-VI-1979	木下賢司	6)
〃 上ノ郷	5♂1♀	9-VI-1982	前平照雄	6)
〃 神鍋山	1♂1♀	22-VI-1997		48)
出石町榎見	6卵	16-X-1977	高田忠彦	1)
村岡町大笹	1♂	7-VII-1984	前平照雄	6)
〃 兎和野	10卵	XI-1978	若林ほか	1)
温泉町歌長	20卵	17-IX-1978	高田ほか	1)
浜坂町田君	6卵	19-III-1977	高田忠彦	1)
〃 三谷	2卵(ナラガシワ)			
		15-I-1992	黒井和之	27)
〃 城山	17卵	15-I-1992	永幡・黒井	27)
〃 田井	1♂(カシワ)	1-VII-1993	永幡嘉之	28)
〃 居組	1♂(カシワ)	29-VI-1992	川元 裕	28)
和田山町野村	18卵	3-XI-1977	高田忠彦	1)
朝来町土肥	10卵	29-XI-1977	高田忠彦	1)
〃 佐中	1卵	23-XI-1982	広畑政巳	
八鹿町小佐	6卵	14-X-1977	高田・井手	1)
養父町建屋	1幼虫	5-V-1977	高田忠彦	1)
篠山町福住	1♂1♀	23-VI-1963	喜多舒彦	1)
〃 原	1♂1♀	29-VI-1964	喜多舒彦	1)
淡路町谷山	13卵	8-X-1978	福原・靴谷	1)
北淡町江崎	10卵	31-X-1978	高田・井手	1)

4 オオミドリシジミ

(1) 分布の状況

コナラ、ミズナラ、クヌギなどのブナ科植物を食樹として、北海道、本州、四国、九州の山地から平地にかけて広く分布する。県下の分布は図4のとおり全域に点在している。

(2) 生息環境の現況

標高300mまでの平地のコナラ林が主な生息地であるが、成虫は1,000m以上の場所でも採集されている。県下にクヌギ林が少なく、卵はほとんどがコナラから見つかっているが、アベマキとウラジロガシからも卵が採集されている。

(3) 採集記録

川西市黒川	1ex. 目撃	30-VI-1997	木下修一	35)
〃 笹部	1♂1♀	15-VI-1985	樺原俊嗣	22)
〃 鼓ヶ滝・多田				2)
〃 東谷				46)
三田市大磯	1♂1♀	16-VI-1963	若林守男	1)
猪名川町三草山	1♀	22-VI-1986	緒方正雄	22)
〃 上原	1♂	15-VI-1988	松井賢慈	22)
〃 槻並		24-VI-1973	小坂利明	25)
〃 銀山		29-VI-1975	小坂利明	25)
〃 内馬場		27-VI-1976	小坂利明	25)
〃 清水		18-VI-1978	小坂利明	25)
〃 仁頂寺		15-VI-1980	森地重博	25)
〃 上阿古谷		21-VI-1981	勝屋 潤	25)
〃 柏原(大野山)		4-VII-1982	小坂利明	25)
〃 栃原(大谷)		30-VI-1984	小坂利明	25)
〃 木津北	2♂	14-VI-1992		32)
〃 紫合(ムササビ)	1ex. 羽化			
		29-V-1993	近藤高明	33)
下阿古谷・木間生				2)
宝塚市武田尾	1♂1♀	24-VI-1951	田中 蕃	1)
〃 榎峠		1-VII-1979		40)
〃 島ヶ脇		20-VI-1980		40)
〃 西谷西部		1-VII-1978		40)
〃 大船山麓		13-VI-1978		40)
〃 波豆〜三田市木器		26-VI-1977		40)

芦屋市奥山石宝殿付近	2♂1♀		
	10-VII-1983	西 隆広	3)
〃 城山		西 隆広	3)
神戸市六甲山	1♀	28-VI-1959 尾崎 勇	
〃 六甲山油壺	1♂	13-VI-1960	49)
〃 摩耶山	1♂	6-VII-1951	49)
東灘区住吉	2♂	19-VI-1957	49)
中央区市ヶ原	1♀	21-VI-1964 三木進一	4)
〃 布引	1♀	14-VI-1953	49)
〃 諏訪山	1♂	28-VI-1978 近藤伸一	
北区山田町山の街	2♂	12-VI-1959 尾崎 勇	
〃 丹生山	3♂5♀	18-VI-1961 尾崎 勇	
〃 帝釈山	1♀	9-VII-1983 住田正雄	
〃 再度山・有馬			26)
西区玉津町	1♀	21-VI-1959 尾崎 勇	
〃 押部谷	1♀	1-VII-1962 尾崎 勇	
〃 大山寺	2♀	16-VI-1962 尾崎 勇	
〃 神出町	1♀	13-VI-1980 高島 昭	
〃 神出町山西	2♂	-VI-1993 大東康人	
〃 神出町吉生	1♂	-VI-1993 大東康人	
明石市東山町	2♀	7-VII-1962 大東康人	
三木市志染町戸田	1♂	22-VI-1986 永幡嘉之	24)
〃 細川町増田		VI-1976 小倉 滋	41)
〃 大谷		VI-1976 小倉 滋	41)
〃 鍛冶(細川町垂穂)		VI-1976 小倉 滋	41)
〃 蜜屋		VI-1976 小倉 滋	41)
〃 本町		6-VI-1976 高橋久夫	41)
〃 大村	1♂	7-VI-1987 永畑嘉之	24)
〃 福井三木山	1卵	15-I-1986 近藤伸一	
〃 御坂	1♀	17-VI-1990 芝 直幸	24)
〃 殿畑	2♀	19-VI-1989 永畑嘉之	24)
〃 高畑	1♀孵化	11-VI-1957 若林守男	1)
加古川市志方町奥新田	1♂	4-VI-1994 大東康人	
小野市檜山町	卵幼虫多数(アベマキ)		
	16-IV-1978	近藤伸一	
〃 下来住			46)
西脇市武島		平田善範	44)
〃 塚口	数匹	-VII-1974 徳岡正己	
〃 比延(岡野山)	1♀	14-VI-1975 徳岡正己	
〃 板波	11卵	23-XI-1977 徳岡正己	
〃 平野	36卵	12-III-1978 徳岡正己	

社町池之内	1卵	11-II-1985 近藤伸一	
中町中村	3♂3♀	14-VI-1961 尾崎 勇	
黒田庄町喜多		4-VI-1959	44)
〃 岡 採卵1ex.		24-IV-1994 徳岡正己	
〃 門柳	20卵	23-XI-1977 徳岡正己	
加美町奥荒田		5-VII-1958	44)

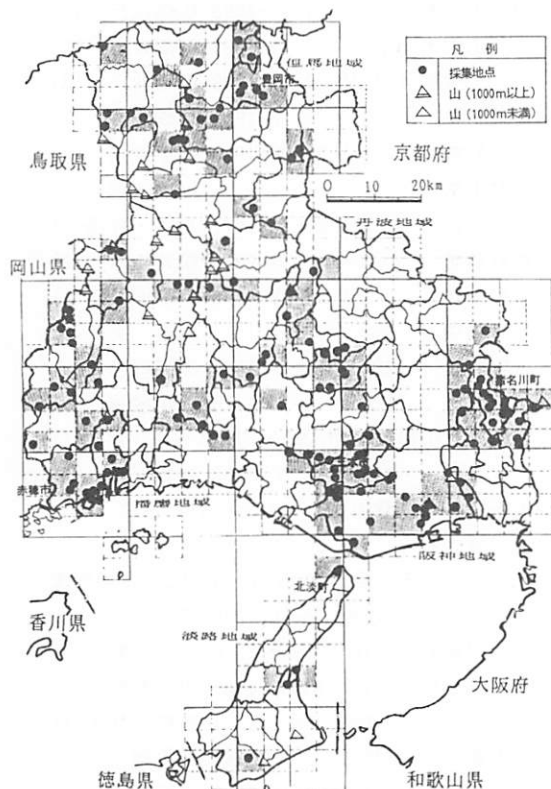


図4 オオミドリシジミの県内分布

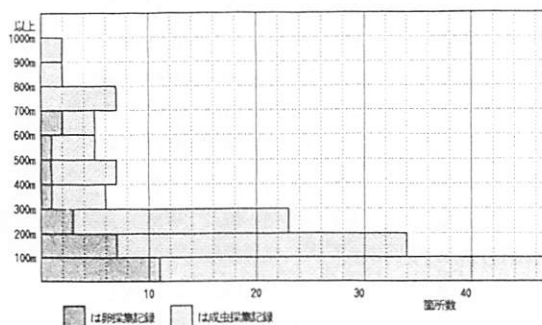


表4 オオミドリシジミの垂直分布

加美町烏羽 採卵5exs. 29-IV-1983 徳岡正己	佐用町平福	尾崎 勇	5)
加西市玉野 採卵1ex. 1-V-1993 徳岡正己	" 佐用坂 1♂ 13-VI-1977 井手敏晴		1)
姫路市林田町伊勢 1♀ 12-VI-1976 靴谷 徹 1)	" 大船 1♀ 17-VI-1976 井手敏晴		1)
" 広峰 1ex. 10-VI-1975 黒田 収	上月町久崎 1♂ 30-VI-1962 岩村 巖		
" 砥堀 2卵 24-III-1976 井手敏晴 1)	" 下秋里 1♀ 25-VI-1979 広畑政巳		
神崎町千ヶ峰 1♂ 12-VII-1964 大東康人	" 西新宿 1♂ 15-VI-1995 高島 昭		
市川町下加瀬 1♂2♀ 27-VI-1993 広畑政巳 12)	南光町徳久 1♀ 24-VI-1973 尾崎 勇		
" 上牛尾 3♂2♀ 27-VI-1993 広畑政巳 12)	三日月町弦谷 13♂1♀ 15-VI-1963 岩村 巖		
" 下牛尾 1♂1♀ 27-VI-1993 広畑政巳 12)	豊岡市妙楽寺 4♂ 17-VI-1974 木下賢司 6)		
福崎町田口 2♀ 8-VII-1975 広畑政巳	" 高屋(金山) 12-VI-1980 木下賢司 6)		
大河内町砥峰 1♀ 24-VII-1975 井手敏晴 1)	" 福成寺 1♀ 3-VII-1987 木下賢司 6)		
夢前町山富 佐々木薫	" 宮井 1♀ 17-VI-1979 木下賢司 6)		
" 小坪 2卵 26-II-1977 高田・井手 1)	城崎町来日岳 5♂ 24-VI-1979 木下賢司 6)		
安富町塩野 1♀ VI-1950 松井俊公 49)	竹野町須谷 1♀ 16-VI-1964 小崎茂樹 6)		
一宮町福知 1♀ 25-VII-1972 井手敏晴 1)	日高町大岡 1♂ 28-VI-1963 木下賢司 6)		
" 福中 尾崎 勇 5)	" 板本 1♂1♀ 16-VI-1985 木下賢司 6)		
波賀町赤西 2幼虫 12-V-1985 広畑政巳	" 名色林道(蘇武) 2♂		
" 水谷 1幼虫 14-V-1978 井手敏晴 1)		24-VI-1979 木下賢司 6)	
千種町三室山山麓 1卵 29-X-1977 高田・井手 1)	" 三川山 1♂ 28-VI-1987 村松秀行 31)		
" 鷹巣 1幼虫 19-V-1985 近藤伸一	香住町大槻 4卵 20-III-1977 高田忠彦 1)		
相生市矢野町三瀬山 2♀ 20-VI-1974 岩村 巖	出石町桐野(床ノ尾山) 1♀		
" 陸光明山 1♀ 26-VI-1967 米村和繁		5-VII-1978 高田忠彦 1)	
" 大谷町天下台 2♂2♀ 6-VI-1963 滝井邦興	" 奥山 2卵 16-X-1977 高田忠彦 1)		
" 佐方 5幼虫 6-V-1978 広畑政巳	村岡町耀山 1♂ 25-VI-1983 前平照雄 6)		
" 川原町 1♂ 2-VI-1970 米村和繁	" 金山峠 6♂1♀ 4-VII-1992 32)		
" 緑ヶ丘 1♀ 18-VI-1967 中浜春樹	" 市原 1♀ 25-VI-1963 小崎茂樹 6)		
" 高原 4卵 6-II-1977 高田・井手 1)	" 村岡 3卵 29-XI-1977 高田忠彦 1)		
赤穂市春日 1幼虫 2-V-1983 近藤伸一	" 祖岡 1♀ 25-VI-1992 永畑嘉之 7)		
" 丸山 1♂ 8-VI-1963 西垣憲治	美方町 1卵(ウラジロガシ)		
" 尾崎 5♂1♀ 9-VI-1963 岩村 巖		13-X-1982 勝屋 潤 42)	
" 宮原 1♂1♀ 16-VI-1973 松村邦正	温泉町上山 1♂1♀ 26-VI-1983 黒井和之 6)		
" 坂越 2♀ 13-VI-1973 岩井信彦	" 美原 1♀ 2-VII-1983 黒井和之 6)		
" 北野中 2♂ 12-VI-1964 岩村 巖	" 扇ノ山(海上林道) 1♀		
" 大津 2♂ 13-VI-1965 岩村 巖		3-VII-1992 永畑嘉之 7)	
" 折方 1♀ 24-VI-1965 岩村 巖	浜坂町本谷 1♂ 12-VI-1994 永畑嘉之 34)		
上郡町行頭 2卵 19-II-1984 近藤伸一	" 城山 1♀ 9-VII-1993 永畑嘉之 7)		
" 野桑 4♀ 19-VI-1977 高田・井手 1)	和田山町三波 1幼虫 20-V-1984 広畑政巳		
佐用町上石井 1♂1♀ 17-VI-1962 岩村 巖	" 藤和 1幼虫 20-V-1984 近藤伸一		
" 下石井 1♂ 16-VI-1974 広畑政巳	" 立雲峽 1♂ 28-VI-1984 木下賢司 6)		
" 青木 2♂1♀ 22-VI-1963 岩村 巖	生野町枿原谷 11卵 27-XI-1977 徳岡正己		
" 中山 2幼虫 29-IV-1994 大東康人	朝来町神子畑 採卵2exs. 20-V-1984 徳岡正己		

八鹿町小佐	1卵	14-X-1977	高田・井手	1)
関宮町杉ヶ沢	2♂	27-VI-1977	高田・井手	1)
篠山町福住	1♂	23-VI-1963	喜多舒彦	1)
洲本市安乎町	1♂	10-VI-1951	堀田 久	8)
津名町塩田	1♂	10-VI-1952	堀田 久	8)
北淡町江崎	3卵	31-X-1978	高田・井手	1)
南淡町大日	1♀	18-VI-1961	武田義明	8)

5 ジョウザンミドリシジミ

(1) 分布の状況

ミズナラ、コナラを食樹として、北海道、本州に分布し、本州中部の太平洋側及び南西部では山地性となり、産地は限られる。県下の分布は図5のとおり西播磨地域北部から但馬地区にかけて点状に分布している。但馬西部の高標高地域では個体数は比較的多いが、その他の地域では生息地が局限され、個体数も少ない。浜坂町本谷が現在確認されている北限の生息地で、佐用町日名倉山が南限である。

(2) 生息環境の現況

標高400mから800mのミズナラ林が主な生息地であるが、成虫は1,000m以上の場所でも採集されている。浜坂町本谷の350m付近で採集された成虫の記録が現在確認されている低標高地の産地であるが、この採集場所は尾根部であり、発生場所はさらに低標高である可能性が高い。

卵はほとんどがミズナラから見つかっており、コナラから採集された記録は明らかでない。但馬地域ではミズナラとコナラが混在しており、よく調査すればコナラからも卵は見つかるものと思われる。ウラジロガシから卵が採集された記録がある。

(3) 採集記録

波賀町音水	1♂1♀	9-VII-1967	喜多舒彦	1)
〃 道谷	3卵	15-IV-1978	高田・白井	1)
〃 引原	3♂	22-VI-1989	高島 昭	
一宮町福知	3卵	13-III-1977	若林・高田	1)
〃 福中	1♂羽化	23-V-1980	尾崎 勇	9)

千種町天児屋	1卵(ミズナラ)	25-XI-1984	広畑政巳	
佐用町日名倉山	1♂	4-VII-1971	喜多舒彦	1)
日高町稲葉三川山	1♂	17-VII-1993	大東康人	7)
〃 三川山	4♂	16-VII-1984	福井丈嗣	6)
〃 金屋	8卵	14-III-1976	若林・高田	1)

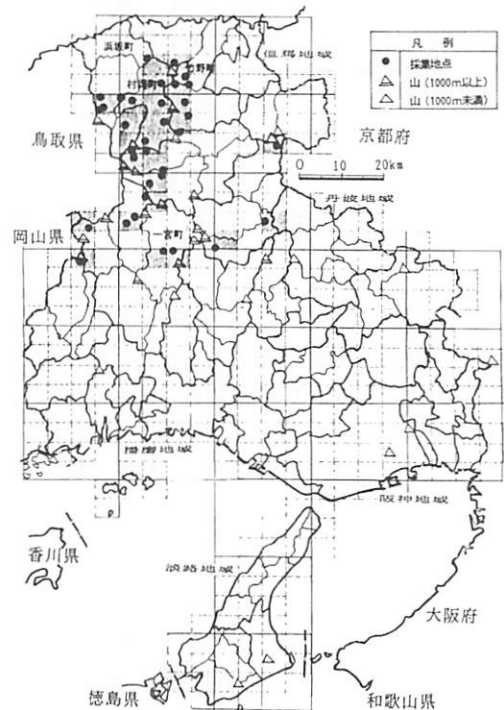


図5 ジョウザンミドリシジミの県内分布

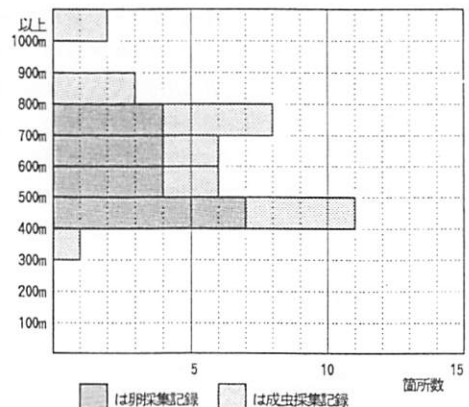


表5 ジョウザンミドリシジミの垂直分布

日高町名色林道(蘇武岳) 5♂

8-VII-1979 木下賢司 6)

竹野町三原 2卵 18-XII-1977 高田忠彦 1)

" 水山 2)

香住町三川 5卵 11-IV-1977 高田・井手 1)

温泉町海上林道 4卵(ミズナラ)

6-IX-1981 近藤伸一

" 上山 1♂ 8-VII-1984 黒井和之 6)

" 美原高原 2卵 3-XI-1978 徳岡正己

" 小ゾッコ 2♂ 29-VI-1991 永畑嘉之 20)

村岡町小城 2卵(ミズナラ)

27-III-1983 近藤伸一

" 耀山 1♂ 30-VI-1984 木下賢司 6)

" 大笹 5♂ 9-VII-1984 木下賢司 6)

" 祖岡 1♂ 19-VI-1983 黒井和之 6)

" 村岡 2卵 29-XI-1978 高田忠彦 1)

美方町善滝 2卵 29-XI-1977 高田忠彦 1)

" 熱田 5卵 10-IV-1977 高田・井手 1)

" 19卵(ミズナラ、ウラジロガシ)

30-X-1983 勝屋 潤 42)

浜坂町本谷 3♂3♀ 25-VI-1993 永畑嘉之 36)

生野町栃原 2卵(ミズナラ)

23-XI-1982 広畑政巳

" 黒川 2卵 24-III-1985 入江照夫 13)

和田山町糸井溪谷 1♂ 29-VI-1975 喜多舒彦 1)

大屋町横行 4卵 2-XII-1984 広畑政巳

" 天滝 2♂ 27-VI-1989 高島 昭

" 杉ヶ沢高原 1♂1♀ 2-VII-1994 大東康人

関宮町氷ノ山 1♀ 4-VII-1972 木下賢司 6)

" 別宮 4卵 20-XI-1977 高田忠彦 1)

" 杉ヶ沢 1♂ 27-VI-1977 高田・井手 1)

" 福定 2♂ 14-VII-1991 永畑嘉之 7)

" 大久保 16卵 5-XI-1978 徳岡正己

" 鉢高原 1♂ 12-VII-1992 永畑嘉之 7)

八鹿町妙見 2卵 14-X-1977 高田・井手 1)

6 エゾミドリシジミ

(1) 分布の状況

ミズナラ、コナラ、クヌギ、アベマキを食樹として、北海道、本州に分布し、ジョウザンミドリ

シジミと同様に本州南西部では山地性となり、産地は限られる。県下の分布は図6のとおり但馬西部の氷ノ山・鉢伏山・扇ノ山及び妙見山・蘇武岳・三川山山系と西部の床尾山及び播州高原に生息している。香住町三川が北限の生息地で、生野町栃原が南限である。

近年県南西部に近接した大阪府能勢町で生息が確認されており^{8,21)}、同様の環境をもつ篠山町、猪名川町での生息の可能性が高い。

(2) 生息環境の現況

標高300mから900mのミズナラ林が主な生息地であるが、成虫は100mから1,000m以上までみられ、標高に対する適応力は意外にありそうである。卵はほとんどがミズナラから見つかったているが、大阪府ではコナラを食樹としているようであり、県内でもコナラを食樹としている可能性は高い。ウラジロガシから卵が採集された記録がある。

(3) 採集記録

一宮町草木 1卵 徳岡正己
波賀町赤西溪谷 3卵 3-XI-1977 白井祐一 1)
" 戸倉 4♂ 25-VI-1991 高島 昭
日高町金屋 3齢幼虫 5-V-1976 高田・井手 1)
" 名色林道 2♂2♀ 3-VII-1978 木下賢司 6)
" 三川山(稲葉林道) 2♂
16-VII-1984 木下賢司 6)
" 山宮(大岡山) 2♂
15-VI-1983 前平照雄 6)
" 栃本 2)
竹野町水山 2)
香住町三川 1卵 11-IV-1977 高田・井手 1)
出石町奥山 2♂ 28-VI-1984 木下賢司 6)
" 東床ノ尾山 1♀ 26-VI-1978 木下賢司 6)
" 桐野 2♂ 18-VI-1983 高島 昭
温泉町上山高原 1卵 6-IX-1981 木村三郎
" 上山 4♂3♀ 26-VI-1983 黒井和之 6)
" 菅原 1♂ 10-VII-1983 黒井和之 6)
" 海上 10卵 30-X-1977 高田・井手 1)
" 霧ヶ滝 1卵 14-IV-1991 永畑嘉之 19)
" 小ゾッコ 1♂1♀ 29-VI-1991 永畑嘉之 20)

- 美方町熱田 5卵 5-IV-1976 高田・井手 1)
 // 秋岡小代溪谷 3卵(ウラジロガシ)
 7-X-1992 吉富章雄 38)
 村岡町村岡 6卵 29-XI-1977 高田忠彦 1)
 // 小城 3卵 27-III-1983 近藤伸一
 // 耀山 1♂2♀ 14-VII-1978 木下賢司 6)



図6 エゾミドリシジミの県内分布

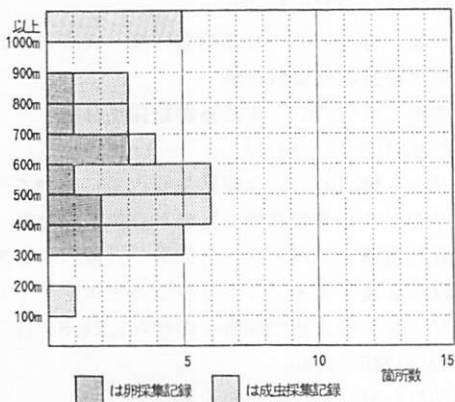


図6 エゾミドリシジミの垂直分布

- 村岡町大笹 1♂ 30-VI-1984 福井丈嗣 6)
 // 村岡坂中 1♂ 9-VII-1993 永畑嘉之 7)
 和田山町糸井溪谷 5♂ 1-VII-1975 高田・井手 1)
 // 竹ノ内 2♂ 21-VI-1977 木下賢司 6)
 生野町栃原 3♂ 13-VII-1980 近藤伸一
 // 段ヶ峰 1♂ 18-VII-1967 尾崎 勇
 関宮町須賀ノ山 12♂ 3-VII-1977 高田忠彦 1)
 // 氷ノ山東尾根 1♀ 23-VII-1991 永畑嘉之 7)
 // 福定 1♂ 8-VII-1992 永畑嘉之 7)
 // 大久保 7卵 5-XI-1978 徳岡正己
 // 鉢高原 1♂ 7-VII-1993 永畑嘉之 7)
 // 鉢伏山 1♀ 23-VII-1964 大東康人 7)
 大屋町横河 5卵(ミズナラ) 2-XII-1984 広畑政巳
 // 杉ヶ沢 1♂ 20-VI-1965 木下賢司 6)

<参考文献>

- 高田忠彦・井手敏晴(1978) 兵庫県産蝶類調査報告 MDKニュース(28):79:27~35
- 蝶研出版編集部(1989) スーパー採卵術 蝶研出版(茨木市)
- 西 隆広(1984) 芦屋市の蝶 てんとうむし(9):28-38
- 三木 進(1979) 六甲山系(西部)の蝶 きべりはむし 7(1):2~7
- 尾崎 勇(1984) 兵庫県産の蝶相(2) 揖保川水系の蝶相 ひろおび(7):16~22
- 木下賢司・前平照雄・福井丈嗣(1986) 但馬地域の蝶類目録 IRATSUME(10):55~95
- 木下賢司ほか(1996) 但馬地域の産蝶目録 II IRATSUME(20):66~86
- 登日邦明(1974) 淡路島の蝶相(2) 佳香蝶26(99):25~32
- 尾崎 勇(1982) 一宮町で採集したゼフィルス数種の記録 ひろおび(6):38
- 岩村 巖(1980) 西播の蝶分布資料(7) 山崎の蝶類 ひろおび(5):2~9
- 相坂耕作(1980) 姫路市の昆虫 てんとうむし(6):10~20
- 広畑政巳(1994) 市川町で採集したゼフィルス数種の記録 姫昆サロンニュース(100):29
- 入江照夫(1989) 早春に生野町で採集した蝶

- ひろおび(8):27
- 14) 相坂耕作(1981) 夜間灯火に飛来した蝶
てんとうむし(7):19
- 15) 広畑政巳(1989) 兵庫県の蝶雑記(2)
ひろおび(8):14
- 16) 山本広一(1971) 兵庫県の蝶相 月刊むし
(3):2~10
- 17) 広畑政巳(1987) 兵庫県に於けるミドリシ
ジミ類3種の雌の斑紋について てんとうむし
(10):62~65
- 18) 若木隆幸(1982) 夏季採集大会報告
ひろおび(6):39
- 19) 永畑嘉之(1992) 霧ヶ滝その後 因幡のむし
(27):36~37
- 20) 永畑嘉之(1992) 夏の訪れ—兵庫の屋根・奥
但馬にて 因幡のむし (27):50~53
- 21) 蝶類年鑑出版部(1991) 蝶類年鑑1990
蝶研出版(茨木市)
- 22) 大阪昆虫同好会編(1989) 北摂の蝶 大阪昆
虫同好会(宝塚市)
- 23) 蝶研出版編集部(1991) 1991年蝶類採集情報
蝶研サロン(48):156
- 24) 永畑嘉之(1993) 三木市内における蝶の採集
記録 きべりはむし 20(1):10~22
- 25) 小坂利明(1994) 猪名川流域の蝶 詩画工房
・大阪
- 26) 加藤昌宏・武衛晴彦(1981) 神戸の蝶 神戸
市立教育研究所 神戸市
- 27) 但馬むしの会(1992) 1992年採卵情報
昆虫ずかん(32):7
- 28) 永畑嘉之(1995) 西日本でカシワを食樹とし
ているウラジロミドリシジミの記録 IRATSUME
(19):4~10
- 29) 田中 蕃(1980) 森の蝶ゼフィルス 築地書
店・東京
- 30) 蝶研出版編集部(1997) 1997年蝶類採集情報
蝶研サロン(123):32
- 31) 京都大学蝶類研究会(1987) 日本産蝶類239
種類の記録(上) SPINDA(29):2~40
- 32) 蝶研出版編集部(1992) 1992年蝶類採集情報
蝶研サロン(64):20~24
- 33) 近藤高明(1994) オオミドリシジミの異常型
蝶研フィールド 9(9):27
- 34) 永幡嘉之(1995) 但馬の蝶3題 IRATSUME
(19):1~3
- 35) 木下修一(1997) 黒川の蝶 きべりはむし25
(1):40~44
- 36) 永幡嘉之(1994) 浜坂町九斗山のゼフィルス
の記録 IRATSUME(18):43
- 37) 蝶研出版編集部(1996) 蝶類採集情報・総集
編 蝶研出版・茨木市
- 38) 吉富章雄(1994) ウラジロガシより4種のゼ
フィルスを採卵 西風通信(5):30
- 39) 蝶研出版編集部(1992) 蝶類年鑑1989
蝶研出版・茨木市
- 40) 宝塚市教育委員会(1992) 宝塚の昆虫類 I
- 41) 小倉 滋・高橋久夫(1978) 三木市内の蝶に
ついて きべりはむし 6(1/2):8~16
- 42) 勝屋 潤(1984) 兵庫県ゼフィルス採卵紀行
(1) きべりはむし 12(1):15-19
- 43) 勝屋 潤(1984) 兵庫県ゼフィルス採卵紀行
(2) きべりはむし 12(2):49-52
- 44) 猪股涼一・岡本 清(1960) 多可西脇地方の
昆虫 兵庫生物 4(1):24-28
- 45) 岩村 巖・中谷貴寿(1960) 佐用郡北部に蝶
を採集して 兵庫生物 4(1):36-60
- 46) 山本広一・吉坂道雄(1959) 兵庫県蝶類目録
(2) 兵庫生物 3(5):358-364
- 48) 蝶研出版編集部(1997) 蝶類採集情報
蝶研サロン(124):14-22
- 49) 日浦 勇(1970) 日本列島の蝶 大阪市立自
然史博物館収蔵資料目録
- 50) 浅田 卓(1978) 淡路島蝶類採集目録
PARNASSIUS(19):16-18
- 51) 井上 健(1972) 兵庫県生野牧場において8
月下旬ゼフを多数採集 昆虫と自然 7(4):36
- 52) 森地重博・宇津木信一(1995) 大阪府から未
記録の2種 アイノミドリシジミとエゾミドリ
シジミを北摂山地で採集 のせVol. 24, No. 15
(262):1745~1746.
(HIROHATA MASAMI 姫路市白鳥台3-11-8)
(KONDO SHINICHI 神戸市西区岩岡町岩岡619-57)

兵庫県産ゾウムシに関する文献目録(1)・

高橋 寿郎

I. はじめに

兵庫県産ゾウムシ類についての文献類をここにまとめてみる。何分にも貧弱な所有文献からのものであるから、多くの重要な文献類の見落としや脱落があるものと思われる。それ等について御教示頂くことができれば幸いである。ここに収録した文献については、多くの方々から得たものがある。いちいち御芳名は記さないが、厚く御礼申しあげさせて頂く。かなり長くなるので分割発表させて頂く。

II. 凡 例

1. 兵庫県のゾウムシ類について記述のある印刷物は、内容、体裁にかかわらず同一に扱った。
2. 記述は著者名(発表年)、表題、誌名、巻(号) : 頁の順におこなった。単行本は書名を「」でくくり、発行所を()に併記した。
3. 配列は発表年月日順とした。この目録はそのまま兵庫県産のゾウムシ類研究史となる。
4. すべての文献に種名を中心とした抄録を付し、今後の基礎資料となるようにした(学名の必要あるものには学名も入れた)。
5. ここにとりあげたゾウムシ類とは、ヒゲナガゾウムシ科、オトシブミ科、チョッキリゾウムシ科、ミツギリゾウムシ科、ホソクチゾウムシ科、ゾウムシ科、オサゾウムシ科の7科に所属する甲虫類であることを承知頂きたい。
6. 学名、和名は原則として日本産昆虫総目録、1989に依拠した。
7. 直接見ることの出来なかった文献には*印を付してある。
8. 収録文献は、1996年末迄出版のものとした。

III. 文献目録

1. WOLLASTON, T. V. (1873) On the Cossonidae of Japan.

Trans. ent. Soc. London, Part. I : 5-43.

兵庫県の甲虫相の研究は、G. Lewis の5年間の日本滞在中の採集品の結果を、ヨーロッパの各専門家が発表されはじめたと同時にはじまる。G. Lewis は兵庫にて多くの甲虫を採集しているので、この一連の研究は大変多い。そのうち、1873年に発表された数篇の研究論文が兵庫県産甲虫類の初めての研究と考えられる。

本論文は、G. Lewis の採集による日本産キクイゾウムシ類の研究論文である。独立の科として扱っているが、現在ゾウムシ科の亜科として取り扱われている(中にオサゾウムシ科のものも含まれている)。

この論文で12新属、18新種の記載があり、兵庫県産として次の7新種の記載がある。兵庫県産ゾウムシについて一番はじめての文献になる。

- p. 11. *Tetratennus sculpturatus* WOLLASTON = *Dryophthorus*. キクイサビゾウムシ(オサゾウムシ科), Hiogo.
- p. 21. *Coprodema calandraeformis* WOLLASTON アトキリキクイゾウムシ, Hiogo. 兵庫の運河近くの落葉樹より得たとある。
- p. 23. *Exodema sublutosa* WOLLASTON, Hiogo. 前記種によく似た種のようなのである。上記2種はその後の記録がない。
- p. 26. *Phloeophagosoma curvirostre* WOLLASTON = *Phloeophagosoma* (*Amorphorhynchus*) ワシバナヒメキクイゾウムシ, Hiogo.
- p. 34. *Macrorrhyncholus crassiusculus* WOLLASTON マツオオキクイゾウムシ, Hiogo.

* 兵庫県甲虫相資料・333

p. 38. *Hexarthrum brevicorne* WOLLASTON ムツヒゲ
キクイゾウムシ, Hiogo.

p. 42. *Stenoscelis gracilitarsis* WOLLASTON マツクチ
ブトキクイゾウムシ, Hiogo.

2. ROELOFS, W. (1873) *Curculionidus recueil-*
lus au Japon par M. G. Lewis.
Ann. Soc. Ent. Belg., XVI : 154-192, pl. II,
III.

G. LEWIS の採集した日本産ゾウムシ科の分類学
的研究論文であり, 27属54種の記録である。その
中で12新属, 45新種の記載がある。

兵庫県産は次の4新種が記載されている。

p. 159. *Scepticus insularis* ROELOFS クワヒヨウタ
ンゾウムシ Hiogo.

p. 178-179. *Molytus lewisi* ROELOFS = *Kliparus le-*
wisii (ROELOFS, 1873) ヒサゴアナアキノウム
シ Hiogo.

p. 183. *Larinus latissimus* ROELOFS ゴボウゾウム
シ Hiogo.

p. 186-187. *Lepyryus japonicus* ROELOFS フタキボ
シゾウムシ Hiogo.

3. ROELOFS, W. (1874) *Curculionides recueil-*
lius au Japon par M. G. Lewis.

Ann. Soc. Ent. Belg., XVII : 121-176.

G. LEWIS 採集になる日本産オトシブミ, ホソク
チゾウムシ, ゾウムシ科18属67種を記録されてい
る。そのうちで4新属, 62新種の記載がある。現
在の分類では学名を変えなくてはならないものが
多くある。兵庫県産は次のごとく全部新種記載で
あり, 属名は現在全部変わっている。

p. 131. *Apoderus longicornis* = *Paracynotrachelus*
ヒゲナガオトシブミ Hiogo.

p. 134-135. *Apoderus nitens* = *Cynotrachelus roelofsi*
(HAROLD, 1877) エゴヅルクビオトシブミ
Hiogo.

p. 139. *Attelabus (Euscelus ?) splendens* = *Euops*

(*Synaptopus*) *splendida* VOSS カシルリオトシブ
ミ Hiogo.

p. 140. *Attelabus politus* = *Euops (Synaptopus)* ケ
シルリオトシブミ Kobe.

p. 142-143. *Rhynchites ursulus* = *Mecorhis (Cyllo-*
rhynchites) ハイイロチョッキリ Yokohama et
Hiogo.

p. 147-148. *Rhynchites singularis* = *Involvulus*
(*Cartorhynchites*) マダラケブカチョッキリ
Hiogo.

4. ROELOFS, W. (1875) *Curculionides recueil-*
lis au Japon par M. G. Lewis.

Ann. Soc. Ent. Belg., XVIII : 149-188, pl. I
-III. Supplément : 189-193.

G. LEWIS 採集の日本産ゾウムシ科34属53種につ
いて分類学的研究論文であり, その中で10新属,
42新種の記載がある。現在の知見ではかなり学名
が変わる。

兵庫県産3新種の記載がある。

p151. *Alcides flavosignatus* = *Mecyslobus* キスジア
シナガゾウムシ Kobe.

p. 154-155. *Acicnemis suturatus* ナカスジカレキ
ゾウムシ Kobe.

p. 170-171. *Coelosternus (?) eretus* = *Cryptorrhyn-*
chus electus (ROELOFS, 1875) マダラクチカクシ
ゾウムシ Kobe.

5. E. V. HAROLD (1876) Bericht über eine Sen-
dung Coleopteren aus Hiogo.

Abhandl. Nat. Ver. Bremen V : 115-135.

T. LENZ の採集品に基づいて HAROLD が1875年
に発表した論文の第2報である。全部で49種記録
され, うち1新属3新種の記載がある。産は表題
のごとく Hiogo(神戸) である。ゾウムシは3種
記録されている(新種記載ではない)。

p. 133. 40. *Cleonus acutipennis* ROELOFS = *Lixus*
ハスジカツオゾウムシ

41. *Ectatorrhinus Adamsi* PASC. マダラアシノウムシ

42. *Alcides trifulidus* PASC. = *Mesalcidodes trifulidus* (PASCOS, 1870) オジロアシナガゾウムシ

6. HEYDEN, L. (1879) Die Coleopterologische Ausbeute des Prof. Dr. Rein in Japan 1874-1875.

Dout. Ent. Zeit., XXIII, Heft. II : 321-365.

本篇は Prof. Dr. REIN JOHAN, J. の日本での採集品のうち甲虫類のみを同定した報文である。

Dr. REIN は明治 8, 9 年の 2 年間東京ドイツ大使館の顧問として日本に滞在, その間漆器や陶磁器, 製紙等について調査する一方, 前後 6 回にわたり日本の本州, 四国, 九州を丹念に歩いて昆虫各目の採集をした。6 回の採集で 235 日を費やしていると。そのうち 2 回神戸での採集があるが, いずれも時期が良く, 6, 7, 8 月の昆虫最盛期を神戸で採集されたので, この報文に報ぜられた日本産甲虫類 152 種のうち兵庫(神戸)からの記録は 66 種で一番多く記録されている(尤も LEWIS などの記録もふくんでいる)。ゾウムシは 3 種が Hiogo から記録されている。

p. 356. 112. *Alcides trifulidus* PASCOS = *Mesalcidodes*, オジロアシナガゾウムシ Ein Ex. von Hiogo.

113. *Ectatorrhinus Adamsi* PASCOS マダラアシノウムシ 3 Expl. von Dr. REIN bei Hiogo = *Ectatorrhinus adamsii* PASCOS

115. *Sipalus gigas* FABRICIUS オオゾウムシ

7. SCHONFELDT, H. V. (1887) Catalog der Coleoptern von Japan mit Angabe der bezüglichen Beschreibungen und der sicher bekannten Fundorte.

Jahrb. d. nass. Ver. f. Naturkunde 40 : 31-204.

1887 年迄に日本から記録された甲虫類のリストで, 原記載名も一緒に示してある。この目録での

新種記載というのではない。記録された種が現在の知見では学名が変わらなくてはいけないもの, 整理してシノニムで消えるもの等もある。

Hiogo, Kobe の産地の書かれているものは 466 種ある。ゾウムシ関係で Hiogo, Kobe の産地を示されている種は 31 種ある。そのうち学名が変わるものだけ次に示しておく。

p. 142. シロコブゾウムシ *Episomus turritus* SCHÖNH. = *Episomus turritus* (GYLLENHAL, 1883).

p. 144. ハスジカツオゾウムシ *Cleonus* = *Lixus*.

p. 146. *Attelabus longicornis* ROEL. = *Paratrachelophorus* ヒゲナガオトシブミ.

Attelabus nitens ROEL. = ヒメクロオトシブミ

Apodera erythrogaster VOLLNHOVEN, 1865.

Attelabus tigrinus ROEL. = ゴマダラオトシブミ

Paraplapoderus pardalis (VOLLNHOVEN, 1865).

Cyphus politus ROEL. = ケシルリオトシブミ *Euops* (*Synaptops*) *polita* (ROELOFS, 1874).

p. 147. *Cyphus splendens* ROEL. = カシルリオトシブミ *Euops* (*Synaptops*) *splendida* VOSS, 1927.

Rhynchites singularis ROEL. = マダラケブカチヨッキリ *Involvulus* (*Cartorhynchites*) *singularis* (ROELOFS, 1874).

Rhynchites ursulus ROEL. = ハイイロチヨッキリ *Mechoris* (*Cyllorhynchites*).

Byctiscus lacunipennis JEKEL = ブドウハマキチヨッキリ *Byctiscus* (*Aspidobyctiscus*).

p. 149. *Alcides flavosignatus* ROEL. = キスジアシナガゾウムシ *Mecyslobus*.

Alcides trifulidus PASC. = オジロアシナガゾウムシ *Mesalcidodes*.

p. 151. *Coelosternus electus* ROEL. = マダラクチカクシノウムシ *Cryptorrhynchus*.

p. 152. *Calandra oryzae* L. = ココクゾウムシ *Sitophilus*.

p. 153. *Sipalus gigas* FABR. = オオゾウムシ *Sipalinus*.

8. SCHONFELDT, H. V. (1888) Catalog der Coleop-

teren von Japan Erster Nachtrag

Jahrb. d. nass. Ver. f. Naturhunde 41:44-49.

1887年の日本産甲虫目録には2,702種を収録されたが、今回はじめての追補として53種を記録、日本産甲虫類は2,754種になったとしている。

Hiogo, Kobe 等兵庫からの記録は11種あるがゾウムシとしては1種のみ *Lixus amurensis* FAUST det. Ex. Coll. V. SCHÖNF. Hiogo というのがある。カツオゾウムシ属の種だと思うのだがよくわからなかった。

9. SHARP, D. (1889) The Rhynchophorus Coleoptera of Japan Part. I. Attelabidae and Rhynchidae.

Trans. ent. Soc. London, Part. I:41-74.

日本産オトシブミ、チョッキリ科39種の分類学的研究論文で、1新属、12新種の記載がある。兵庫県産は1新種の記載がある。

p. 70. *Eugnamptus flavipes* SHARP = *Eugnamptus* (*Eugnamptobius*) キアシホソチョッキリ Kobe and Fukushima in July 1881, two specimens.

10. SHARP, D. (1891) The Rhynchophorous Coleoptera of Japan Part. II. Apionidae and Anthribid.

Trans. ent. Soc. London, Part. I:293-328.

日本産ホソクチゾウムシ、ヒゲナガゾウムシ科64種についての分類学的研究論文で、その中で7新属、50新種の記載がある。

兵庫(神戸)産として次の3新種が記載されている。

p. 304-305. *Tropideres germanus* SHARP = *Tropideres naevulus* FAUST, 1887 キマダラヒゲナガゾウムシ the types were found at the Moon Temple, Kobé.

p. 319. *Anthribus daimio* SHARP = *Platystomus sellatus* ROELOFS シロヒゲナガゾウムシ Kobe

in July.

p. 323. *Araecerus tarsalis* SHARP = *Aracerus* アカアシヒゲナガゾウムシ at Kobé in August, 1871.

11. SCHÖNFELDT, H. V. (1891) Catalog der Coleopteren von Japan Zweiter Nachtrag

Jahrb. d. nass. Ver. f. Nat. 44:239-274.

日本産甲虫目録第2追補である。前回迄に日本産甲虫として2,754種記録したが、今回512種を追加、7種を整理して日本産甲虫として3,259種を記録したことになる。

Hiogo, Kobe 等兵庫県産のものは、本報文で31種記録された。勿論現在の知見では学名の変わるものも多くある。ゾウムシ関係は5種記録されている。

p. 266. *Rhamphus flavicornis* CLAIRVILL ? = リンゴミノゾウムシ *Rhamphus pulicarius* (HERBST, 1795)

p. 267. *Tropideres germanus* SHARP = キマダラヒゲナガゾウムシ *T. naevulus* FAUST, 1887.

p. 268. *Anthribus daimio* SHARP = シロヒゲナガゾウムシ *Platystomus sellatus* (ROELOFS, 1879). *Araecerus tarsalis* SHARP = アカアシヒゲナガゾウムシ *Araecerus*.

12. SHARP, D. (1896) The Rhynchophorus Coleoptera of Japan. Part. IV. Otiorhynchidae and Sisonidae, and a genus of doubtful species from the Kurile Islands.

Trans. ent. Soc. London, Part. I:81-115.

日本産64種のゾウムシ類をふくんだ論文である。この中で7新属20新種の記載がある。兵庫県から一種のみ記録されている。

p. 85. *Copanopachys griseus* ROELOFS は ROELOFS が1873年に発表された *Piazomias griseus* と命名された種であるが、現在では *Scepticus griseus* (ROELOFS) サビヒョウタンゾウムシとされている。

る。Kobe.

13. 大上宇一(1901) 播磨産象虫科略報

動物学雑誌 13(155):289-292.

冒頭に“今是を報知せんとするも参考書なきため一々学名を記入すること能はざるは遺憾なり。和名も松村氏の昆虫書に採りたる外深く他書を見ず。昆虫学(松村氏)異説多く其分別に苦しむ者少なからず。和名も学名も知られざる者は止むを得ず傍若無人的和名を下せり。他書に正確の和名もあれば御教示あらんことを”とのべている。標本も現存してなくて、この報文のみで現在でのどの種を意味するのかわからないものがほとんどである。学名のある種のみ検討してみる。初めにマメゾウムシ科が2種出ているが、これらは和名からしてアズキマメゾウムシ、エンドウゾウムシと考えられる。

オトシブミ科は3種、オトシブミ、ヒメクロオトシブミ、ムツモンオトシブミ。

チョッキリゾウムシ科1種。カシルリチョッキリゾウムシ科6種。リンゴコフキノウムシ、クワヒメゾウムシ、イネゾウムシ、コボウゾウムシ、オオコボウゾウムシ、シロコブゾウムシ。

オサゾウムシ科2種。オオゾウムシ、コクゾウムシ。

14. 大上宇一(1902) 播磨産甲虫類報知(2)。

動物学雑誌 14(169):409-414.

上記表題のもとに p. 410, 269-p. 413, 287 まで18種(うちマメゾウムシ科2種をふくむ)のオトシブミ科3種、ゾウムシ科13種がふくまれている。今回のものは学名が一切使用されていなく、和名のみの説明にてこの報文にて的確に現在の種名を示すことは無理がある。

15. 大上宇一(1907) 播磨産甲虫類(承前)

昆虫世界 11(118):243-245.

今回の一連の報告は、Lewis の日本甲虫目録、

松村松年博士日本千虫図解及び日本昆虫学、動物学雑誌、昆虫世界等を参考にしたとあり、一応 Lewis の甲虫目録の番号をつけ学名が入っている(ゾウムシ類ではこの番号が入っていない)、現在のどの種にあたるのかといったことはある程度わかる(順が入れ替わるが)。記録されている種を次に示す。

一番最後のところで偽象鼻虫科 *Anthribidae* となっているが、これはヒゲナガゾウムシ科のことであり、245. ゾウムシモドキ *Litocerus rufescens* RoE. と記録されているものはアカミヒゲナガゾウムシ *Litocerus securus* (Boheman, 1939) のことである。

チョッキリゾウムシ科は1種記録されている。

234. チョッキリムシ *Rnychites heros* RoEL. = *Rhynchites (Epirhynchites) heros* Roelofs, 1874
モモチョッキリ。

オトシブミ科は7種記録されている。

227. ヒメオトシブミ *Apoderus rufiventris* 和名からヒメクロオトシブミ *Apoderus (Compsapoderus) erythrogaster* Snellen van Vollenhoven, 1865 と考える。

228. オトシブミ *Apoderus jekeli* RoEL. = オトシブミ *Apoderus (Apoderus) jekelii* Roelofs, 1874.

229. ツルクビオトシブミ *Apoderus rufescens* RoE. = ウスアカオトシブミ *Apoderus (Leptapoderus) rubidus* Motschulsky, 1860.

230. ハマキオトシブミ *Apoderus rufiventris* RoE. = ヒメクロオトシブミ *Apoderus (Compsapoderus) erythrogaster* Vollenhoven, 1865.

231. クロホシオトシブミ *Apoderus tuberculatus* Harold = ゴマダラオトシブミ *Paroplapoderus (Agomadaranus) vanvolxemi* (Roelofs, 1865).

232. クロヒメオトシブミ *Apoderus nitens* RoE. = ヒメクロオトシブミ *Apoderus (Campsapoderus) erythrogaster* Vollenhoven, 1865.

233. キヒメオトシブミ *Apoderus tigrinus* RoE. = ゴマダラオトシブミ *Paroplapoderus (Agomada-*

- mus*) *pardalis* (SNELLEN VAN VOLLENHOVEN, 1865).
- ゾウムシ科は12種記録されている。
223. マツザウムシ *Curculio abietis* L. この種はわからない。
224. コフキノウムシ。
225. リンゴゾウムシ *Phyllobius argentatus* L. = リンゴコフキノウムシ *Phyllobius* (*Odontophyllobius*) *armatus* ROELOFS, 1879.
226. カシハゾウムシ *Phyllobius japonicus* FAUST. = ヒメヒゲボソゾウムシ *Phyllobius* (*Phyllobius*) *japonicus* FAUST, 1889.
235. シギムシ *Balanus dentipea* ROEL. = コナラシギゾウムシ *Curculio dentipes* (ROELOFS, 1873).
236. シギムシ1種 (*B. sp. ?*) = シギゾウムシの1種 *Curculio sp.*
239. イネゾウムシ *Echinocnemus bipunctatus* ROEL. = *Echinocnemus squameus* (BILLBERG, 1820).
240. ムシグサザウムシ (*Gymnetron sp. ?*) 種名わからない。
241. ゴボウザウムシ *Larinus griseopilosus* ROEL. = ゴボウゾウムシ *Larinus latissimus* ROELOFS, 1873.
242. アイノコグロザウムシ *Centorhynchus asper* ROEL. = タデサルゾウムシ *Homorosoma asper* (ROELOFS, 1875).
243. アイノザウムシ *Lixus impressiventris* ROEL. = カツオゾウムシ *Lixus impressiventris* ROELOFS, 1873.
244. アラゾウムシ *Chlorophanus grandis* ROEL. ? = オオアオゾウムシ *Chlorophanus grandis* ROELOFS, 1873.
- オサゾウムシ科3種。
222. オホゾウムシ *Sibalis gigas* FAB. = オオゾウムシ *Sipalinus gigas* (FABRICIUS, 1775).
237. コクゾウムシ *Calandra oryzae* L. = ココクゾウムシ *Sitophilus oryzae* (LINNAEUS, 1796).
238. ナガコクザウ *Calandra elongata* ROE. = コササコクゾウムシ *Diocalandra elongata* (ROELOFS, 1875).
16. VOSS, E. (1926) Die Unter-familien Attelabine und Apoderinae Stett. Ent. Ztg., 87:1-96.
- 次の兵庫県産1新種の記載あり。
- p. 72-74. *Phymatopoderus pavens* VOSS ヒメコブオトシブミ, Harima.
17. KONO, H. (1930) Langrüssler aus dem Japanischen Reich. Ins. Mats., 4(4):145-162.
- 日本産ゾウムシ科の研究であるが、次の兵庫県産の記録あり。
- p. 155. *Dorytomus roelofsi* FAUST アカイネゾウモドキ Takasago, 1. VII. Dr. MATSUMURA leg.
18. KONO, H. (1930) Langrüssler aus dem Japanischen Reich (Schluss) Ins. Mats., 5(1/2):1-31.
- 兵庫県産次の記録あり。
- p. 14. *Balaninus funebris* ROELOFS = *Curculio* イヌビワシギゾウムシ Takasago, 1♂, Dr. MATSUMURA leg.
19. KONO, H. (1930) Kurzflüssler aus dem japanischen Reich. Jaur. Facul. Agr. Hokkaido Imp. Univ. 24 (5):153-237, 2pls.
- 日本産ゾウムシ科の研究である。兵庫県から次の記録種がふくまれる。
- p. 167. *Pseudocnorrhinus bifasciatus* ROELOFS スグリゾウムシ Takasago lex., X. 1909, Dr. MATSUMURA leg.
- p. 186. *Scepticus griseus* ROELOFS サビヒヨウタンゾウ Akashi lex., 11. VI. 1916, Dr. S. MATSUMURA leg.

p. 188-189. *Sympiezomias lewisi* ROELOFS ワモンヒ
ヨウタンゾウムシ Takasago, 9exs., IV. Dr.
MATSUMURA leg.

p. 199-200. *Episomus turritus* GYLLENHAL シロコブ
ゾウムシ Takasago, 1ex., 24. VII. 1907, Dr. S.
MATSUMURA leg.

20. 関 公一(1934) 御影町附近産の甲蟲目録
(其の四)

昆虫界 2(7):43.

この関によるシリーズではゾウムシ科は全くふ
くまれていない。本報にヒゲナガゾウムシ科の次
の2種の記録がある。

キノコヒゲナガゾウムシ *Caccorhinus oculus*
SHARP = *Euparius*.

シロヒゲナガゾウムシ *Anthribus daimio* LEWIS =
Platystenus sellatus (ROELOFS, 1879).

21. 足立輝一(1934) 生徒採集昆虫調査報告
少年昆虫界 1(2):30-33.

(昆虫界Vol. 2, No. 8に含まれている)

神戸一中の夏季宿題の採集品を調べた結果をま
とめたものである。注目すべき種についての解説
はついているが、データ等は全くない。

産地も恐らく神戸市中心だろうと思うが、詳し
くはわからない。ゾウムシ科はどうしたわけか貧
弱であり4種とあり、オオゾウムシが多くとれて
いたとある。

22. 神戸支部(1934) 布引・摩耶昆虫採集目録
兵庫県博物学会誌 (7):62-68.

故中林 湧次氏採集指導による布引・摩耶山に
兵庫県博物学会神戸支部の採集会(2. VII. 1933)を
実施したときの記録。甲虫は20種記録される。ゾ
ウムシとしては次の記録がある。

20. *Euops punctato-striata* MOTSCHULSKY ルリオト
シブミ = *Euops* (*Synaptops*).

21. *Phymatopoderus Pavens* VOSS. ヒメコブヲトシ

ブミ = ヒメコブオトシブミ *P. pavens* VOSS,
1927.

22. *Episomus turritus* GYLLENHAL シロコブゾウム
シ

23. *Alcides trifidus* PASCOE ラジロアシナガゾウム
シ = *Mesalcidodes trifidus* (PASCOE) オジロアシ
ナガゾウムシ.

24. *A. niponicus* KONO ? シロオビアシナガムシ =
シロオビアカアシナガゾウムシ *Mecysolobus*
nipponicus (KONO, 1930).

23. 戸澤信義(1936) 紫水遺稿 別巻

芝川家所蔵昆虫標本目録 A5. 333p.

芝川又之助氏のコレクション目録で、鈴木元次
郎、福貫正三、玉沢脩三郎氏に戸沢信義氏がまと
められたもので、全体からすれば2,380種が収録
されていることになる。産地の記入されていない
種もある。兵庫県産としての記録があるのは56種
であり、ゾウムシ類は僅かに3種しか記録されて
いない(1種はチョッキリゾウムシ科、学名の変
わるものもある)。

p. 47. 378. マダラアシノウ 御影 2exs., 11. VII.
1915.

p. 49. 490. マツシラホシノウ 須磨 1ex., 2exs.,
11. VII. 1915.

24. 植村利夫(1938) 淡路島及び鳴門公園の昆虫
昆虫界 6(48):159-163.

淡路島(洲本市先山)産の甲虫が6種記録されて
おり、うち1種がゾウムシである。即ち、ラジロ
ゾウムシ = オジロアシナガゾウムシ(属名が違っ
ている)。

25. 神戸博物同好会(1939) 神戸附近の昆虫・六
月

博物趣味 1(2):3.

ヒメクロオトシブミ(バラの葉に居る)の記録あ
り。

26. 神戸博物同好会(1939) 布引-摩耶ハイキングコースと昆虫採集

博物趣味 1(2):4-5.

市ヶ原(神戸市)にてアトジロザウムシ(オジロアシナガゾウムシ), シロコブゾウムシがいるとの記録あり.

27. 神戸博物同好会(1939) 布引-摩耶ハイキングコースと昆虫採集(其二)

博物趣味 1(3):4-6.

摩耶山山腹より青谷へヒメクロオトシブミの記録あり.

28. 宇野正芳(1939) ゴマダラオトシブミとオトシブミに就いて(1)

昆虫界 7(68):575-579.

兵庫県下での採集記録が出ている.

p. 578. *Apoderus jekeli* Roelofs オトシブミの新変種 var. *hiratai* Uno が和田山産標本(1♀, 12. VI. 1939, Uno leg.)で記載されている. 他に var. *sapporensis* Kono, 兵庫県和田山 3♂, 9♀, 25. VI, 28. VI, Uno leg. の記録もある.

29. 田中靖也(1939) 昆虫採集, 宝庫之鍵

Nature (神戸二中博物同好会誌) (9):1-27.

神戸鳥原貯水池畔にオーゾー = オオゾウムシ, シロコブゾウムシ = シロコブゾウムシ, カツオゾウムシ = カツオゾウムシ, ゴボーゾウムシ = ゴボウゾウムシ, ヒメゴボーゾウムシ = ゴボウゾウムシが多くいるとある.

30. 高橋寿郎(1940) 神戸再度山附近産の甲虫目録(4)

昆虫世界 44(513):144.

次のようにゾウムシ類を記録.

シロコブゾウムシ, オホアヲゾウムシ = オオアオゾウムシ, ヒメシロコブゾウムシ *Dermatexenus nodosus* Motschulsky = *D. caesicollis* (Gyll-

hal)., マダラアシゾウムシ, オホゾウムシ *Sipalus hypocrita* Boheman = オオゾウムシ *S. gigas* (Fabricius)., ラジロアシナガゾウムシ *Alcides trifidus* Pascoe = オジロアシナガゾウムシ *Mesalcidodes*., オホジロアシナガゾウムシ = ホホジロアシナガゾウムシ, コフキノウムシ, オトシブミ, ゴマダラオトシブミ, アシナガオトシブミ, ヒメコブオトシブミ, ハスヂカツラザウムシ = ハスヂカツオゾウムシ.

31. 増田 猛・橋本直也, 1941. 「一中附近の昆虫」 A5. 39p. (孔版・単行本)

神戸一中(現神戸高校)付近産の蝶と甲虫の目録である. データは無い. 同定の誤りもあるようだ. 現在の知見から相当数の学名の変更などもある. ゾウムシ類は32種記録されている. 和名で示す(学名の必要あるものについて入れておいた).

1. フサスグリザウムシ *Pseudocneorrhinus bifasciatus* Roelofs = スグリゾウムシ.
2. クハヘウタンザウムシ *Scepticus insularis* Roelofs = クワヒョウタンゾウムシ.
3. ハスヂカツラザウムシ = ハスヂカツオゾウムシ.
4. カツラゾウムシ = カツオゾウムシ.
5. シロコブザウムシ.
6. ミヤマヒゲボソゾウムシ.
7. アナアキオオボソゾウムシ *Hylobius perforatus* Roelofs = *Dyscerus* 学名からすればオリーブアナアキゾウムシになる. 或いはガロアアナアキゾウムシかもしれない.
8. オホザウムシ *Sipalus hypocrita* Boheman = オオゾウムシ *Sipalinus gigas* (Fabricius).
9. マダラアシザウムシ = マダラアシゾウムシ.
10. マツオホザウムシ = マツアナアキゾウムシ.
11. コクザウムシ = ココクゾウムシ(学名からして).
12. ラジロアシナガゾウムシ *Alcides trifidus* Pascoe = *Mesalcidodes* オジロアシナガゾウムシ

13. マツキボシザウ = マツキボシゾウムシ.
 14. ホゞジロアシナガザウムシ = ホホジロアシナガゾウムシ.
 15. エゴシギザウムシ = エゴシギゾウムシ.
 16. クリシギザウムシ *Balaninus styracis* Roelofs = クリシギゾウムシ *Curculio sikkimensis* (HELLER).
 17. ツバキノシギザウムシ *Balaninus camelliae* Roelofs = ツバキシギゾウムシ *Curculio*.
 18. サルザウムシ *Ceutorhynchus asper* Roelofs = タデサルゾウムシ *Homorosoma*.
 19. コフキザウムシ = コフキゾウムシ.
 20. カシハクチブトザウムシ = カシワクチブトゾウムシ.
 21. ヨツボシヲサザウムシ *Sphenophorus carinicornis* Gyllenhal 稀な種なれども白い花に見られる. 学名, 和名からして *Sphenocorynes ocellatus* PASCOE, 1887 ヨツメオサゾウムシになるかと思われるが, 本種奄美以南産で本州に分布していないと考えられる.
 22. チャイロチョッキリザウムシ = チャイロチョッキリ.
 23. クチナガチョッキリザウムシ = クチナガチョッキリ.
 24. モヽチョッキリザウムシ = モモチョッキリ.
 25. ブタウハマキチョッキリ = ブドウハマキチョッキリ.
 26. ハイイロケナガチョッキリ *Phynchites* sp. = ハイイロチョッキリ *Mechoris ursulus* (ROELOFS).
 27. ヒメクロオトシブミ.
 28. オトシブミ.
 29. アシナガオトシブミ.
 30. ゴマダラオトシブミ.
 31. アカクビナガオトシブミ.
 32. カシルリオトシブミ.
32. 高橋寿郎(1943) 神有沿線甲虫相(六)
昆虫世界 47(548):10-11.

ヒゲナガゾウムシ科 1 種, ゾウムシ科(オトシブミ科も含む) 19 種記録している. ただし採集データはついていない.

Anthribidae

1. シロヒゲナガザウムシ *Anthribus daimio* Sharp = シロヒゲナガゾウムシ *Platystomos sellatus* (ROELOFS, 1879).

Curculionidae

1. シロコブザウムシ = シロコブゾウムシ
種名 *twortus* → *turritus*
2. オホアラザウムシ = オオアオゾウムシ
3. ヒメシロコブザウムシ *Dermatoxenus nodosus* Motschulsky = ヒメシロコブゾウムシ *D. caesicollis* (GYLLENHAL).
4. マダラアシザウムシ = マダラアシゾウムシ.
5. オホザウムシ *Sipalus hypocrita* Boheman = オオゾウムシ *S. gigas* (FABRICIUS).
6. ラジロアシナガザウムシ *Alcides trifidus* Pascoe = オジロアシナガゾウムシ *Mesalcidodes trifidus* PASCOE.
7. コフキザウムシ = コフキゾウムシ.
8. オホジロアシナガザウムシ *Alcides erro* = ホホジロアシナガゾウムシ *Mecysolobus erro*.
9. オトシブミ.
10. ゴマダラオトシブミ.
11. アシナガオトシブミ.
12. ヒメコブオトシブミ 種名 *pavenus* = *pavens*.
13. ハスヂカツヲザウムシ = ハスジカツオゾウムシ.
14. ヨツボシザウ *Sphenophorus carinicornis* Gyllenhal 学名からしてヨツメオサゾウムシになり本州には分布していない.
15. マツトビザウムシ = マツトビゾウムシ.
16. オホコバウザウムシ *Larimus griseopilosus* = シラクモゴボウゾウムシ *Laninus*.
17. シロホシヒメザウムシ = シラホシヒメゾウムシ.
18. エゴシギザウムシ *Balaninus styracis* Roelofs

- = エゴシギゾウムシ *Curculio*.
19. マツノシラホシザウ *Cryptorrhynchus insidiosus* Roelofs = マツノシラホシゾウムシ *Shirahoshizo*.
33. 橋口繁一・橋本一廣・山田重次(1950) 「有馬郡生物誌(鞘翅目, pp. 117-124)」
(兵庫県立有馬高等学校普通科生物教室刊)
詳しいデータが無く単なる目録のみであり、注目すべき種名も出ているが、同定について問題もありそうである。ゾウムシ類は14種記録されている。
- p. 122. ヒメクロオトシブミ *Apoderus nitens* Roelofs = *Apoderus erythrogaster* Vollenhoven. ウスアカオトシブミ, オトシブミ, ゴマダラオトシブミ, ブドウハマキチョッキリ, モモチョッキリゾウムシ = モモチョッキリ, クリシギゾウムシ *Curculio dentipes* Roelofs = *C. sikimensis* (Heller), マツキボシゾウムシ, イチゴハナゾウムシ, コクゾウムシ学名からしてコクゾウムシ, オオゾウムシ *Sipalus hypocrita* Boheman = *Sipalinus gigas* (Fabricius), シロコブゾウムシ, マダラハスジゾウムシ *Adosomus grorulus* Mannhi = コマダラハスジゾウムシ *A. melogrammus* (Motschulsky), アシナガゾウムシ学名からしてアシナガオトシブミ。
34. 田口勝夫(1952) 昆虫の趨光性(螢光灯と昆虫)(1) 兵庫生物 2(1):25-26.
神戸市立妙法寺小学校自然教育学習園でおこなった昆虫の夜間採集のうち, 8, 9, 10, 11月の各月を代表する4日間の詳しい採集データが示されている。多数の甲虫類の記録がある中で, ゴボウゾウムシが9月4~5日にかけてP.M. 9.00 1ex. 12.30 1ex. A.M. 4.00 1ex. と3頭が螢光灯に飛来した記録がある。
35. 山本義丸(1952) 郷土・氷上郡の昆虫相につ

- いて Natura (7):8-13.
概略的にのべられていて個々の種についての解説はあまりないが, オウシロオビゾウムシ = オオシロオビゾウムシがこの地域に産することが出ている。
36. 岩田久二雄・奥谷禎一・永富 昭・中根猛彦(1953) 氷の山の昆虫
兵庫生物 2(3):121-125.
甲虫類については中根猛彦博士により9種について解説ならびに96種の目録が出ている。ヒゲナガゾウムシ科1種, ゾウムシ科として7種が記録されているが, チョッキリゾウムシ科2種, オトシブミ科が5種である。
Tropideres germanus Sharp が記録されているが, これはキマダラヒゲナガゾウムシ *T. naevulus* Faust, 1887 になると思われる。チャイロチョッキリ, クチナガチョッキリ *Rhynchites* = *Involvulus*, ヒメクロオトシブミ, セアカオトシブミ, ウスアカオトシブミ, ムツモンオトシブミ, ヒゲナガオトシブミ。
37. 村山醸造(1953) 松類穿孔虫防除に関する研究。文部省科学試験研究報告 No. 6:1-112.
兵庫県養父郡建屋村内の赤松林・実験林内で採集した昆虫目録の中に次のゾウムシの記録あり。
77. ヒメクロオトシブミ *Apoderus nitens* Roelofs = エゴツルクビオトシブミ *Cycnotrachelus roelofsi* (Harold).
78. オオゾウムシ *Sipalus hypocrita* Boheman = *S. gigas* (Fabricius).
79. マツシラホシゾウムシ *Cryptorrhynchidius insidiosus* Roelofs = *Shirahoshizo* マツノシラホシゾウムシ。
80. マツノキボシゾウムシ。
81. アナアキゾウムシの1種。

(I. 1997)

(TAKAHASHI TOSHIO 神戸市兵庫区氷室町1-44)

兵庫県産水棲甲虫目録(2)*

高橋 寿郎

Family *Gyrinidae* ミズスマシ科Subfamily *Enhydrinae* オオミズスマシ亜科1. *Dineutus orientalis* (MODEER, 1776)

オオミズスマシ

止水域に普通。

産地。洲本市先山[久松, 1973]。川辺郡猪名川町内馬場[仲田, 1982]。川西市見野, 大和[仲田, 1978, 1982]。宝塚市売布が丘, 大原野[芦田, 1992]。神戸市御影[関, 1933]。二十渉(1ex., 26. VI. 1955), 烏原(2exs., 2. VI. 1957), 山の街(17exs., 5. V. 1955, etc.), 藍那(3exs., 29. V. 1978, etc.), 白川(1ex., 23. IX. 1956), 多井畑(11exs., 21. VII. 1955), 広野(1ex., 15. IV. 1956, etc.), 谷上(1ex., 17. IX. 1979), 妙法寺(1ex., 23. VI. 1979), 木津(2exs., 2. VI. 1984), 垂水(1ex., 10. V. 1985), 伊川谷前開(1ex., 19. V. 1988)。高砂市高砂[TAKIZAWA, 1931]。三木市細川中(3exs., 13. IX. 1985)。美囊郡吉川町(1ex., 24. V. 1985, etc.)。小野市山田(1ex., 8. VII. 1987, etc.), 来住(7exs., 26. VI. 1991)。加西市畑(1ex., 27. VII. 1974)。氷上郡[山本, 1952, 1958]。出石郡但東町口藤[高橋, 1963]。

Subfamily *Orectochilinae* オナガミズスマシ亜科2. *Orectochilus agilis* SHARP, 1884

ツマキレオナガミズスマシ

産地。川辺郡猪名川畔[神谷, 1933, 大倉, 1955, 中根, 1987]

オナガミズスマシ属(*Orectochilus*)の3種の県下の産出状況はよくわからない。もっと調べる必要がありそうである。

3. *Orectochilus punctipennis* SHARP, 1884

コオナガミズスマシ

産地。川辺郡猪名川畔[神谷, 1933]

4. *Orectochilus regimbarti regimbarti* SHARP, 1884

オナガミズスマシ

産地。川西市笹部[仲田, 1982]。氷上郡神楽[山本, 1952, 1958]。

Subfamily *Gyrininae* ミズスマシ亜科5. *Gyrinus curtus* MOTSCHULSKY, 1866

コミズスマシ

普通種。

産地。芦屋市(1ex., 16. III. 1958)。神戸市御影[関, 1933]。白川(1ex., 23. XI. 1956), 垂水(2exs., 10. V. 1985), 北区八多町屏風(1ex., 4. VI. 1993, etc.)。加西市畑(1ex., 29. VI. 1974)。加西市青野ヶ原(1ex., 19. III. 1972)。小野市来住町(4exs., 21. VI. 1991)。美囊郡吉川町(1ex., 21. V. 1992)。氷上郡[山本, 1952, 1958]。

6. *Gyrinus gestroi* RÉGIMBART, 1883

ヒメミズスマシ

普通種。

産地。洲本市三熊山[久松, 1974]。宝塚市(1ex., 22. IV. 1956)。神戸市山の街(1ex., 1. XI. 1956), 二十渉(8exs., 26. VI. 1955), 白川(12exs., 23. X. 1956), 藍那(2exs., 20. V. 1993)。高砂市高砂[TAKIZAWA, 1931]。三木市細川中(2exs., 13. IX. 1985)。美囊郡吉川町奥山(1ex., 8. V. 1986)。氷上郡[山本, 1952, 1958]。

7. *Gyrinus japonicus* SHARP, 1873 ミズスマシ

普通種。

産地。津名郡常陸寺山(1ex., 20. IV. 1974)。洲

* 兵庫県甲虫相資料・338

本市先山[久松, 1973. 堀田, 1976]. 川辺郡猪名川町杉生新田, 川西市芋生, 若宮, 横地[仲田, 1978, 1982]. 宝塚市香合新田[芦田, 1992]. 伊丹市[河上, 1984]. 西宮市盤滝(lex., 28. V. 1987). Hiogo [SHARP, 1873]. 神戸市御影[関, 1933], 山の街(lex., 1. XI. 1956), 白川(6exs., 23. XI. 1956), 藍那(3exs., 10. VI. 1978, etc.), 岩谷峠(lex., 20. XI. 1982), 北区八多町屏風(3exs., 4. VI. 1993, etc.). 加西市畑(lex., 23. VI. 1974, etc.). 加東郡社町三草(2exs., 17. VI. 1987, etc.). 氷上郡[山本, 1952, 1958]. 出石郡但東町奥赤[高橋, 1963]. 美方郡扇の山[辻, 1963. 辻, 岸田, 1972. 高橋, 1975].

Family *Hydrochidae* ホソガムシ科

1. *Hydrochus japonicus* SHARP, 1873

ヤマトホソガムシ

成虫, 幼虫ともに有機質の多い止水域に生息しており, 本種は分布も広く日本では普通種といわれているが, 兵庫県下の記録はいがいと少ない。

産地. 川辺郡猪名川町内馬場, 木間生[仲田, 1979, 1982]. 西宮市[BROWNE et SATO, 1962]. 氷上郡[山本, 1958].

Family *Hydrophilidae* ガムシ科

Subfamily *Sphaeridiinae* ハバビロガムシ亜科

1. *Cercyon algarum* SHARP, 1873

ヒメケシガムシ

産地. 津名郡松帆ノ浦(2exs., 21. IV. 1983). 明石市林崎(lex., 30. V. 1983).

2. *Cercyon aptus* SHARP, 1873 コケシガムシ

前記種と同じく海岸線付近に多くいる。

産地. 三原郡灘[久松, 1973]. 津名郡松帆ノ浦(5exs., 21. IV. 1981). Hiogo[SHARP, 1873]. 明石市林崎(12exs., 13. IV. 1983, etc.), 江井ヶ島(2exs., 20. IX. 1975). 姫路市白浜ノ宮(lex., 20. IX. 1979).

3. *Cercyon dux* SHARP, 1873

フチトリケシガムシ

海藻によく集まる種とのこと. 筆者も淡路島の海岸線で海藻より採集している。

産地. 津名郡松帆ノ浦(9exs., 25. IV. 1983). 氷上郡柏原[山本, 1952].

4. *Cercyon laminatus* SHARP, 1873

ウスモンケシガムシ

産地. 川西市大和[仲田, 1978, 1982]. 宝塚市売布が丘[芦田, 1992]. Hiogo[SHARP, 1873]. 神戸市押部谷町木見(lex., 16. VII. 1980, lex. 15. IX. 1980), 下谷上(lex., 23. VII. 1979), 藍那(3exs., 26. VII. 1993), 烏原(lex., 12. VII. 1974, etc.), 北区八多町屏風(lex., 2. IX. 1993). 加東郡社(lex., 8. X. 1972). 氷上郡柏原[山本, 1952, 1958]. 出石郡出石川内町[高橋, 1963].

5. *Cercyon olivrus* SHARP, 1874

アカケシガムシ

有機物に多い. 県下にも広く分布している。

産地. 川西市大和[仲田, 1978, 1982]. 神戸市烏原(2exs., 8. VII. 1976), 白川(lex., 26. I. 1979), 藍那(lex., 4. IV. 1979). 美囊郡吉川町奥山(lex., 10. VI. 1986). 加東郡社町三草(2exs., 15. V. 1987). 多可郡白山(6exs., 27. V. 1973). 龍野市神岡町(lex., 13. VI. 1988). 揖保郡新宮町福原(lex., 15. VII. 1992). 相生市三湊山(lex., 16. VI. 1974). 出石郡但東町奥赤[高橋, 1963].

6. *Cercyon quisquilius* (LINNAEUS, 1761)

キバネケシガムシ

獣糞に多く見られ, 灯火にも飛来する。

産地. 三原郡慶野松原(lex., 26. V. 1983). 津名郡松帆ノ浦(lex., 21. IV. 1983). 川西市大和, 笹部[仲田, 1978, 1982]. 神戸市下谷上(lex., 23. VII. 1979), 押部谷町木見(lex., 16. VII. 1980). 多可郡白山(3exs., 27. V. 1973). 氷上郡柏原[山本, 1952, 1958]. 出石郡出石町三木[高橋, 1963].

7. *Cercyon ustus* SHARP, 1874 ケシガムシ

普通に見られる。

産地。川西市大和〔仲田, 1978, 1982〕。神戸市藍那(3exs., 4. IV. 1979), 箕谷(5exs., 5. IV. 1975), 妙法寺(2exs., 27. II. 1979), 押部谷木見(1ex., 5. X. 1980), 烏原(1ex., 16. V. 1971, etc.). 三木市細川中(1ex., 30. V. 1985). 加東郡社町(1ex., 8. X. 1972), 三草(1ex., 15. V. 1987). 多可郡白山(2exs., 27. V. 1973), 三谷(2exs., 19. IV. 1973). 龍野市神岡町(1ex., 13. VI. 1988, etc.).

8. *Cercyon vagus* SHARP, 1884

アトアカケシガムシ

産地。氷上郡〔山本, 1958〕。

9. *Coelostoma orbicularis* (FABRICIUS, 1775)

ヒメセマルガムシ

湿地のミズゴケの中に生息とあるが神戸市内では池畔などで普通に見られる。

産地。伊丹市〔河上, 1985〕。神戸市烏原(1ex., 11. V. 1975, etc.). 小野市来住町(1ex., 25. VI. 1991, etc.).

10. *Coelostoma stultum* (WALKER, 1858)

セマルガムシ

水辺の石下などに見られる。県下では普通に見られる種である。

産地。川辺郡猪名川町木間生〔仲田, 1982〕。川西市見野〔仲田, 1982〕。神戸市北区八多町屏風(10 exs., 22. VII. 1993), 藍那(1ex., 16. IX. 1993). 小野市来住町(2exs., 12. IX. 1991). 氷上郡柏原〔山本, 1952, 1958〕。出石郡出石町松ケ枝〔高橋, 1963〕。豊岡市加陽〔高橋, 1975〕。城崎郡日高町知見〔高橋, 1975〕。

11. *Magasternum gibbulum* MOTSCHULSKY, 1852

セマルマグソガムシ

獣糞にきている。

産地。宝塚市香合新田〔芦田, 1992〕。加東郡社町三草(1ex., 22. V. 1988). 龍野市神岡町(1ex.,

22. VI. 1988).

12. *Nipponocercyon shibatai* M. SATO, 1963

モンケシガムシ

落葉下から得た。

産地。神戸市北区藍那(1ex., 16. IX. 1993).

13. *Oosternum sorex* (SHARP, 1874)

ホソケシガムシ

普通に得られる。

産地。川西市大和, 笹部〔仲田, 1978, 1982〕。神戸市妙法寺(1ex., 26. I. 1979), 藍那(1ex., 16. IX. 1993), 押部谷町木見(1ex., 16. VII. 1980), 烏原(4 exs., 4. VII. 1971). 三木市口吉川町(2exs., 11. IX. 1986). 姫路市白浜ノ宮(2exs., 20. IX. 1979).

14. *Pachysternum haemorrhoum* MOTSCHULSKY, 1866

マグソガムシ

普通に見られる。獣糞に多い。

15. *Peratogonus reversus* SHARP, 1884

コウセンマルケシガムシ

落葉層から得られる。

産地。小野市青野ヶ原(3exs., 19. III. 1972). 多可郡三谷(1ex., 26. VII. 1975).

Subfamily Hydrobiinae マルガムシ亜科

16. *Agraphydrus narusei* (M. SATO, 1960)

ケシヒラタガムシ

産地。多可郡烏羽(1ex., 6. IX. 1975).

17. *Crenitis osawai* NAKANE, 1966

オオサワコマルガムシ

産地。多可郡烏羽(1ex., 6. IX. 1975).

18. *Enochrus esuriens* (WALKER, 1858)

チビヒラタガムシ

産地。川西市大和〔仲田, 1978, 1982〕。宝塚市香合新田〔芦田, 1992〕。

19. *Enochrus japonicus* SHARP, 1873

キベリヒラタガムシ

止水域の水辺で落ち葉の中にいる。

産地。宝塚市香合新田[芦田, 1992]。矢粟郡波賀町上野[相坂, 1995]。美方郡扇の山[辻, 1964。辻, 岸田, 1972]。

20. *Enochrus simulans* SHARP, 1873

キイロヒラタガムシ

普通にいる種。

産地。津名郡津名町大町[堀田, 1978]。川西市見野, 大和[仲田, 1978, 1982]。伊丹市[河上, 1984]。宝塚市売布が丘, 香合新田[芦田, 1992]。西宮市[中根, 1946]。神戸市藍那(1ex., 29. V. 1978), 下谷上(5exs., 23. VII. 1979)。美濃郡吉川町奥山(1ex., 8. V. 1986)。加東郡社町三草(1ex., 7. V. 1987)。加西市畑(9exs., 13. VII. 1974, etc.)。龍野市神岡町(3exs., 8. IX. 1988)。氷上郡柏原[山本, 1952, 1958]。出石郡出石町[高橋, 1963]。豊岡市寿, 福田[高橋, 1975]。

21. *Enochrus subsignatus* (HAROLD, 1877)

マルヒラタガムシ

産地。川西市大和[仲田, 1978, 1982]。氷上郡柏原[山本, 1952, 1958]。

22. *Helochares pallens* (M'LEAY, 1833)

ルイスヒラタガムシ

灯火に飛来すると。

産地。Hiogo[SHARP, 1833]。氷上郡柏原[山本, 1952, 1958]。

23. *Helochares striatus* SHARP, 1873

スジヒラタガムシ

わりあいと見られる。

産地。川西市大和[仲田, 1982]。伊丹市[河上, 1984]。神戸市御影[関, 1933]。三木市美濃川川原(1ex., 5. VII. 1979)。美濃郡吉川町(1ex., 2. VII. 1985. 2exs., 2. IX. 1985. 4exs., 19. IX. 1985)。

24. *Hydrocassius lacustris* (SHARP, 1884)

マルガムシ

産地。氷上郡柏原[山本, 1958]。

25. *Laccobius bedeli* SHARP, 1884

シジミガムシ

池に普通にいる。

産地。洲本市山武牧場[堀田, 1978]。川西市大和[仲田, 1978, 1982]。宝塚市武庫川[中根, 1955]。香合新田[芦田, 1992]。西宮市盤滝(1ex., 22. V. 1987)。加西市畑(1ex., 29. VI. 1974)。龍野市神岡町(10exs., 8. IX. 1988)。氷上郡柏原[山本, 1952, 1958]。出石郡出石町松ケ枝[高橋, 1963]。

26. *Laccobius fragilis* NAKANE, 1966

ヒメシジミガムシ

河川の流水につながる水たまりにすむ。

産地。氷上郡柏原[NAKANE, 1966]。

Subfamily *Hydrophilinae* ガムシ亜科

27. *Hydrochara affinis* SHARP, 1827

コガムシ

産地。津名郡津名町大町[堀田, 1978]。三原郡三原町八木養宜[藤富, 1995]。川辺郡猪名川町日生ニュータウン[仲田, 1978]。川西市見野, 大和[仲田, 1978, 1982]。宝塚市武庫町[新家, 1988]。売布が丘, 香合新田, 武庫川町[芦田, 1992]。西宮市[中根, 1955]。Hiogo[SHARP, 1873]。神戸市御影[関, 1933]。加西市畑(1ex., 29. VI. 1974, etc.)。多可郡三谷(1ex., 13. VII. 1955, etc.)。氷上郡柏原[山本, 1952, 1958]。出石郡出石町堀橋[高橋, 1963]。

28. *Hydrophilus bilineatus cashimirensis* REDTENBACHER, 1892

コガタガムシ

産地。氷上郡柏原[山本, 1952, 1958]。

29. *Sternolophus rufipes* (FABRICIUS, 1792)

ヒメガムシ

止水域にふつう。

産地。洲本市三熊山[久松, 1973]。山武牧場, 安

乎町[堀田, 1978]. 川辺郡猪名川町日生ニュータウン[仲田, 1978]. 川西市笹部, 見野, 大和[仲田, 1978, 1982]. 伊丹市[河上, 1984]. 宝塚市武庫川町[新家, 1988], 売布が丘, 武庫川町[芦田, 1992]. 西宮市広田山[中根, 1955]. 神戸市御影[関, 1933], 下谷上(4exs., 23. VII. 1979), 押部谷町木見(5exs., 15. IX. 1980), 藍那(2exs., 28. VII. 1993, etc.). 美囊郡吉川町奥山(1ex., 17. V. 1986). 三木市内(3exs., 28. VII. 1978), 口吉川町笹原(3exs., 26. IX. 1986). 小野市来住町(5exs., 12. IX. 1991). 加西市畑(5exs., 29. VI. 1974, etc.). 加東郡社町三草(1ex., 7. V. 1987). 龍野市神岡町(1ex., 14. IX. 1988). 氷上郡柏原[山本, 1952, 1958]. 出石郡但東町口藤[高橋, 1963]. 豊岡市福田[高橋, 1975]. (註) *Sternolophus mergus* REUTENBACHER, 1844
オオヒメガムシというのが川辺郡猪名川町日生ニュータウン, 川西市見野[仲田, 1978, 1982]から記録されている。よくわからないので省いた。

Subfamily *Chaetritrinae* タマガムシ亜科

30. *Amphiops mater* SHARP, 1873 タマガムシ

池や水田にふつう。

産地。川辺郡猪名川町内馬場[仲田, 1979, 1982]. 伊丹市[河上, 1984]. 宝塚市大原野[芦田, 1992]. Hiogo[SHARP, 1873]. 神戸市御影[関, 1933], 藍那(1ex., 20. V. 1979). 小野市来住町(1ex., 12. IX. 1991, etc.). 氷上郡柏原[山本, 1952, 1958]. 出石郡但東町小坂[高橋, 1984].

31. *Regimbartia attenuata* (FABRICIUS, 1801)

マメガムシ

本種も池や水田でふつうに見られる。

産地。川辺郡猪名川町木間生[仲田, 1982]. 川西市大和[仲田, 1978, 1982]. 伊丹市[河上, 1984]. 宝塚市売布が丘, 大原野[芦田, 1992]. 西宮市広田山[中根, 1955]. 神戸市御影[関, 1933]. 小野市来住町(1ex., 26. VI. 1991, etc.). 氷上郡柏原[山本, 1952, 1958]. 出石郡出石町小人[高橋, 1963]. 豊岡市福田, 旭市[高橋, 1975].

Subfamily *Berosiinae* ゴマフガムシ亜科

32. *Berosus japonicus* SHARP, 1873

ヤマトゴマフガムシ

山地帯の池にすむ。

産地。宝塚市香合新田[芦田, 1992]. 氷上郡[山本, 1952]. 豊岡市福田[高橋, 1978].

33. *Berosus lewisius* SHARP, 1873

トケバゴマフガムシ

池や水田などにふつう。灯火にも飛来する。

産地。川辺郡猪名川町日生ニュータウン[仲田, 1978], 三草山(1ex., 5. VII. 1980). 川西市見野, 大和[仲田, 1978, 1982]. 伊丹市[河上, 1984]. 宝塚市売布が丘, 香合新田[芦田, 1992]. 西宮市[中根, 1955]. 神戸市島原(1ex., 15. VII. 1970), 下谷上(8exs., 23. VII. 1979), 妙法寺(1ex., 23. VI. 1979). 三木市細川中(1ex., 30. V. 1985). 小野市来住町(1ex., 30. V. 1991). 加西市畑(13exs., 29. VI. 1974. 1ex., 13. VII. 1974). 氷上郡柏原[山本, 1952]. 出石郡出石町堀橋[高橋, 1963]. 美方郡扇の山[辻, 1963. 辻, 岸田, 1972].

34. *Berosus pulchellus* M'LEAY, 1825

ホソゴマフガムシ

あまり多くない。

産地。神戸市御影[関, 1933], 島原(1ex., 30. VII. 1970). 小野市来住町(1ex., 30. V. 1991). 氷上郡柏原[山本, 1952, 1958]. 豊岡市九日市[高橋, 1975].

35. *Berosus signaticollis punctipennis* HAROLD, 1878

ゴマフガムシ

池や水田などに普通。

産地。川辺郡猪名川町木間生, 内馬場[仲田, 1982]. 川西市大和[仲田, 1978, 1982], 笹部, 一庫[仲田, 1982]. 宝塚市香合新田[芦田, 1992]. 矢粟郡音水(1ex., 8. IX. 1972, etc.). 多紀郡雨石山[林ほか, 1995]. 氷上郡柏原[山本, 1952, 1958]. 出石郡出石町松ヶ枝[高橋, 1963]. 豊岡市寿, 加陽[高橋, 1975]. 城崎郡日高町木見[高橋, 1975], 城崎

[高倉, 1979].

ガムシ科の記録のうち, 次のものはそれぞれ検討した結果を示しておく.

ヒメゴマフガムシ *Berosus vestitus* SHARP は中根猛彦博士の意見に従い(原色昆虫大図鑑Ⅱ, 1963, P. 66), *B. pulchellus* MAC LEAY, 1825 ホソゴマフガムシに取扱う.

ミジンケシガムシ *Cercyon* sp. これは収録せず.

ケシヒラタガムシ *Agraphydrus narusei* M. SATO は中根博士の図説で同定したが(pl. 33, f. 13, p. 66, 1963), 後同博士により *Crenitis osawai* NAKANE, 1966 オオサワコマルガムシに訂正された(Anonym. Icon. Ins. Jap. col. nat. ed. II, addenda et corrigenda, p. 3, 1978)のでこの種に扱う.

オオヒメガムシ *Sternolophus mergus* REDTENBACHER は中根博士の大図鑑で同定された(pl. 33, f. 15, p. 66, 1963)とすれば, 分布からしてヒメガムシ *S. rufipes* (FABRICIUS, 1792) と考えられるのでこのように扱った.

Family Psephenidae ヒラタドロムシ科

1. *Ectopria opaca* (KIESENWETTER, 1874)

チビヒゲナガハナノミ

かつてヒゲナガハナノミ科に入っていたものが, 幼虫の形態と合せ考えることによってこの科に移された(佐藤, 1985). 科, 属などの問題はこれからの課題である.

本種は清流周辺の植物上にふつうに見られる.

産地. 川西市山原, 笹部[仲田, 1978, 1982]. 神戸市布引(1ex., 17. V. 1959), 太山寺(2exs., 6. V. 1967), 芦谷溪谷(1ex., 11. VI. 1982), 藍那(1ex., 20. V. 1993), 多井畑(20exs., 23. V. 1990), 北区八多町屏風(2exs., 4. VI. 1993, etc.). 美濃郡吉川町奥山(3exs., 10. VI. 1986). 加東郡社町三草(3exs., 22. V. 1989, etc.). 神崎郡大河内町川上(1ex., 4. VI. 1977). 龍野市神岡(1ex., 26. V. 1988). 相生市三湊山(1ex., 1. VI. 1074). 宍粟郡福知溪谷(1ex.,

20. VI. 1976). 氷上郡[山本, 1958]. 豊岡市妙楽寺[高橋, 1975]. 城崎郡日高町奈佐路(6exs., 19. VI. 1986). 養父郡大屋町田淵山(1ex., 5. VII. 1975, M. Ūma leg.).

2. *Eubrianax granicollis* LEWIS, 1895

クシヒゲマルヒラタドロムシ

産地. 川西市笹部[仲田, 1978, 1982]. 多可郡鳥羽(1ex., 8. V. 1976). 美方郡扇ノ山[辻, 1963, 辻, 岸田, 1972].

3. *Eubrianax pellucidus* LEWIS, 1895

ヒメマルヒラタドロムシ

産地. 神戸市五社(5exs., 28. VI. 1959). 養父郡氷の山(1ex., 2. VII. 1953, etc.).

4. *Eubrianax ramicornis* KIESENWETTER, 1874

マルヒラタドロムシ

水辺によくいる.

産地. 川西市笹部[仲田, 1978, 1982]. 宝塚市玉瀬[小田中, 1992]. 神戸市太山寺(2exs., 6. V. 1957). 多可郡三谷(1ex., 24. V. 1975, etc.). 印南郡法華山一乗寺(1ex., 23. V. 1965). 氷上郡[山本, 1958]. 養父郡氷の山[高橋, 1959].

5. *Macroebria lewisi* NAKANE, 1952

チビマルヒゲナガハナノミ

神戸の摩耶山産1♂をタイプ of の1つとして中根博士が記載された種である. 分布はわりと広いようで本州, 四国, 九州, 屋久島, 琉球(奄美大島・石垣島)と知られている. 兵庫県下からはタイプ種以外の記録が全く見られない. 調査不充分と考えられる.

産地. 神戸市摩耶山[1ex., 15. VII. 1921, J. E. A. LEWIS leg., NAKANE, 1952].

6. *Mataosephenus japonicus* (MATSUMURA, 1916)

ヒラタドロムシ

ふつうに見られる種である.

産地. 三原郡猪ノ鼻川中流域[久松, 1974]. 川

西市見野, 大和[仲田, 1978, 1982]. 宝塚市南口 2 丁目[新家, 1989], 南口 2 丁目, 売布が丘[小田中, 1992]. 神戸市烏原(lex., 12. VI. 1976), 垂水[竹中, 1935]. 加西市畑(lex., 29. VI. 1974, etc.). 三木市内(lex., 28. VII. 1978). 加古川流域[西村, 原, 1974]. 多紀郡篠山[後藤, 1963]. 氷上郡[山本, 1952, 1958]. 出石郡出石町暮坂[高橋, 1963]. 豊岡市堀川橋[高橋, 1975]. 城崎郡円山川流域[西村他, 1975].

7. *Psephenoides japonicus* MASUDA, 1935

マサダチビヒラタドロムシ

産地. 川西市大和[仲田, 1978, 1982]. 加古川流域[西村, 原, 1974]. 氷上郡柏原[山本, 1952, 1958]. 城崎郡円山川水系[西村他, 1975].

Family *Elmidae* ヒメドロムシ科

1. *Grapelmis shirahatai* (NOMURA, 1958)

アヤスジミゾドロムシ

氷上郡柏原で灯火に飛来したものが多く採集された記録があるのみで, 県下での他の記録が知られていない. わりと特徴があり大きく, 再調査をしなくてはいけない.

産地. 氷上郡柏原[SATO, 1985. 高橋, 1996].

2. *Grouvellinus marginatus* (KONO, 1934)

キベリナガアシドロムシ

産地. 川西市大和[仲田, 1978, 1982]. 氷上郡柏原[山本, 1952, 1958]. 出石郡出石町奥赤[高橋, 1963]. 豊岡市妙楽寺[高橋, 1978].

3. *Grouvellinus nitidus* NOMURA, 1963

ツヤナガアシドロムシ

産地. 多紀郡篠山[後藤, 1963].

4. *Leptelmis gracilis* SHARP, 1888

ヨコミゾドロムシ

産地. 氷上郡柏原[山本, 1952, 1958].

5. *Neorihelmis kurosawai* NOMURA, 1958

クロサワドロムシ

産地. 出石郡出石町中村[高橋, 1963]. 豊岡市加陽[高橋, 1975].

6. *Ordobrevia foveicollis* (SCHONFELDT, 1888)

キスジミゾドロムシ

水田, 池などにふつうで灯火にもよく飛来する.
産地. 川西市大和[仲田, 1978, 1982]. 宝塚市売布が丘, 大原野松尾[小田中, 1992]. Hiogo[Schonfeldt, 1888, Bollow, 1941]. Kobe[Janssens, 1956], Mt. Rokko[Bollow, 1941]. 多紀郡篠山[後藤, 1963]. 氷上郡柏原[山本, 1952, 1958]. 出石郡但東町久畑[高橋, 1963]. 豊岡市妙楽寺[高橋, 1976]. 美方郡扇の山[辻, 1963., 辻, 岸田, 1972].

7. *Stenelmis miyamotoi* NOMURA et NAKANE, 1958

ミヤモトミゾドロムシ

清流に住む. 県下の記録は少ない.
産地. 多紀郡篠山[後藤, 1963]. 城崎郡奈佐川[高橋, 1976].

8. *Stenelmis nipponica* NOMURA, 1958

イブシミゾドロムシ

日本全土(本州, 四国, 九州)に分布している.
原記載 (Entom. Rev. Japan, Vol. 9, No. 2:41-42, pl. 8, f. 1, 1958) のパラタイプに加古川産4exs. (ISHIDA leg.) がふくまれている.

県下に広く見られる種である.

産地. 川西市大和[仲田, 1978, 1982]. 加古川市内[Nomura, 1958]. 多紀郡篠山[後藤, 1963]. 出石郡出石町安良[高橋, 1963]. 城崎郡奈佐川[高橋, 1976].

9. *Stenelmis vulgaris* NOMURA, 1958

アシナガミゾドロムシ

日本全土(本州, 四国, 九州), 朝鮮半島に分布しわりと普通に産する. 但し兵庫県下での記録は大変少ない. 原記載 (Entom. Rev. Japan, 9:2:44-45, pl. 8, f. 3, 1958) のパラタイプに篠山産

がふくまれている。

産地。川西市大和〔仲田, 1978, 1982〕。多紀郡篠山〔NOMURA, 1958〕。

10. *Zaitzevia awana* (Kōno, 1934)

アワツヤドロムシ

産地。川西市大和〔仲田, 1978, 1982〕。氷上郡柏原〔山本, 1952, 1958〕。出石郡出石町奥赤〔高橋, 1963〕。豊岡市奈佐川〔高橋, 1978〕。

11. *Zaitzevia rivalis* NOMURA, 1963

ミゾツヤドロムシ

産地。多紀郡篠山〔後藤, 1963〕。

12. *Zaitzeviaria brevis* (NOMURA, 1958)

ヒメツヤドロムシ

産地。多紀郡篠山〔後藤, 1963〕。

13. *Zaitzeviaria ovata* (NOMURA, 1959)

マルツヤドロムシ

産地。多紀郡篠山〔後藤, 1963〕。

Family *Dryopidae* ドロムシ科

1. *Elomomorphus brevicornis* SHARP, 1888

ムナビロツヤドロムシ

清流にすむ種。

産地。川西市大和〔仲田, 1978, 1982〕。Kobe〔SHARP, 1888〕。宍粟郡音水(1ex., 8. IX. 1972)。氷上郡柏原〔山本, 1952, 1958〕。

Family *Limnichidae* チビドロムシ科

水辺に生活する群と落葉層に生活する群があり、幼虫についてはほとんどわかっていない。この科の日本産の研究はこれからである。

1. *Cephalobyrrhus japonicus* CHAMPION, 1925

オオメホソチビドロムシ

溪流横の倒木上に見られる。

産地。川辺郡猪名川町木津上〔仲田, 1979, 1982〕。宍粟郡音水(2exs., 20. VII. 1959, S. HISAMATSU det.)。

2. *Limnichus lewisi* NAKANE, 1963

チビドロムシ

水辺の石の下などにいる種。

産地。川西市大和〔仲田, 1978, 1982〕。神戸市北区藍那(1ex., 26. VII. 1993)。

Family *Heteroceridae* ナガドロムシ科

成虫は水辺の砂、泥中から得られることが多く、ときに灯火に多数飛来することがある。幼虫は恐らく半水生的な生活であろうと考えられる。

1. *Heterocerus fenestratus* THUNBERG, 1784

タテスジナガドロムシ

河川、水田などの砂泥上にふつう。

産地。川辺郡猪名川町木間生〔仲田, 1982〕。川西市大和〔仲田, 1978, 1982〕。宝塚市大原野〔小田中, 1992〕。神戸市北区藍那(3exs., 26. VII. 1993)。三木市志染(1ex., 5. VII. 1979, 1ex., 12. VII. 1979)。氷上郡〔山本, 1952, 1958〕。出石郡出石町〔高橋, 1963〕。豊岡市内〔高橋, 1975〕。

(兵庫県産水棲甲虫目録・完。 IV. 1997)

(TAKAHASHI TOSHIO 神戸市兵庫区氷室町1-44)

兵庫県氷上郡地方の蛾類(3)

山本 義丸

これまで2回にわたって筆者の旧著、兵庫県氷上郡昆虫目録(1958)などの蛾類に関する記録について、誤同定の修正や新しい記録の追加を報告したが、本報は残りの各科について再検討したものである。要領は前回と同様である。古い時代の調査であつたので不十分な点が多く、今後の新しい知見が発表されることを期待している。

トリバガ科 PTEROPHORIDAE

- 1. *Fuscoptilia emarginata* (Snellen)
ナカノホソトリバ
柏原, ♂, 16. VII. 1950; ♀, 10. VI. 1951.
2. *Xenopterophorus cretalis* (Meyrick)
トビモントリバ 柏原, ♂, 13. VI. 1954.
3. *Platyptilia farfarella* (Zeller)
エゾギクトリバ 柏原.
4. *Amblyptilia jezoensis* (Matsumura)
オダマキトリバ 柏原.
5. *Nippoptilia vitis* (Sasaki)
ブドウトリバ 柏原.
6. *Crombrugghia kinbane* (Matsumura)
キンパネチビトリバ 柏原.
7. *Hellinsia hirosakianus* (Matsumura)
ヨモギトリバ 柏原.
- 8. *Hellinsia nigridactylus* (Yano)
クロカマトリバ 柏原, ♂, 25. V. 1954.

メイガ科 PYRALIDAE

1. *Patissa fulvosparsa* (Butler)
キボシオオメイガ 柏原, ♀, 20. VI. 1952.
- 2. *Scirpophaga lineata* (Butler)
ヒトスジオオメイガ
柏原, ♂, 10. VII. 1959.
- 3. *Scoparia isochroalis* Hampson
ホンバヤマメイガ 柏原, ♂, 10. VII. 1954.

- 4. *Glaucoccharis exsectella* (Christoph)
シロエグリツトガ 柏原.
5. *Pseudargyria interruptella* (Walker)
ホソスジツトガ 柏原.
6. *Chilo suppressalis* (Walker)
ニカメイガ
7. *Pseudocatharylla simplex* (Zeller)
マエキツトガ 柏原.
8. *Calamotropha okanoi* Bleszyński
サツマツトガ 柏原.
9. *Calamotropha nigripunctella* (Leech)
キスジツトガ 神楽, ♀, 11. VII. 1953.
10. *Chrysoteuchia diplogramma* (Zeller)
ウスクロスジツトガ 神楽.
11. *Chrysoteuchia distinctella* (Leech)
テンスジツトガ
12. *Chrysoteuchia atrosignata* (Zeller)
クロマダラツトガ 柏原.
13. *Crambus argyrophorus* Butler
シロスジツトガ
14. *Crambus virgatellus* Wileman
ナカグロツトガ 柏原, 鴨庄.
15. *Flavocrambus striatellus* (Leech)
クロスジツトガ
16. *Xanthocrambus lucellus* (Herrich-Schäffer)
ウスグロツトガ 柏原, ♂, 27. VI. 1949.
17. *Platytes ornata* (Leech)
ナガハマツトガ 柏原, ♂, 31. VII. 1949.
18. *Ancylolomia japonica* (Zeller)
ツトガ
19. *Hellula undalis* (Fabricius)
ハイマダラノメイガ
20. *Cotachena pubescens* (Warren)
スカシトガリノメイガ 柏原.
21. *Pelena sericea* (Butler)
モンキノメイガ 妙高山, ♂, 20. VI. 1952.
(井上); ♀, 27. VII. 1953.

22. *Diathrausta brevifascialis* (Wileman)
シロテンノメイガ 柏原, ♂, 28. VI. 1949.
23. *Piletocera sodalis* (Leech)
コガタシロモンノメイガ(シロモンクロノメイガ)
24. *Camptomastix hisbonalis* (Walker)
ハナダカノメイガ 妙高山.
25. *Diploperis perieresalis* (Walker)
エグリノメイガ 柏原.
26. *Mabura charonialis* (Walker)
ミツテンノメイガ
27. *Pycnarmon lactiferalis* (Walker)
ゴマダラノメイガ 柏原.
28. *Pycnarmon pantherata* (Butler)
クロオビノメイガ
29. *Spoladea recurvalis* (Fabricius)
シロオビノメイガ
30. *Eurrhyarodes accessalis* (Walker)
アヤナミノメイガ
31. *Agrotera nemoralis* (Scopoli)
ウスムラサキノメイガ
32. *Pagda quadrilineata* Butler
ヨスジノメイガ
33. *Pagda quinquelineata* Hering
マタスジノメイガ 柏原.
34. *Talanga quadrimaculalis* (Bremer & Grey)
ヨツボシノメイガ 柏原, 神楽.
35. *Cnaphalocrocis medinalis* (Guenée)
コブノメイガ
36. *Cnaphalocrocis exigua* (Butler)
イネハカジノメイガ 柏原.
37. *Bocchoris dispersalis* (Zeller)
シロモンノメイガ
38. *Chabula telphusalis* (Walker)
オオシロモンノメイガ 柏原.
39. *Chabula onychinalis* (Guenée)
シロマダラノメイガ 神楽.
40. *Analthes semitritalis* Lederer
シロヒトモンノメイガ
- *41. *Analthes* sp.
ホンバントグロキノメイガ
- 柏原, ♀, 20. VII. 1949. 既報のハラナガ
キマダラノメイガは誤りである.
42. *Tyspanodes striata* (Butler)
クロスジノメイガ
43. *Conogethes punctiferalis* (Guenée)
モモノゴマダラノメイガ
44. *Nacoleia commixta* (Butler)
シロテンキノメイガ
45. *Omiodes tristrialis* (Bremer)
シロアシクロノメイガ
46. *Omiodes misera* (Butler)
ヒメクロミスジノメイガ
47. *Omiodes indicata* (Fabricius)
マエウスキノメイガ
48. *Omiodes noctescens* (Moore)
キバラノメイガ
49. *Goniorhynchus exemplaris* Hampson
クロズノメイガ
50. *Goniorhynchus butyrosa* (Butler)
クロヘリキノメイガ
51. *Botyodes principalis* Leech
オオキノメイガ 柏原.
52. *Pleuroptya balteata* (Fabricius)
クロスジキンノメイガ
53. *Pleuroptya ruralis* (Scopoli)
ウコンノメイガ
54. *Pleuroptya inferior* (Hampson)
コヨツメノメイガ 柏原.
55. *Pleuroptya quadrimaculalis* (Kollar)
ヨツメノメイガ 柏原, 神楽.
- 56. *Pleuroptya harutai* (Inoue)
オオキバラノメイガ(トチノメイガ)
柏原, ♀, 16. VI. 1950. この個体は通常のものよりもやや小形で、山中浩氏の同定に依れば、近縁の別種かもしれない.
57. *Pleuroptya chlorophanta* (Butler)
ホソミスジノメイガ
58. *Haritalodes derogata* (Fabricius)
ワタノメイガ
59. *Syllepte segnalis* (Leech)
モンシロクロノメイガ

- 60. *Syllepte taiwanalis* Shibuya
タイワンモンキノメイガ
柏原, ♀, 6. IX. 1949.
61. *Syllepte fuscomarginalis* (Leech)
クロヘリノメイガ 神楽.
- 62. *Syllepte invalidalis* South
ツチイロノメイガ 柏原, ♀, 16. VI. 1952.
63. *Palpita nigropunctalis* (Bremer)
マエアカスカシノメイガ
64. *Palpita inusitata* (Butler)
ヒメシロノメイガ 柏原.
65. *Diaphania indica* (Saunders)
ワタヘリクロノメイガ
66. *Glyphodes perspectalis* (Walker)
ツゲノメイガ 柏原.
67. *Glyphodes pryeri* Butler
スカシノメイガ 柏原, 神楽.
68. *Glyphodes pyralis* Walker
クワノメイガ 柏原.
69. *Polythlipta liquidalis* Leech
ツマグロシロノメイガ 柏原.
70. *Sinibotys evenoralis* (Walker)
セスジノメイガ
71. *Circobotys nycterina* Butler
カギバノメイガ 柏原.
72. *Circobotys aurealis* (Leech)
キベリハネボソノメイガ 柏原.
73. *Maruca vitrata* (Fabricius)
マメノメイガ
74. *Nomophila noctuella* (Denis & Schiffermüller)
ワモンノメイガ
- *75. *Bradina angustalis* Yamanaka
アカウスグロノメイガ 柏原.
既報のウスグロノメイガは本種である。
76. *Herpetogramma rudis* (Warren)
マエキノメイガ
- 77. *Herpetogramma* sp. (?)
柏原, ♀, 10. VII. 1954.
この個体は *H. magna* (Butler) キモンウスグロノメイガに似ているが、全体暗灰色部が多く、未知の別種かもしれない。
78. *Herpetogramma luctuosalis* (Guenée)
モンキクロノメイガ
79. *Sitochroa palealis* (Denis & Schiffermüller)
ウラグロシロノメイガ
神楽, ♀, 12. IX. 1953.
80. *Diasemia reticularis* (Linnaeus)
シロアヤヒメノメイガ
81. *Diasemia accalis* (Walker)
キアヤヒメノメイガ
82. *Uresiphita tricolor* (Butler)
モンシロルリノメイガ
83. *Uresiphita gracilis* (Butler)
ウラジロキノメイガ
柏原, ♀, 31. VII. 1949.
84. *Prodasynemesis inornata* (Butler)
キムジノメイガ
- 85. *Pronomis delicatalis* (South)
ミカエリソウノメイガ
柏原, ♂, 20. VI. 1949.
86. *Nomis albopedalis* Motschulsky
ホシオビホソノメイガ
87. *Paliga minnehaha* (Pryer)
マエベニノメイガ 柏原.
88. *Pseudebulea fentoni* Butler
モンスカシキノメイガ 妙高山.
- *89. *Paratalanta taiwanensis* Yamanaka
キイロフチグロノメイガ
妙高山, ♂, 6. IX. 1953. 既報のフチグロノメイガは本種に相当する。
90. *Ostrinia palustralis* (Hübner)
ユウグモノメイガ 柏原.
91. *Ostrinia furnacalis* (Guenée)
アワノメイガ
92. *Ostrinia scapularis* (Walker)
フキノメイガ
- 93. *Udea testacea* (Butler)
クロモンキノメイガ 柏原.
94. *Pyrausta panopealis* (Walker)
ベニフキノメイガ 柏原.
95. *Pyrausta tithonialis* Zeller

- ウチベニキノメイガ
神楽, ♀, 12. IX. 1953.
96. *Pyrausta unipunctata* Butler
ヒトモンノメイガ 柏原, ♀, 25. VII. 1951.
97. *Microstega jessica* (Butler)
ウスオビキノメイガ 妙高山.
98. *Carminibotys carminalis* (Caradja)
ヘリアカキンノメイガ
神楽, ♂, 22. VI. 1953.
99. *Anania verbascalis* (Denis & Schiffermüller) ヒメトガリノメイガ
100. *Clupeosoma cinereum* (Warren)
ウスムラサキクルマメイガ (ウスムラサキシジノメイガ) 柏原, ♀, 22. VII. 1952.
101. *Elophila interruptalis* (Pryer)
マダラミズメイガ
102. *Elophila fengwhanalisi* (Pryer)
ネジロミズメイガ 柏原.
103. *Elophila turbata* (Butler)
ヒメマダラミズメイガ
104. *Nymphula corculina* (Butler)
ギンモンミズメイガ 柏原.
105. *Parthenodes bifurcalis* Wileman
ゼニガサミズメイガ 柏原.
106. *Parapoynx fluctuosalis* (Zeller)
イネミズメイガ 柏原.
107. *Parapoynx vittalis* (Bremer)
イネコミズメイガ 柏原.
108. *Parapoynx ussuriensis* (Rebel)
ムナカタミズメイガ
柏原, ♀, 13. VIII. 1949.
109. *Potamomusa midas* (Butler)
キオビミズメイガ
110. *Nymphicula saigusai* Yoshiyasu
アトモンミズメイガ 神楽.
111. *Galleria mellonella* (Linnaeus)
ハチノスツツリガ 柏原.
112. *Cataprosopus monstrosus* Butler
マエグロツツリガ (マエグロトガリメイガ)
神楽, 12. VIII. 1953.
113. *Eulophopalia pauperalis* (Leech)
- フタスジツツリガ (トビモンフタスジトガリメイガ) 柏原.
- 114. *Tirathaba irrufatella* Ragonot
キイロツツリガ 柏原.
115. *Lamoria glaucalis* Caradja
アカフツツリガ
116. *Paralipsa gularis* (Zeller)
ツツリガ 柏原.
117. *Lepidogma kiiensis* (Marumo)
キイフトメイガ (クロテンアオフトメイガ)
柏原.
- 118. *Lepidogma angusta* (Inoue)
クロバネフトメイガ
神楽, ♀, 2. VIII. 1954.
119. *Lepidogma melanobasis* Hampson
コネアオフトメイガ 柏原.
- × *Stericta atribasalis* Hampson ネグロフトメイガの記録は誤認と思われる.
120. *Salma amica* (Butler)
オオフトメイガ
121. *Teliphasa elegans* (Butler)
ナカアオフトメイガ
122. *Termioptycha margarita* (Butler)
ナカジロフトメイガ 柏原.
- 123. *Epilepia dentata* (Matsumura & Shibuya)
ハスジフトメイガ 神楽, ♀, 3. VII. 1954.
124. *Locastra muscosalis* (Walker)
トサカフトメイガ 柏原.
125. *Lista ficki* Christoph
ナカムラサキフトメイガ
126. *Orthaga euadrusalis* Walker
クロモンフトメイガ 柏原.
127. *Orthaga achatina* (Butler)
ナカトビフトメイガ
128. *Orthaga olivacea* (Warren)
アオフトメイガ 柏原, 5. VIII. 1940.
129. *Aglossa dimidiata* (Haworth)
コメシマメイガ
130. *Hypsopygia regina* (Butler)
トビイロシマメイガ
131. *Pyralis farinalis* (Linnaeus)

- カシノシマメイガ
132. *Pyralis regalis* Denis & Schiffermüller
ギンモンシマメイガ
133. *Tamaraca torridalis* (Lederer)
ナカアカシマメイガ 柏原.
134. *Tegulifera bicoloralis* (Leech)
マエモンシマメイガ
- 135. *Orthopygia nannodes* (Butler)
ツマアカシマメイガ 柏原.
136. *Orthopygia glaucinalis* (Linnaeus)
フタスジシマメイガ
137. *Herculia pelagalis* (Walker)
アカシマメイガ
138. *Trebania flavifrontalis* (Leech)
キガシラシマメイガ
妙高山, ♂, 27. VII. 1953.
139. *Sybrida approximans* (Leech)
クシヒゲシマメイガ 柏原, 春日部.
140. *Datanoides fasciatus* Butler
オオクシヒゲシマメイガ 柏原, 神楽.
141. *Arippe indicator* Walker
ツマグロシマメイガ
142. *Orybina regalis* (Leech)
キンボシシマメイガ
柏原, ♂, 3. VII. 1954.
143. *Endotricha consocia* (Butler)
ウスオビトガリメイガ
144. *Endotricha icelusalis* (Walker)
オオウスベニトガリメイガ
145. *Endotricha minialis* (Fabricius)
キベリトガリメイガ
ムモンホソバトガリメイガは同種である。
146. *Plodia interpunctella* (Hübner)
ノシメマダラメイガ(ノシメコクガ)
147. *Cadra cautella* (Walker)
スジマダラメイガ
148. *Nephopteryx bicolora* Leech
ナカアカスジマダラメイガ(ナシアカスジマダラメイガ)
149. *Nephopteryx mikadella* (Ragonot)
ミカドマダラメイガ 柏原.
150. *Nephopteryx intercisella* Wileman
ヤマトマダラメイガ 柏原.
151. *Oncocera semirubella* (Scopoli)
アカマダラメイガ
- 152. *Myelois cribrella* (Hübner)
ゴママダラメイガ
妙高山, ♂, 9. VIII. 1954.
- 153. *Mussidia pectinicornella* (Hampson)
クシヒゲマダラメイガ
柏原, ♀, 6. VI. 1956.
154. *Conobathra squalidella* (Christoph)
ツツマダラメイガ 柏原.
- *155. *Dioryctria abietella* (Denis & Schiffermüller)
マツノマダラメイガ 柏原.
既報マツノオオマダラメイガは誤りである。
156. *Calguia defiguralis* Walker
ウスアカムラサキマダラメイガ(ウスアカマダラメイガ)
157. *Acrobasis pyrivorella* (Matsumura)
ナシマダラメイガ
春日部(春日町), ♀, 12. VI. 1955 (ナシ果実の幼虫を柏原にて飼育し羽化させた)。
- 158. *Pseudacrobasis nankingella* Roesler
マエジロギンマダラメイガ
柏原, 2♂, 16 & 30. VI. 1950.
- 159. *Conobathra frankella* Roesler
オオアカオビマダラメイガ
柏原, ♀, 7. VII. 1954.
160. *Etiella zinckenella* (Treitschke)
シロイチモンジマダラメイガ 柏原.
161. *Emmalocera gensanalis* South
オオマエジロホソメイガ 柏原.

マドガ科 THYRIDIDAE

1. *Thyris usitata* Butler
マドガ
2. *Strigina cancellata* (Christoph)
アカジママドガ
3. *Rhodoneura vittula* Guenée
マダラマドガ

4. *Rhodoneura hyphaema* (West)
ヒメマダラマドガ 妙高山, 神楽.
5. *Rhodoneura pallida* (Butler)
ウスマダラマドガ 柏原, 妙高山, 神楽.
6. *Herdonia margarita* Inoue
ギンスジオオマドガ(モリヤママドガ)
柏原, ♀, 10. VII. 1951; ♂, 7. VII. 1954;
ほか

イラガ科 LIMACODIDAE

1. *Kitanola uncula* (Staudinger)
マダライラガ 柏原, ♂, 1. IX. 1941.
2. *Mediocampa speciosa* (Inoue)
クロマダライラガ 柏原, ♂, 19. V. 1955.
3. *Narosoideus flavidorsalis* (Staudinger)
ナシイラガ
4. *Scopelodes contracta* Walker
ヒメクロイラガ(クロイラガ)
5. *Monema flavescens* Walker
イラガ
6. *Microleon longipalpis* Butler
テングイラガ
7. *Phrixolepia sericea* Butler
アカイラガ
8. *Austrapoda dentata* (Oberthür)
ムラサキイラガ 柏原, 神楽.
9. *Parasa sinica* Moore
クロシタアオイラガ
10. *Parasa consocia* (Walker)
アオイラガ
11. *Ceratonema sericea* (Butler)
ウストビイラガ
神楽, ♂, 12. VII. 1953; ♂, 2. VII. 1954.
12. *Phlossa conjuncta* (Walker)
タイワンイラガ 柏原, 神楽.

セミヤドリガ科 EPIPYPIDAE

1. *Epipomponia nawai* (Dyar)
セミヤドリガ 柏原, 2. IX. 1940.
(宿主; ヒグラシ)
2. *Epiricania hageromo* Kato

ハゴロモヤドリガ 柏原, 10. VII. 1947.
(宿主; スケバハゴロモ)

マダラガ科 ZYGAEINIDAE

1. *Pryeria sinica* Moore
ミノウスバ 柏原.
2. *Pidorus atratus* Butler
ホタルガ
3. *Chalcosia remota* (Walker)
シロシタホタルガ
粟鹿山, サワフタギの葉に多数幼虫の発生
を記録している(31. V. 1959).
小金岳(多紀郡), ♀, 25. VII. 1953.
4. *Elcysma westwoodii* (Vollenhoven)
ウスバツバメガ
5. *Artona gracilis* (Walker)
キスジホソマダラ 柏原.
6. *Artona funeralis* (Butler)
タケノクロホソバ 柏原, 鴨庄.
7. *Illiberis rotundata* Jordan
ウメスカシクロバ 柏原.
8. *Illiberis pruni* Dyar
リンゴハマキクロバ 柏原.

スカシバガ科 SESIIDAE

1. *Synanthedon quercus* (Matsumura)
カシコスカシバ
柏原, ♂, 28. VII. 1951; ♀, 5. VI. 1960.
2. *Synanthedon hector* (Butler)
コスカシバ 柏原, ♂, 15. VII. 1950.
小金岳, ♀, 25. VII. 1953.
3. *Toleria contaminata* (Butler)
ハチマガイスカシバ
柏原, ♂, 29. VII. 1941.
4. *Nacoma pernix* (Leech)
ヒメアトスカシバ 柏原, 鴨庄.
既報のフタスジスカシバは本種である.
5. *Nokona regalis* (Butler)
ブドウスカシバ
6. *Melittia sangaiica* (Moore)
オオモモブトスカシバ

柏原, 20. VII. 1950(視認).

× *Aegeria molybdiceps* Hampson

コシアカスカシバ

この記録は確認できないので削除する。

7. *Paranthrenopsis editha* (Butler)

シラホシヒメスカシバ

神楽, ♂, 25. VII. 1956.

○ 8. *Trichocrota constricta* (Butler)

ムナブトヒメスカシバ

成松(氷上町), ♀, 14. VII. 1957.

ハマキガ科 TORTRICIDAE

1. *Cerace xanthocosma* Diakonoff

ビロードハマキ

妙高山, 24. IX. 1955; 国領(春日町), 竹田.

2. *Pandemis cinnamomeana* (Treitschke)

アカトビハマキ 神楽, ♂, 12. IX. 1953.

3. *Pandemis heparana* (Denis & Schiffermüller)

トビハマキ 柏原, ♂, 4. VI. 1954.

4. *Archips audax* Razowski

アトキハマキ

5. *Archips ingentanus* (Christoph)

オオアトキハマキ

6. *Archips oporatus* (Linnaeus)

マツアトキハマキ

7. *Archips breviplicatus* Walsingham

ホソアトキハマキ(リンゴモンハマキ)

柏原, 神楽.

8. *Archips fuscocupreanus* Walsingham

ミダレカクモンハマキ 柏原.

9. *Hoshinoa longicellana* (Walsingham)

アトボシハマキ 柏原.

10. *Hoshinoa adumbratana* (Walsingham)

オオフタスジハマキ(リンゴオオハマキ)

柏原, ♀, 16. VI. 1953.

11. *Homona magnanima* Diakonoff

チャハマキ

12. *Homona issikii* Yasuda

スギハマキ 柏原, ♀, 30. VII. 1953.

13. *Adoxophyes orana* (Fischer von Rösler-

stamm) リンゴノコカクモンハマキ

14. *Adoxophyes* sp.

チャノコカクモンハマキ

○ 15. *Pseudeulia asinana* (Hübner)

オオハイジロハマキ

妙高山, ♂, 30. IV. 1955.

16. *Homonopsis foederatana* (Kennel)

ツツリモンハマキ 柏原.

17. *Gnorismoneura mesotoma* (Yasuda)

トビモンハマキ

18. *Acleris affinitana* (Snellen)

ブライヤハマキ

19. *Sparganothis pilleriana* (Denis & Schiffermüller) テングハマキ

柏原, ♂, 13. VI. 1954; ♀, 11. VI. 1955.

20. *Phaenasiophora roseana* (Walsingham)

ツマベニヒメハマキ

妙高山, ♂, 28. VII. 1954.

21. *Hystichosolus spathanthum* Walsingham

コシロアシヒメハマキ

22. *Hedya auricristana* (Walsingham)

グミオオウスツマヒメハマキ(ムモンツマジロヒメハマキ) 柏原.

23. *Hedya dimidiana* (Clerck)

シロモンヒメハマキ

24. *Apotomis geminata* (Walsingham)

グミツマジロヒメハマキ

柏原, ♀, 8. VII. 1940.

25. *Apotomis lacteifascies* (Walsingham)

グミウスツマヒメハマキ(シロスジヒメハマキ)

柏原, ♀, 10. VII. 1954; ♀, 5. V. 1955.

26. *Olethreutes electana* (Kennel)

ウツギヒメハマキ

27. *Olethreutes orthocosma* (Meyrick)

コクリオビクロヒメハマキ(クリオビクロハマキ) 柏原.

* 28. *Olethreutes aurofasciana* (Haworth)

コケキオビヒメハマキ

柏原, ♂, 7. IX. 1950. 既報のキオビキマダラハマキは本種の♀の誤認と思われる。

29. *Ancylis partitana* (Christoph)
カバカギバヒメハマキ(カシワモンキヒメハマキ) 柏原, ♂, 6. V. 1951.
30. *Spilonota ocellana* (Denis & Schiffermüller) リンゴシロヒメハマキ
31. *Epinotia granitalis* (Butler)
ヒノキカワモグリガ
柏原, ♀, 19. V. 1955.
32. *Epiblema foenella* (Linnaeus)
ヨモギネムシガ(フタツメヒメハマキ)
- 33. *Eucosma cana* (Haworth)
アザミスソモンヒメハマキ
柏原, ♂, 4. VI. 1954.
34. *Cryptophlebia ombrodelta* (Lower)
アシブトヒメハマキ 神楽.
- 35. *Matsumuraeses falcana* (Walsingham)
ニセマメサヤヒメハマキ 柏原.
- 36. *Grapholita pallifrontana* Zeller
フタスジヒメハマキ
柏原, ♂, 14. VI. 1951.
37. *Cydia danilevski* (Kuznetsov)
ヨツメヒメハマキ 柏原.

ホソハマキガ科 COCHYLIDAE

- * 1. *Phtheochroides clandestina* Razowski
ヨモギオオホソハマキ(ヨモギオオシムシガ) 柏原. 既報のフタテンホソハマキは誤同定である。
- 2. *Phtheochroa pistrinana* (Erschoff)
セジロホソハマキ
妙高山, ♀, 20. VI. 1955.

上記以外の小蛾類各科については全般に採集調査が不十分で、既報のものは大部分が分布上の普通種である。本報においてはこれらを再録することを省略し、分布資料として多少注目される種のみを挙げておくことにする。

マルハキバガ科 OECOPHORIDAE

1. *Agonopterix costaemaculella* (Christoph)
モンシロヒラタマルハキバガ

粟鹿山, ♀, 12. VII. 1952.

2. *Lamprystica igneola* Stringer
クロマイコモドキ 神楽, 23. VI. 1951.

- * 3. *Casmara agronoma* Meyrick
ホソバキホリマルハキバガ
妙高山, 9. VII. 1954. 既報のチャノキホリガは本種に相当する。
4. *Diurnea cupreifer* (Butler)
メスコバネマルハキバガ
柏原, ♀, 4. IV. 1954.

ホソハマキモドキガ科 GLYPHIPTERIGIDAE

1. *Lepidotarphius perornatella* (Walker)
ツマキホソハマキモドキ(マイコモドキ)
柏原, ♀, 20. VII. 1949.

マ加里ガ科 INCURVARIIDAE

1. *Nemophora paradisea* (Butler)
ヒロオビヒゲナガ
粟鹿山, ♂, 13. VII. 1953.
- * 2. *Nemophora wakayamensis* (Matsumura)
ワカヤマヒゲナガ
妙高山, ♂, 30. IV. 1955. 既報のウスベニヒゲナガを本種に訂正する。

コウモリガ科 HEPIALIDAE

1. *Palpifer sexnotata* (Moore)
シロテンコウモリ
柏原, ♂, 30. VI. 1952; ♀, 22. VI. 1956;
♂, 23. VI. 1957.
産出が局地的で、記録の少ない種である。
筆者はこれら以外には採集していない。

以上、旧報告を再検討して、誤同定を修正したもの8種、記録を削除するもの2種、新たに記録を追加するもの25種である。今回をもってこの報告を終了する。

(YAMAMOTO YOSHIMARU 大阪府池田市渋谷2-2-20)

黒川のトンボ

木下修一・牛尾巧

1. はじめに

前回のチョウに引き続いて、川西市北部の黒川地域のトンボを調査した結果について報告したい。調査は1996年4月から約1年間行ったが、その後も引き続いて観察した結果、新たに加えられた種もあり、まとめてここで報告しようと思う。なお、この結果には同時に調査された福原 整、近藤伸一両氏の採集結果も載せている。

2. 調査方法

成虫については図1で示すように黒川地域の黒川及びその支流に沿った山道を昼間ほぼ同じ時間帯に歩き、トンボのカウントをして大まかな個体数調査を行った。また、幼虫は知明湖キャンプ場から妙見ケーブル黒川駅より上流にかけての黒川本流とその主要な支流、および、用水池・田圃などでヤゴの捕獲と種の確認を行った。

3. 調査結果の全般的印象

今回黒川地域で採集もしくは観察されたトンボは9科39種である。この数は「宝塚のトンボ」¹⁾に記載された62種、あるいは、「近畿地方のトンボ」¹⁾に記載された91種に比較すると決して多いとは言えないが、黒川地域と限定してしかも約1年間の調査であることを考えるとかなりの数が採集されたものと考えている。

トンボの種類数だけからいえば、トンボの生息に必要な多様な環境があることが望ましいわけで、たとえば山間の溪流、穏やかな流れをもつ河川、多様な環境をもつ様々な湖沼や生育に必要な林の存在などが多くのトンボを誕生させる。その意味からいえば、黒川地域ではトンボの生息環境は黒川本流とその支流の小川、ならびに、田圃、用水池などに限られ、従って生息するトンボの種類も自ずと限られてくる。「宝塚のトンボ」では普通に分布するとされているタベサナエ、アオサナエなど平地や丘陵地の小川に生息し市街地でも見られ

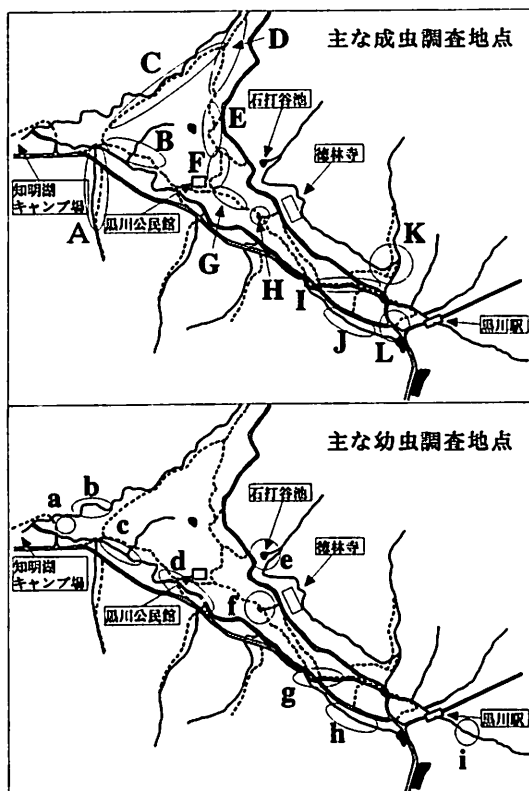


図1 黒川のトンボ調査地点

るとされている種は今回の調査では確認できず、逆にカワトンボ類、オジロサナエ、ダビドサナエなどのように山間の溪流に見られる種が見られたのは、このような地形的な影響が原因と見られる。

全般的にいえば今回観察されたトンボはほとんど普通種であるが、「兵庫県版レッドデータブック」²⁾のBランクであるサラサヤンマ、Cランクのグンパイトンボ、個体数の少ないか、あるいは、減少している種、たとえば、オジロサナエ、コシボソヤンマ、オオヤマトンボなども採集されていて注目される。なお、種の同定は文献^{2) - 4)}によった。トンボの個体数調査の結果と1年を通じて

の個体数の大まかな評価結果を表1と2にまとめた。

4. 調査地点別の特徴

成虫が確認された主な地点を地図上のA～Lで示す。これらは細い支流や田圃沿いの明るい道(B, C, F, G, J)と暗い支流沿いの道(A, K)、本流沿いの道(I, L)、山道(C, D, E, G)、及び、ため池(H)などである。

幼虫の観察はa～iの地点で行った。それぞれの特徴を以下に記す。a: 田圃の水田、b: 明るく開けた浅い瀬、c: 田の間の細い流れでクズが覆い隠している部分もある、d: 幅の狭い流れでところどころ堰堤が建設されている、e: 石打谷池(支流の石打谷をせき止めた池)でらん藻が発生、f: 数メートル角の小さいため池、g: 周囲をコンクリートで固めた流れでオランダガラシなどが茂っている、h: 田圃の横を流れる狭い流れ、i: 水

量が少なく転石を縫うような流れ。

成虫については、カワトンボの仲間は主に暗い林間の沢沿いのA, I, J, K地点に特に多く、マユタテアカネやノシメトンボ、ナツアカネなどのアカトンボ類はB, C地点の田圃の畦などに、また、イトトンボ類、モノサシトンボなどはH地点のため池に限られてみられた。オオアオイトトンボやホソミオツネイトトンボなどはC, E地点の暗い林の中の道で主に見られた。サナエトンボの仲間はほとんどI地点の本流沿いの道で見られ、その他、ハラビロトンボはF地点の田圃で、また、シオヤトンボはL地点に多かった。ヤンマ類はギンヤンマを除き山道沿いG, E, D地点に止まっているかあるいは飛翔している種が多かった。

幼虫の地点別観察結果を表3にまとめた。カワトンボ、サナエトンボ、オニヤンマ、及び、ヤンマについては主に黒川本流(b, d, g)で観察されている。また、イトトンボ類はため池(f)、アカ

表1 黒川のトンボ(成虫個体数調査結果)

			年月日	1 9 9 6																									
				4: 27	4: 28	5: 12	5: 18	5: 26	6: 2	6: 16	6: 30	7: 6	7: 13	7: 21	8: 4	8: 16	8: 31	9: 7	9: 23	10: 6	10: 20	11: 9	11: 13	11: 29	12: 4	12: 11	12: 18	12: 25	
1	科 名	種 名 \	日	5-6	2		++	+	2				2-3	1	2	3-4												2	3
2		イトトンボ													1														
3		キイトトンボ													1														
4		アザイトトンボ																											
5		クロイトトンボ																			5-6								
6	モノサシトンボ	モノサシトンボ													++	3-4	2-3	1	2										
7	アオイトトンボ	ホソミオオオイトトンボ		2-3	1	2	+	++	3-4	3-4	2-3	3-4	2-3	2-3	5-6	1	2-3	1	1-3	4	+	2							2
8		オオアオイトトンボ											1	1	1	1	5-6	1-3	4	2-3	3-4								
9	カワトンボ	ヘダカワトンボ																											
10		ニシカワトンボ		2	1	++	+	2-3	2																				2
11		オオカワトンボ						+	+	+	2																		
12	サオニトンボ	サオニトンボ						5-6	2	2	1	2																	
13		ダビロサナエ						1		1-3	4																		
14		オジロサナエ													1														1
15		オグマサナエ																											
16		コオニヤンマ											5-6	2-3							2								
17	オニヤンマ	オニヤンマ																+	+	+									
18	ヤンマ	コシロヤンマ																		1									
19		カトリヤンマ																											
20		ヤブヤンマ																											
21		ギンヤンマ											2-3	1-3	4	2	1	1		2	1	2-3	4						
22	エゾトンボ	コエゾトンボ																											
23		オオエゾトンボ																											
24	トンボ	ハラビロトンボ																											
25		シオヤトンボ		1	1		2	+																					2
26		シオヤトンボ																											
27		シオヤトンボ																											
28		シオヤトンボ																											
29		シオヤトンボ																											
30		シオヤトンボ																											
31		シオヤトンボ																											
32		シオヤトンボ																											
33		ウスバキトンボ																											
個体数合計				1	4	5	5	6	9	9	9	13	12	18	13	14	17	8	8	6	1	2	5						

数字は個体数、+は5-10頭、++は10頭以上

表2 黒川のトンボ(月別観察状況)

		2		3		4		5		6		7		8		9		10		確認種	個体数		
科名	種名	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	成虫	幼虫		
イトトンボ	キイトトンボ												○							●	C		
	ホソキイトトンボ					○	●	○	●	○	○	○	○	○	○				○	○	●	A	
	アジイトトンボ												○							○	○	A	
	クロイトトンボ						△						△				●			○	●	B	
モノサシトンボ	モノサシトンボ											●	△	○	○	○	○			○	○	B	
	グンバイトンボ															○				○		C	
アオイトトンボ	アオイトトンボ												○				○			○		C	
	ホオアオイトトンボ										△					○	○		○	○	●	A	
	オオホイトトンボ																			○		C	
	ホソオオイトトンボ	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	A	
カワトンボ	ハダカトンボ		△		△									○	○	○	○		○	○	○	B	
	ニシカワトンボ						○	○	○	○	○	○					△			○	○	A	
	オオカワトンボ							○	○	○	○	○						△		○	○	A	
	サナエトンボ			△		△			○	○	○	○					△		△		○	○	B
ヤブヤンマ	ヤブヤンマ																			○	○	C	
	オグサナエ									○	○	○								○	○	C	
	ダビドサナエ		△		△				○	○	○						△		△		○	○	B
	オジロサナエ																△	△		△		○	C
	オナガサナエ																△	△		△		○	C
	ヨコサナエ										○						△	△		△		○	B
オニヤンマ	オニヤンマ				△								○				△	△		△		○	A
	オニヤンマ												○		○	○	○	△		△		○	A
ヤンマ	ササヤンマ									○										○		C	
	コシロヤンマ				△												△	△		○	○	C	
	カトリヤンマ																△	△		○	○	C	
	ヤブヤンマ																			○		C	
	ギンヤンマ										○	△	○	○			○	○	○	○	○	○	B
エゾトンボ	コササトンボ											○	○	○		○	△		△		○	○	C
	オオササトンボ											○								○		C	
トンボ	ハダカトンボ											○	○	○	○	○				○		B	
	シオカラトンボ						○	○	○		○	○	○	○	○	○	○			○		B	
	シオカラトンボ							○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○		A	
	オオシオカラトンボ											○	○	○	○	○	○			○		A	
	コバトンボ																					A	
	シロウジウトンボ																○	○		○	○	C	
	カササネ												△	△	○	○	○	○	○	○	○	A	
	アキアネ												○	○	○	○	○	○	○	○	○	A	
	マユタテアネ												○	○	○	○	○	○	○	○	○	A	
	ノシトンボ												○	△		○	○	○	○	○	○	A	
ウスバヤンマ	コシバヤンマ											○	○	○	○	○			○	○		B	
	ウスバヤンマ											○	○	○	○	○	○		○	○		A	
成虫種類数計		1				2	4	6	9	11	13	18	17		11	17	15	7	9	5	37		
幼虫種類数計			3		5		2				2	2	4			3	11		9			21	

Asahina

(21. VII. 1997 U)

2. モノサシトンボ *Coperia annulata* (Selys)
(13. VII. 1996 KI, KO, 5. VII. 1997 幼虫 U)

<アオイトトンボ科>

1. アオイトトンボ *Lestes sponsa* (Hansemann)
(12. VII. 1996 F, 17. VIII. 1996 F)
2. オオアオイトトンボ *Lestes temporalis* Selys
(6. VII. 1996 KI, 21. VII. 1996 KI, 6. X. 1996 KI, 8. X. 1996 KO, 5. VI. 1997 幼虫 U)
3. オツネイトンボ *Sympetma paedisca paedisca* (Eversmann)
(12. VII. 1996 F)
4. ホソミオツネイトンボ *Indolestes peregrinus* (Ris)
(28. IV. 1996 KI, 12. V. 1996 KI, 26. V. 1996 KI, 16. VII. 1996 KI, 4. V. 1997 KO, 8. VI. 1997 KO)

表3 地点別の幼虫採集場所

種名	a	b	c	d	e	f	g	h	i
ホソミオイトンボ						●			
クロイトンボ						●			
モノサシトンボ						●			
オオアオイトンボ						●			
ハグロトンボ		●		●					
オオカワトンボ				●					
ヤマサナエ				●					
ダビドサナエ		●		●			●		
オジロサナエ				●					
オナガサナエ				●					
コオニヤンマ				●					
オニヤンマ		●		●			●		
コシボソヤンマ		●		●					
カトリヤンマ							●		
ギンヤンマ						●			
コヤマトンボ				●					
コフキトンボ						●			
ショウジョウトンボ	●								
ナツアカネ	●								
アキアカネ	●								
マユタテアカネ				●					
ノシメトンボ	●								
種類数合計	4	4	0	11	0	6	3	0	0

調査日

a: 97.6.29, 97.7.5, b: 96.3.20, c: 96.5.26, e: 96.5.26
d: 96.2.25, 96.8.15, 96.10.6, 97.8.20, 97.8.21, 97.9.7
f: 97.4.29, 97.6.5, 97.6.29, 97.7.5, 97.9.7
g: 96.10.10, 97.9.6, h: 97.4.29, 97.9.6, i: 96.5.26

<カワトンボ科>

1. ハグロトンボ *Calopteryx atrata* Selys
(25. II. 1996 幼虫 U, 20. III. 1996 幼虫 U, 21. VII. 1996 KI, 10. VII. 1996 KO, 16. VII. 1996 KI, 31. VII. 1996 KI, 15. IX. 1996 幼虫 U, 6. X. 1996 幼虫 U, 2. VII. 1997 KO)
2. ニシカワトンボ *Mnais pruinosa pruinosa* Selys
(27. IV. 1996 KI, 28. IV. 1996 KI, 12. V. 1996 KI, 26. V. 1996 KI, 2. VI. 1996 KI, 4. V. 1997 KO, 8. VI. 1997 KO)
3. オオカワトンボ *Mnais nawai* Yamamoto
(18. V. 1996 KI, 26. V. 1996 KI, 2. VI. 1996 KI, 6. X. 1996 幼虫 U, 4. V. 1997 KO)

<サナエトンボ科>

1. ヤマサナエ *Asiagomphus melaenops* (Selys)
(25. II. 1996 幼虫 U, 20. III. 1996 幼虫 U, 26. V. 1996 KI, 2. VI. 1996 KI, 16. VI. 1996 KI, 15. IX. 1996 幼虫 U, 6. X. 1996 幼虫 U, 10. X. 1996 幼虫 U)
2. オグマサナエ *Trigomphus ogumai* Asahina
(18. V. 1996 KI)
3. ダビドサナエ *Davidius nanus* (Selys)
(25. II. 1996 幼虫 U, 20. III. 1996 幼虫 U, 18. V. 1996 KI, 2. VI. 1996 KI, 6. X. 1996 幼虫 U, 6. IX. 1997 幼虫 U)
4. オジロサナエ *Stylogomphus suzukii* (Oguma)
(21. VII. 1996 KI, 15. IX. 1996 幼虫 U, 6. X. 1996 幼虫 U, 20. VII. 1997 幼虫 U)
5. オナガサナエ *Onychogomphus viridicostus* (Oguma)
(15. IX. 1996 幼虫 U)
6. コオニヤンマ *Sieboldius albardae* Selys
(30. VI. 1996 KI, 15. IX. 1996 幼虫 U, 6. X. 1996 幼虫 U, 5. VII. 1997 KO, 20. VII. 1997 幼虫 U)

<オニヤンマ科>

1. オニヤンマ *Anotogaster sieboldii* (Selys)

- (20. III. 1996 幼虫 U, 16. VII. 1996 KI, 6. X. 1996 幼虫 U, 10. X. 1996 U 幼虫, 2. VII. 1997 KO, 6. IX. 1997 幼虫 U)

<ヤンマ科>

1. サラサヤンマ *Oligoaeschna pryeri* (Martin)
(8. VI. 1997 KO)
2. コシボソヤンマ *Boyeria maclachlani* (Selys)
(20. III. 1996 幼虫 U, 7. IX. 1996 KI, 15. IX. 1996 幼虫 U, 6. X. 1996 幼虫 U, 8. IX. 1996 KO, 20. VII. 1997 幼虫 U)
3. カトリヤンマ *Gynacantha japonica* Bartenef
(6. X. 1996 KI, 6. IX. 1997 幼虫 U, 20. IX. 1997 KO)
4. ヤブヤンマ *Polycanthagyna melanictera* (Selys)
(21. VII. 1996 KI)
5. ギンヤンマ *Anax parthenope julius* Brauer
(16. VII. 1996 KI, 5. VI. 1997 幼虫 U)

<エゾトンボ科>

1. コヤマトンボ *Macromia amphigena amphigena* Selys
(16. VI. 1996 KI, 21. VII. 1996 KI, 15. IX. 1996 幼虫 U, 6. X. 1996 幼虫 U, 20. VII. 1997 幼虫 U)
2. オオヤマトンボ *Epophthalmia elegans* (Brauer)
(2. VI. 1996 KI)

<トンボ科>

1. ハラヒロトンボ *Lyriothemis pachygastra* (Selys)
(30. VI. 1996 KI, 6. VII. 1996 KI, 5. VII. 1997 KO)
2. シオヤトンボ *Orthetrum japonicum japonicum* (Uhler)
(28. IV. 1996 KI, 12. V. 1996 KI, 26. V. 1996 KI, 2. VI. 1996 KI)
3. シオカラトンボ *Orthetrum albistylum speciosum* (Uhler)
(18. V. 1996 KI, 10. VII. 1996 KO)
4. オオシオカラトンボ *Orthetrum triangulare*

melania (Selys)

(6. VII. 1996 KI)

5. コフキトンボ *Deilinia phaon* (Selys)
(5. VI. 1997 羽化殻 U)
6. ショウジョウトンボ *Crocothemis servilia marinae* Kiauta
(17. VII. 1996 F, 29. VI. 1997 幼虫 U)
7. ナツアカネ *Sympetrum darwinianum* (Selys)
(13. VII. 1996 KO, 8. IX. 1996 KO, 20. X. 1996 KI, 29. VI. 1997 幼虫 U)
8. アキアカネ *Sympetrum frequens* (Selys)
(30. VI. 1996 KI, 5. VII. 1997 幼虫 U)
9. マユタテアカネ *Sympetrum eroticum eroticum* (Selys)
(6. VII. 1996 KI, 13. VII. 1996 KO, 10. VII. 1996 KO, 8. X. 1996 KO, 15. IX. 1996 幼虫 U, 5. VII. 1997 KO, 2. VII. 1997 KO)
10. ノシメトンボ *Sympetrum infuscatum* (Selys)
(6. VII. 1996 KI, 5. VII. 1997 幼虫 U)
11. コシアキトンボ *Pseudothemis zonata* (Burmeister)
(6. VII. 1996 KI)
12. ウスバキトンボ *Pantala flavescens* (Fabricius)
(16. VII. 1996 KI)

注) 日付は採集した日の主なものを示す。KIは木下、Uは牛尾、Fは福原氏、KOは近藤氏による。

<参考文献>

- 1) 宝塚市教育委員会(1982) 宝塚のトンボ。
 - 2) 兵庫県自然保護協会編(1997) ひょうごの野生動物、神戸新聞総合出版センター。
 - 3) 石田昇三ほか(1993) 日本産トンボ幼虫・成虫検索図説、東海大学出版。
 - 4) 中根猛彦ほか(1983) 原色日本昆虫図鑑上下、保育社。
 - 5) 川合楨次編(1995) 日本産水生昆虫検索図説、東海大学出版。
 - 6) 浜田 康(1993) 土佐のトンボ、高知新聞社。
- (KINOSHITA SHUICHI 池田市伏尾台5-1-5-901)
(USHIO TAKUMI 川西市清和台3-6, 19-404)

キベリハムシが初めて日本で記録されたころの思い出

高橋 寿郎

キベリハムシ *Oides bowringii* (BARY) は、現在の日本では兵庫県下の分布が知られているだけといった大変珍しいハムシである。

緑青色に黄褐色にふちどられた美しいハムシの仲間のうちでも、最大級の大型のハムシの1種である。このハムシが日本から初めて見つけられた頃から、筆者もこのハムシに接してきた関係で、このハムシの日本での記録を第二次世界大戦まで(1945)を中心にまとめてみた。

このハムシが日本での文献の中で初めて現れたのは、1933年加藤正世博士が分類日本原色昆虫図鑑第9輯 p1. 23, f. 6 にカラーで産地は台湾(当時の台湾は日本)として図説されたのにはじまる(尤も日本の雑誌である動物学雑誌 Vol. 39, No. 466, p. 323-329, 1927 の中で土井久作が“朝鮮産葉虫科の研究”を発表しており、そのp. 337に *Oides bowring* BARY として支那、朝鮮を分布に記してあるが、データは全くついていない。種名はミスプリントである)。

加藤正世博士が図説されたものが何処産で何時採集されたものか、誰が採集したものであるのかといったことが全くわからない。同じ年、関公一が“御影町附近産の甲虫目録(其の二)”(昆虫界 Vol. 1, No. 5, p. 434, 1933)を発表、その中でこの加藤の図鑑による同定としてキベリハムシ *Oides bowringii* BARY を記録している。この記録が日本で2番目にキベリハムシが文献上に現れたものになるかと思う。ただし、この産地が何処であるのかははっきりしない。この“御影町附近産の甲虫目録(其の一)”(昆虫界, Vol. 1, No. 3, p. 251, 1933)に収録範囲を“御影町を中心とし、六甲山、摩耶山、芦屋山等をも含む”としている。したがって、六甲山麓と考えるのが妥当のように思われる。そのはじめに御影町附近の採集地も人口の増加に蠶食せられ次第に狭められてゆくこと

は残念でならないと記されており、当時既に神戸の無秩序な開発がおこなわれはじめている様子がうかがえる。

1933年8月6日六甲山の中腹あたりの藪にて採集せる甲虫を加藤正世博士の図鑑で調べた所キベリハムシ(新稱) *Oides bowringii* BARY [分布] 台湾とあったが、この点を教えてほしいといった質疑が人見一馬によってなされ(昆虫界 Vol. 1, No. 6, p. 656, 1933)、これに対し加藤正世博士は1933年夏の採集旅行の途中神戸で那須範子サンの標本中にキベリハムシを見出し貰い受けたが、台湾のものと全く同種でしたと説明してあり、同時にハムシ専門であった湯浅啓温博士のこのハムシについての問合せに対する返事がのせられていた。その回答で“キベリハムシは台湾から未記録だったのではないだろうか。勿論内地からもはじめてで私は未だ同定したことがありません。”とある。

生田豊一は神戸市篠原で 1933. VII. 20 キベリハムシを採集したのを貰ったと記録を発表している。学名 *Oides bowringii* BARY となっている(昆虫界 Vol. 2, No. 7, p. 118, 1934)、此处で加藤正世博士は江崎悌三博士の私信で、江崎悌三博士が中学時代大阪附近で採集されたキベリハムシの標本を、学校の宿題の中に見つけて貰いうけて現在も所有しているとのことを記している。江崎悌三博士の中学時代のことであるから、大正2年頃(1913)になるのかと思われる(採集場所が全くわからない。大阪附近とあるが、大阪附近にいたとは思われないが、江崎悌三博士は大阪北野中学校卒業)。

足立輝一は1934年神戸一中の夏季宿題での“生徒採集昆虫調査報告”を発表された(昆虫界 Vol. 2, No. 8, 1934)。その中で「キベリハムシ」は数頭採集されていた、この種はさほど珍しくないとししているが、採集場所など記されていない。学校の関係から、摩耶山、六甲山のどちらかと考えられ

る(足立輝一は神戸一中～現神戸高校～から北大理学部動物学科を卒業, 朝日新聞社入社, 科学朝日, 週刊朝日の編集長をつとめた方)。

加藤正世博士は, 1933年8月11日, 六甲山へ採集を試みた際, 那須範子の所によってキベリハムシを見出し, 摩耶山産のものであるとのことで, そこへ案内して貰ったが見られなかったとのこと(那須範子の岳父は内田清之助博士と同級生である)(昆虫界 Vol. 2, No. 9, p. 329, 1934)。

1934年9月15日より1週間, 大阪淀屋橋美津濃ビルの2階で昆虫趣味の会主催の第2回昆虫展覧会が開催された。この出品物の中にキベリハムシがあり, それについては加藤正世博士は特に注目, 詳しく産地を示されている。

鳥原(鳥原とミス印刷)(9.8.9, 神戸平野小一年, 箸方照男採集), 平原(9.8.19, 同六年米澤 璋採集), 再度山(9.8.17, 同五年, 城崎 進採集), 芦屋高座瀧(6.7.8, 甲陽中学)とある。鳥原, 平野, 再度山はいずれもお互いに近い距離の場所である。いわゆる六甲山系の西端近くに位置する所である(昆虫界 Vol. 2, No. 12, p. 688-689, 1934)。

1937年, 横山光夫は“環境とFamily 昆虫の大阪(そのI)”を公表(昆虫界 Vol. 5, No. 45, p. 52, 1937), その中で“六甲山のキベリハムシの多産は獨りで二百数十頭を採集出来た程度で驚くに足る”と記された。このことは同氏が翌年発表の“環境とFamily 昆虫の大阪(そのII)”(昆虫界 Vol. 6, No. 54, p. 44, 1938)の中で“六甲山で近來特に一大発生を全山に見出されて驚異とされ獨り内地に於ける唯一無二の採集地として先づキベリハムシを紹介しなくてはならない。その最も多く生棲するのは鳥原水源地附近であり續いて木山牧場(本山牧場?—筆者注)跡より寒天山に越す一軒家の附近であるが山頂に續く廻遊路にも各所にその姿を見受けられる。このキベリハムシが始めて六甲山に於て採集されたのは今から約十年前小林氏(小林桂助氏—筆者注)によって得られたものであるが当時小林氏の話では台湾のものとして信じる者も無かったが日本の商港神戸に移住されたキベ

リハムシは遂に本土の帰化昆虫と成った事はオホキンカメムシと共に著名なものの一つであらう(原文通り)”と大変貴重な報文を発表している。

同年平山修次郎の原色千種續昆虫圖譜が出版され, その中で“兵庫県六甲山産 4.8.1936”としてキベリハムシがカラーで圖説された(pl. 74, f. 2, p. 167), “本州(神戸地方), 台湾ニ産ス”とある。

1937年出版の大阪昆虫同好会(大阪府箕面公園)編集“京阪神の昆虫採集地”という小冊子が発行された。その中で(p. 19)“六甲山. キベリハムシ(六, 七月)等も稀に採集される”とある。

1935年田中光照氏が鳥原貯水池畔でキベリハムシを採集飼育を始められた。田中光照氏は明石高校から東京農大にすすまれた方で, 弟の田中靖也氏が神戸二中からやはり東京農大にすすまれた方で, この田中靖也氏が筆者の神戸二中(現兵庫高校)の一年先輩にあたり, 御宅も筆者の家の近くでお伺いして飼育中のキベリハムシ何百頭がビナシカズラを蚕食している様子を拝見, 驚いたりしたものである。これ等は夢野大師登り口旭ヶ丘及び鳥原産のもので, これらの飼育に基づいて1938年, 田中光照氏は兵庫県中等博物学雑誌創刊号に“キベリハムシ”と題して形態, 生態についての報文を発表になった(残念ながら紙面の都合で飼育状況等が割愛されている)。

1938年鍋木 渡が“キベリハムシ”と題する報文を発表(昆虫界, Vol. 6, No. 58, p. 26-29), その形態, 生態, 分布等をのべているが何処産の材料を用いているのか明記は無い。

当時神戸税関に勤務しておられた松本賢吉氏もキベリハムシを飼育しておられ, 1938年“キベリハムシに関する知見”なる報文を発表になった(日本の甲虫 Vol. 2, No. 2, p. 65-67, 1938)(文中キベリハムシが明治末頃に渡来, 帰化昆虫となったものではなからうかと記している。氏はキベリハムシ情報交換のため1938年筆者宅へこられた)。

昭和14年(1939)6月14日の大阪朝日新聞(No. 20711)紙上に“向学の兄弟に凱歌, 亜熱帯の昆虫を裏山で発見, 研鑽, 自家飼育に成功”という見

出しで写真も入れて大きく報道された。これは鳥原貯水池畔並びに夢野大師登り口旭ヶ丘で採集のキベリハムシを飼育された田中光照・田中靖也兄弟のことである。

筆者が鳥原貯水池畔でキベリハムシを採集したのは、1936(昭和11)年7月24日が初めてである。同年昆虫趣味の会に入会した。入会して初めて送られて来た会誌“昆虫界”はNo. 29, 30, 31の合併号の岸田久吉・中村 倭共著の“日本帝国産蝶類目録”という242p.の大冊であった。何と云っても初めて昆虫に関する機関誌を手にしたものが蝶類目録であったのだからビックリした。これはどの様なものであるのかその内容を理解出来ずに困ったものである。

1938年には昆虫趣味の会神戸支部が出来、早速入会させて頂いて支部長関 公一氏宅(御影町)へは何回か訪問、いろいろと虫のことを教えて貰った。近所に住んでいた幹事の米谷正司氏の宅へも何回か訪問、氏の立派な標本を見せて貰ったり、Arrow の Fauna of British India Lamellicornia, Part.1, Cetonia, Dynastinae を見て驚いたりした(尤もこの番は関 公一氏の蔵書だったようである)。他に BREUNING の Monog. der Gattung Carabus を自慢気に見せて下さったのが忘れられない。氏は当時標本商のようなことをやっており、氏から昆虫標本箱を領けて貰って現在も所有している。そこで新島善直・木下栄次郎両博士の“こがねむしに関する研究報告、第Ⅱ巻”をお借りしてコピーさせて頂いた(当時は文献のコピーは手書きか写真に撮る位で今のようなゼロックスは無かった。筆者は手書きで寫した。これは製本して現在も持っている)。こうしてコガネムシの研究にのめり込むきっかけとなった。

一方、キベリハムシの飼育を始めた、このハムシの調べを始めていた。はたしてこのハムシが台湾にいるのかどうか、当時台北帝大におられた中條道夫博士に手紙を差しあげお尋ねした所、台湾にキベリハムシは分布していないと思うとの返事を頂いた。

キベリハムシに関する文献は東大農学部の高橋信治氏にお尋ねして返事を頂いたが、分布は Hongkong, China, Korea, Formosa となっていた。

明石にお住いであった鈴木元次郎氏宅(確か表戸を開いた家の入口に花園昆虫研究所の表札があったと記憶している)を訪問、キベリハムシについての情報をお伺いしたが、20年位前から神戸にいたようだと言った程度の情報しか得られなかった。氏は目下日本産のオサムシリストを作製中だとタイプで打った原稿を見せて下さった。

当時からキベリハムシが神戸に何時頃からいたのかと云ったことに興味があったが、記録がほとんど無くただ漠然と大正の初めか明治時代にやって来たのではないかといった程度であった。

戦後のことであるが、戸沢信義氏からの貴重なお便りを頂いた。即ち、1918(大正7)年ごろ国鉄(当時は鉄道院)三宮駅(今の元町駅付近)の貨物掛に勤務しておられた加古川在住の高田千万喜という人が、駅構内で貨物からもれたものを採集された標本並びにその他の地で採集した標本を持参、戸沢氏を訪問された由(そのときの標本に基づき野平安芸雄博士が昆虫学雑誌第3巻、第3・4号、1919に短報を発表しておられるとのこと)。その中には鳥原で採集されたキベリハムシの標本が数頭あったとのこと。駅構内での採集品の中にはダイコクコガネや外国産の甲虫があり、インド、オーストラリア産らしい標本もあり、それらが貨物からこぼれたものであるとのこと。当時の状況から外国産の昆虫が日本に潜入することがかなりあったのではなかろうか(日本に定着できたかどうかは別として)。したがってこのような経過でキベリハムシが神戸で定着したのではないかと考えられ、たいへんおもしろい記録である。なお同氏のコレクションは土地の素封家にゆずられたとのことで、一部は京都大学に売られたとのことである。

1936年、Ogloblin の Fauna U.S.S.R. Vol.20, No.1, Chrysomelidae, Galerucinae が出版されたが、この中で *Oides bouwingii* BALY はとりあげら

れているが(p. 149), 分布に Korea, Japan が記録されているだけで具体的な産地などは何も示されていない。

筆者も鳥原産のもので飼育をしたりしたものであるから, “キベリハムシに就いて”なる報文を発表(昆虫界 Vol. 8, No. 72, pp. 104-112, 1940), その形態, 生態などを紹介した。

戦前他にキベリハムシについての報文があるがいずれも分布を中心にのべたもので, このハムシが何時頃から日本(神戸)にいたのかとか, 何故他の地域に分布が見られないのかと云ったようなことは全くわかっていなかった。

世は戦争で虫どころではなくなった。筆者も第一次学徒出陣で広島から中国大陆の戦線に送られた。戦後出版の各種原色図鑑には美しいキベリハムシはカラーで紹介されており, 一般には良く知られたハムシとなっていると思われるが, 依然としてこのハムシの日本での棲息の始まった時期とか分布がなぜ限られているのかといった問題は不明のままである。

戦後, 一番初めに分類学文献として現れたのは CHŪJŌ et KIMOTO, Systematic catalog of Japanese Chrysomelidae (Pac. Ins. 3(1):117-202, 1961) であると思われる。そして分布は China, Korea, Japan となっている。

1963年発表の J. L. GRESSITT & S. KIMOTO の “The Chrysomelidae (Coleop.) of China and Korea, Part. 2” (Pacific Insects Monograph 1B:476, 1963) の中で中国での産地を多く記入しており, 分布としては “S. China (Kuwantung, Fukien, Kiangsi, Hupeh, Szechuan, Sikang), Korea?, Japan” となっている。Korea には疑問符がつけられている。

木元新作博士は, “The Chrysomelidae of Japan and the Ryukyu Islands, VI” (Jour. Fac. Agr. Kyushu Univ. Vol. 13, No. 2, p. 307, 1964) の中で兵庫県神戸市鳥原, 六甲山の標本を示して分布として “S. China, Korea, Japan (Honshu)” とされている。

ここで一寸注意しなくてはならないのは, 原記載は BARY によって *Adorium bowringii* BALY と新種記載されているのであるが(Ent. Soc. Lond., Trans. ser. 3, 1:623, 1863), 日本での古い文献では種名が *bowring*, *bowringi* となっている。この種が *Oides* 属の種となったのは LABOISSIERE の論文からである(1919, Soc. Ent. France Bull. p. 161 “N. China”). 木元新作博士の “Chrysomelidae (Coleoptera) of Thailand, Cambodia, Laos and Vietnam, IV, Galerucinae” (ESAKIA, No. 27, pp. 1-241, 1989) では本種は Vietnam, S. China, Japan, Korea と分布がなっている(p. 35-36)。朝鮮にも分布しているのかどうか現在でもよくわからない。なお, 上記木元新作博士の論文でトンキン産で報告されている *Oides elegans* LABOISSIERE, 1919, *Oides tonkinensis* LABOISSIERE, 1929 は共にキベリハムシのシノニムとされている。1990年, ベトナム産の2♂1♀を入手した。雄は初めて見たのであるが, 形態から日本産のものは亜種になるのではと考えている(きべりはむし Vol. 18, No. 2, pp. 43-44, 1990)。

筆者は1944年, 中国湖北省当陽県河溶鎮の戦線で野生のノブドウに数百といった *Oides decempunctata* BILLERO トホシセマルオオハムシが太陽にキラキラと輝いて群棲しているのに出会って, キベリハムシと同じような自然状況ににいることに感激したものである。まだまだ日本産のキベリハムシについてはわからないことが多くある。このような大型の美しいハムシが日本の兵庫県下のみ分布していると云うのは不思議である。食草からしてもっと広くてもいいように思うのだが, これからも調べて見なくては行けないハムシである(文中に出て来る戦前の方々に現在生きておられる方は何人もいない。淋しい限りである)。

(兵庫県甲虫相資料・339)

(1997・VI)

(TAKAHASHI TOSHIO 神戸市兵庫区氷室町1-44)

兵庫県の蝶／観察と知見②

— サカハチチョウ・ツマグ・ロヒョウモン —

大東 康人

はじめに

兵庫県下でこれまでに生息が確認された蝶類は凡そ120種前後と考えられるが、それぞれについての産地別の生息環境や発生時期と発生回数、あるいは野外での生態面など、県下では未だ知られる部分が多いのが現状である。そこで今回は、フィールドで目にしたり気付いた事柄を書き留めたフィールドノートの中から、県内で観察した成虫について、幾つかを拾い出してみた。

サカハチチョウ

①観察事項

1997年8月2日の午後 4時50分、波賀町赤西溪谷の上流域にある営林署の小屋跡付近で、サカハチチョウ (*Araschnia burejana*) の成虫を観察する機会を得た。とは言うものの、観察に訪れたとき、辺りは既に陽が西の尾根に遮られて薄暗くなりかけており、黄昏時に行動する種を除いては、もはや蝶の飛翔には遅すぎる時間かと思われたが未だサカハチチョウの他カラスアゲハ・コムラサキ・スジグロシロチョウ・キチョウ・ツバメシジミ・ホソバセセリ・コキマダラセセリなどの飛ぶ姿が見られた。

本種はアカマダラ属の蝶として、滑翔と羽撃きを交互にくり返す独特の飛翔(以下、便宜的に「滑空羽撃き飛翔」と略す)で知られる。

この日、観察したのは3頭の雄の個体で、夕刻の時間帯であっても、まだそれぞれがテリトリー行動をとっていた。1頭は地上2m程の低木の先端部の葉上(以下Aとする)、2頭目は同4m程の樹木の樹幹部(Bとする)、また3頭目は15m近い高木の7~8m付近に張り出した横枝(Cとする)を専有場所にしており、中でもA地点の雄は最も飛翔回数が多かった。これは、A地点の付近では、

先に掲げた様々な蝶の活動が続いており、これらに勝発されてのものと考えられた。

A地点の雄は、「滑空羽撃き飛翔」で域内をゆっくりと旋回していたが、時にはこれがB地点の雄を刺激し、幾度かの追飛行動につながっていった。この時の雄Bはこれまでの本種とはうって変わった速さで、たちまち雄2頭による「卍飛翔」が始まった。2頭の接触地点は、地上約3mの高さであったが、その直後から直径20cm程の円を描き高速で回転しながら螺旋状にゆっくりと上昇し続け、約7~8秒をかけて、地上約10mの高さまで上り詰めた。その速度と羽搏き回数は、「高等ゼフィルス」による「卍飛翔」と見紛うばかりのものであった。

この時点でBと思しき雄は競り負けて円外に弾き出されたが、一方、勝ち誇った様に速度を緩めた雄Aは、また元の「滑空羽撃き飛翔」に戻り、広場中心部の空間に向けて下降を開始した。この時、C地点の雄に約5mの距離に接近した時点で、今度は雄Cが飛び立った。しかし、対する雄Aには、先程の様に空中戦を展開する気配は見られず半ば逃げる様にして、元のA地点に舞い戻った。一方、肩すかしを食らった恰好の雄Cは、付近の上空を2~3度旋回した後、C地点近くに降り立った。また、雄Aに競り負けた雄Bは広場の域外にしばらく姿をくらましていたが、ものの5分もたたぬ内に元のB地点付近に舞い戻って、占有行動を再開しはじめた。

この一連の行動は、40分の間に3度繰り返されたが、その後は夕闇が濃くなったため観察を断念した。今にしてみれば、活動の限界となる照度を確認しなかったことが、悔やまれてならない。

②観察結果より

1) 雄の占有活動時間帯

ジャノメチョウ科の多くの種や、シジミチョウ

科の一部(ゼフィルス等)など、早朝や夕刻に活動のピークを迎える種の存在は一般に広く知られているが、これ以外の殆どの種は、「昼間に活動するもの」との常識が罷り通っている。

今回はオナガシジミの生息調査と生態観察を目的に当地に入った訳だが、はからずも黄昏時におけるサカハチチョウの専有行動に遭遇することになった。尚、この日の天候は一日中安定しており日中の活動に支障はなかったと思われる。

本種の雄は近縁のアカタテハ族と同じく、「なわばり行動」をとることが知られている。そこでこの行動について、1987年以降の文献^{P1-X1}をあたって見たが、手掛かりとなるものは得られなかった。また、文献¹には「午後に行く」と書かれているが詳細の記述がなく、さらに文献^{K1}では、「夕方に活動する」と、簡単に記述されているのみで、その実態は未だ明らかだとは言えない。

このため、果して本種は夕刻の活動が可能なのか否か、成虫の形態面と生態面から、文献と野外での観察をもとに、検討を加えることにした。

◆形態面からの検討

まず形態面については文献^{A1}に、参考となる報文の要約があった。これによると、「早朝または夕方に活動する蝶は、複眼の個眼と個眼の間に、長い毛が密生していることが多く、これが朝夕の弱い光を受けて長い影をつくり、複眼の動きに微妙な影響を与える」ことが判った。これを手掛かりに、サカハチチョウの眼の形態を文献^{K1}で確認したところ、「複眼は蜜に毛で覆われている」ことが判明した。

従って眼の形態で見る限り、「本種は夕刻の活動に適した形態を持つ」と言えそうである。

◆生態面からの検討

次に生態面から見ると、蝶の雄がテリトリー行動を行う場合、その一帯は雌が好んで飛来する場所、即ち「雌を待ち伏せするに相応しい環境」と推定される。ましてや、今回は現実に3頭の雄が同一の空間を共有し占有を行っており、この時の場所・気象条件・時間帯は共に、本種の占有行動に最適な状況であったと推定できる。

従って、生態面から見ても、「本種は夕刻の時

間にも活動する」ことは否定し難い。尤も、現地を訪れたときは既に本種の活動が始まっており、はたして日中の活動がそのまま続いたのか、あるいは夕刻に始まったのかについて、今回は結論を出すことが出来なかった。

◆検討の結果

以上の如く、本件については未だ不明な点も多いが、少なくとも本種は、「明度がかなり低下する黄昏時であっても、十分に飛翔あるいは雌雄を識別する能力を持つ」ことは、明らかになったと言えよう。

尚、この観察地では先に述べたように、黄昏時に活動する多くの蝶が観察された。ただ残念なことに今回はこの何れの種についても、活動を終える際の「照度」を確認することが出来ず、これは大いなる反省点である。

2) 飛翔パターンの変化

蝶が状況の変化に応じて、或いは目的に合わせて飛翔パターンを変えることは、アサギマダラやアゲハチョウ科など、多くの報告が挙げられている。身の危険を感じたとき、あるいは風雨など天候の急変、更には占有行動や追飛等、その時々々の状況と目的に応じて最適な飛翔パターンを使い分けることで、自己の安全や種の存続に係わる有利な結果に結びつけてきたのであろう。また、このうち追飛行動ひとつをとっても、ゼフィルスのように「**卍**飛翔」を行うのもあれば直線飛行のタイプ、あるいはジグザグ行動をとるものなど、種によって様々な違いが見られる。

さて、県下では「普通種」の範疇に入る本種は一般の興味の対象から外れており、また全国的にも同じ傾向であるのか、調査した範囲では追飛行動などを詳しく調べた文献は見当らず、どうやら本種の「**卍**飛翔」については、今回が初の報告となるようである。

そこで、観察の結果をさらに一歩進め、本種の素早い追飛行動や高速の**卍**飛翔を可能にする力の源泉について、文献を参照しながら、成虫の「形態」と「生態」の両面から検討を試みた。

◆形態面からの検討

国内には凡そ8科230種余りの、それぞれに固

有の生態を持つ蝶が棲息しているが、それは取りも直さず形態上の特徴、即ち、種ごとに異なる固有の行動を可能とする体の構造によって支えられている。この内、特に今回の検討対象とした高速飛翔や卍飛翔は、自らの体力と能力を限界まで駆使することが必要な行為である。

そこで、この高速飛翔や卍飛翔に必要な能力とは何かを、推定してみることにした。

- ①自己と相手、および周囲との位置関係を瞬時に確認できる能力。
- ②高速の羽撃きに必要な、強靱な筋力。
- ③高速の風圧に耐える、丈夫な翔。
- ④高速の方向転換や旋回に必要な、4枚の翔を個別に自由自在にコントロールする能力。
- ⑤①～④を即座に判断し制御する、脳と神経系統。

概略ではあるが上の5点が、この一連の行動に必要な能力と推定したのだが、さて次には、これらの個々の検証作業が必要である。

蝶類は他の昆虫類と異なっており、これまで多くの人により生態や形態面の検討が進み、成果が積み上げられてきた。それ故、あるいは既にこれ等の解明作業は終わっていると思えたが、調査した範囲では、手掛かりとなる資料は得られなかった。このため、5項目の中から取り敢えず筋力と翔をテーマに、検討を進めていきたい。

しかしながら、ここで改めて本種を見た場合、はたして筋力や翔が強靱なのか、外見だけでは到底判断がつかず、また素人が簡単に計測して数値化できる内容でもない。従って、ここでは解剖学的なアプローチが必要な本種やゼフィルススの検討を諦め、素人が机上でも検討が可能なセセリチョウ科を例にとることをお許し願いたい。

本邦産蝶類のうち、セセリチョウ科は特に直線的な素早い飛翔で知られる。本科は他の蝶類に比べて翔と胴体の面積比が小さく、また重量比も異なっているが、羽撃き回数を上げることで大きな浮力を得、急停止や急降下も可能なであろう。これには、高速の羽撃きに必要な筋力と翔の強靱さを必要とするが、確かにセセリチョウの筋肉と翔は共に強く頑丈で、展翅の際に思い知らされる

ことが多い。このうち翅についてみると、感覚的な話で恐縮であるが、翅が厚く、また翅脈も相対的に太く出来ているように思える。

これらのことが、果してサカハチチョウに通じるものか甚だ心もとないが、もしこれ等について調査したデータをお持ちの方があれば、ご教授願えれば幸いである。

◆生態面からの検討

蝶の行動を決めるものは、自らの生命の維持と種の存続の2点にあるとされるが、その時、雌雄がそれぞれの立場と役割に応じて固有の行動をとることがある。このうち、雄に固有の行動としては「探雌行動」や「求愛行動」のほか、雌の獲得を阻害する要因を取り除く「排除行動」などが挙げられ、片や雌の方は「産卵行動」等がこれにあたる。

本種の場合、探雌行動は「待ち伏せ」型でありそのため雄は、雌が好む場所あるいは雌を最も発見し易い場所を求めて、「陣取り合戦」を行う。

この行為が、冒頭に述べた追飛であり卍飛翔なのだが、雄にとってこの「排除行動」は、正に「種の存続」に係わる「最大のライバルを排除するための、最もエネルギーを必要とする行為」なのである。

さて、今回観察したのは、この探雌行動と排除行動にあたる。この内、「探雌行動」は通常と変わらない「滑空羽撃き飛翔」であったが、一方の「排除行動」はまるで「高等ゼフィルス」と見紛うばかりの俊敏なもので、互いに相手を必死で排除しようとする意志が伺い知れた。

そこで、空中戦を展開する雄同士の動きを読み取り、下記の6点が「勝ち」を得るための要点ではないかと推定してみた。

- ①相手の存在に、より早く気付くこと。
- ②より早く、追撃態勢がとれること。
- ③より速く、また機敏な行動がとれること。
- ④相手の背後に廻り込むこと。
- ⑤常に相手の後ろから追い回すこと。
- ⑥最後は相手に根をあげさせて追い出すこと。

つまり、雄は持てる能力とエネルギーを最大にすることで「変身」(飛翔パターンの変更)を遂げ相手に勝る力を示して「勝ち」を得ようとしているのではない。

3) 検討を終えて

以上、今回は本種が占有を行う時間帯と飛翔パターンについて検討したが、この作業を通じて痛感したのは、本種に関する観察や検討データの少なさである。先にも述べたように、本種が普通種であるせいか、興味をもって接する人は皆無といえる程に少ない。それだけに、今回の検討項目以外にもまだ幾つか、生態面で未解明の部分が残されているようだ。

また、本種以外にも同様に、飛翔パターンの変化を調査していない「普通種」が、数多くいる筈である。これ等の種の様々な飛翔パターンについて、その行動の目的となる行為との関係、あるいは種によって異なる飛翔パターンの比較等、今後時間をかけて、地道に調べていく必要を感じる。また、この様な地道な活動の中から、人を含めた生物全体の多様性や共存の原理が、ほの見えてくるような気がしてならない。

ツマグロヒョウモン

①筆者の古い採集記録

年代は少し旧くなるが、1960年の5月16日、明石市大蔵谷東山西山の自宅でツマグロヒョウモン (*Argyreus hyperbius*) の雌1頭を採集しており、本種は庭のマリーゴールドに訪れていたものである。この個体は、ほぼ新鮮な状態で羽の破損も無く、恐らく付近で発生したものと推定して授し回った。しかし、同年、翌年ともに本種を見ることは出来ず、ようやく62年の10月7日、上記と同じ場所で訪花中の雄1頭を記録した。

②県下の古い記録

最近、暖地性の蝶による東進や北進が蝶界の話題を賑わしており、本種もその例を示す種として注目を集めている。そこで古い文献や採集記録を集め、県下で本種が登場しはじめ、やがて定着していくまでの経緯を探ることにした。

本件について、筆者が目にする事の出来た最初の文献は、高橋寿郎氏による「神戸産数種の蝶

類に就いて」(1941年発行の昆虫世界^{B)})の一文で、これには須磨の月見山に少数、舞子で多産する、との記述があった。文面は、両地ともに本種の持続的な発生を伺わせるものであるが、観察時期や継続発生の有無など、詳細は不明である。これ以降のデータは、終戦後から断続的に続いており、以下に筆者が知り得た1960年代前半までの記録を列記してみる。

1941	<須磨で少数、舞子で多産>	高橋寿郎 ^{B)}
1946- 8- 4	1♂	氷ノ山北麓 山本広一 ^{C)}
1948- 8- 4	1♂	氷上郡栗ヶ峰 吉坂道雄 ^{C)}
1950- 7- 2	1♀	神戸市六甲山 吉坂道雄 ^{C)}
1950- 7-24	1♂	洲本市三熊山 堀田 久 ^{D)}
1955- 8-10	1♀	相生市大谷町 米村和繁
1956- 7- 4	1♂	相生市大谷町 米村和繁
1958	<小野市で秋に時たま見られる>	山本広一 ^{E)}
1958	<兵庫県では土着>	白水 隆 ^{F)}
1958- 8- 4	1♂	洲本市先山 堀田 久 ^{D)}
1959- 5-24	多数	西脇市西林寺 猪股涼一ほか ^{G)}
1959- 8-16	1♂	洲本市宇山 梅本晃義 ^{D)}
1960- 5-16	1♀	明石市大蔵谷 大東康人
1960- 6-24	1♀	三原町阿万 藤平 明 ^{D)}
1960- 7-10	1♂	明石市松蔭新田 尾崎 勇
1960-10-12	1♂	神戸市六甲山 岩村 巖
1962-10- 7	1♂	明石市大蔵谷 大東康人
1963- 9- 5	1♂	赤穂市尾崎 山本康彦

注) 上記の^{B)} ^{E)} ^{F)} は観察された年ではなく、本件が記載された書籍の発行年を示す。

③記録から伺える事

本種は本邦産ヒョウモン類の中では珍しく多化性(年4~5回と推定される)の蝶で、移動性に富み、越冬可能な地を確保しては、東進・北進をくり返すと言われる。

だが、年月が明確な記録のうち、最も古い春季の記録は1959年と、1941年の報告から実に18年を経たものである。また、それ以前のデータは総て7~8月の夏期のもので、採集頭数はそれぞれ各1頭に過ぎない。当時、ヒョウモン類はオオウラギンヒョウモンをはじめ、平野部を含めた県下の全

域で普通に見られ、採集や観察記録として残すことは少なかったと言われる。しかし、本種はその中であって、雌雄共に特異な斑紋によって遠くからでも他のヒョウモン類と識別でき、また希少性も手伝って、観察者に採集される可能性は高いと思われたが、残念ながら当時の記録は非常に少なかった。

これらのことから、文献⁴⁾の表現なども考慮すれば、県下で1959年以前に採集された個体は近隣の他府県から東進・北進により飛来したもので、「当時は未だ冬を越せなかった」との見方も成り立つのである。

しかしながら1958年発行の文献⁵⁾は、「本種は兵庫県に土着」としており、左記リスト以外の重要なデータの存在を否定できない。

そこで再度注目すべき記録が、1941年に発表された神戸市郊外における「多産」情報⁶⁾である。

この報告は、或いは外部から飛来した本種の、暖冬による一時的な発生とも考えられ、その後、幾度となく進出・拡散と絶滅をくりかえしつつ、次第に適応可能な地を確保し、1960年前後によく土着したというのが真相ではないだろうか。

なお、県下では福崎町⁷⁾と川西市⁸⁾で越冬に成功した幼虫の生態記録が報告されている。これによると、冬季の最低気温が-6℃前後であっても十分に越冬出来ることが確認されており、上記の推定も、あながち外れているとは思えない。

以上、誠に歯切れの悪い結末になったが、どうやら、このテーマを探るには兵庫県だけでなく、近隣の府県にもデータを求め、それらの地域の推移と併せた広域的な検討が必要ということのようだ。

なお、本種は所謂「拡散移動」を好み、一箇所では群棲したり群れ飛ぶタイプではない。従って、本種が一度に多数目撃あるいは採集されないのも頷けることである。ただ、山頂に集まって占有する性質を持っているようで、県下では神鍋山の山頂付近(日高町)で雌雄各2頭を、95年7月29日に目撃している。

終わりに

1960年前後、小学生の間では昆虫採集が盛んに行われており、その成果が夏休みの作品として展示されることが多く、また市内の優秀作品を集めた展示会も行われていたが、ツマグロヒョウモンは、これらの会場で目にするのではなく、或いは兵庫県下では「迷蝶」なのかと思い込んでいた。

その後1980年代に入ると、本種の姿を頻繁に見るようになったが、この頃は蝶の世界から離れていた時期でもあり、採集はおろか目撃記録さえも残さなかった。1993年から、また蝶に親しむようになったが、この時に初めて、南方系の蝶による東進や北進が相当すすんでいることを知った。

その中には当然、本種も含まれており、この機会に、過去の記録から進出の経緯を探ろうとしたが、残念ながらデータの壁に阻まれ、不満足な結果に終わってしまった。

このことは取りも直さず、各人の記録の公表と集積が如何に重要かを示唆している。これらの生データを分類あるいは検索することで、生息地毎の発生時期や発生回数の割り出し、更には年毎の発生時期の変化(年偏差)や分布の変遷等々、興味ある様々な生態が浮き彫りとなるのである。

県下の自然環境が日々悪化していくなか、同好諸氏による生データを集積し、データベース化することは、今後ますます重要な意味をもつことになろう。

最後に、日頃から何かとご意見を拝聴している広畑政己氏と近藤伸一氏に対し、紙面を借りて心より感謝の意を表したい。尚、本稿を纏めるにあたり両氏の貴重な資料を閲覧させて頂いたほか、広畑政己氏を通じて、米村和繁・故尾崎勇・岩村巖・山本康彦の各氏の記録もご提供頂いた。ここに感謝の気持ちと共に、報告しておきたい。

<参考文献>

サカハチチョウ

- ⁴⁾ 福田晴夫・高橋真弓(1988)蝶の生態と観察
築地書館：23.

ツマグロヒョウモン

- ^{B)} 高橋寿雄(1941)神戸産数種の蝶類に就いて
昆虫世界45(521)
- ^{C)} 山本広一・吉坂道雄(1960)兵庫県産蝶類目録
(3) 兵庫生物 4-1: 38
- ^{D)} 登日邦明(1974)淡路島の蝶相(Ⅱ) 佳香蝶
26-99: 28
- ^{E)} 山本広一(1958)小野市の蝶を語る 兵庫生物
第3巻第4号: 265~.
- ^{F)} 白水隆(1958)日本産蝶類分布表 北隆館
- ^{G)} 猪股涼一・岡本清(1960)多可・西脇地方の昆虫
(1)蝶類 兵庫生物 4-1: 27
- ^{H)} 広畑政己(1979)兵庫県に於けるツマグロヒョウ
モンの越冬生態 ひろおび(4): 21~22.
- ^{I)} 広畑政己(1980)ツマグロヒョウモンの越冬と温
度について ひろおび(5): 21.
- ^{J)} 大阪昆虫同好会(1989)北摂の蝶: 44~48.

二種共通の参考文献

- ^{K)} 川副昭人・若林守男(1976)原色日本蝶類図鑑
保育社: 218. 234. 236
- ^{L)} 福田晴夫ほか(1983)原色日本蝶類生態図鑑
(Ⅱ) 保育社
- ^{M)} 大東康人(1996)但馬の蝶に関する若干の知見と
推論—ヒサツミ・リジミ— IRATSUME(20): 37~
40.
- ^{N)} 大東康人(1997)九州の蝶／観察と知見—オオリシ
ジミとオオクワガタヒョウモン— てんとうむし(11):
47~54.
- ^{O)} 大東康人(1997)兵庫県の蝶／観察と知見①—オ
チャハネセリ、ミヤマチャハネセリ— IRATSUME(21)
- ^{P)} 蝶研出版編集部(1988)蝶類年鑑1987. 蝶研出版
- ^{Q)} 蝶研出版編集部(1989)蝶類年鑑1988. 蝶研出版
- ^{R)} 蝶研出版編集部(1990)蝶類年鑑1989. 蝶研出版
- ^{S)} 蝶研出版編集部(1991)蝶類年鑑1990. 蝶研出版
- ^{T)} 蝶研出版編集部(1992)蝶類年鑑1991. 蝶研出版
- ^{U)} 蝶研出版編集部(1993)蝶類年鑑1992. 蝶研出版
- ^{V)} 蝶研出版編集部(1994)蝶類年鑑1993. 蝶研出版
- ^{W)} 蝶研出版編集部(1995)蝶類年鑑1994. 蝶研出版
- ^{X)} 蝶研出版編集部(1997)蝶類年鑑1995. 蝶研出版

(DAITOH YASUTO 神戸市垂水区狩口台4-25-301)

サラサヤンマを中町で確認

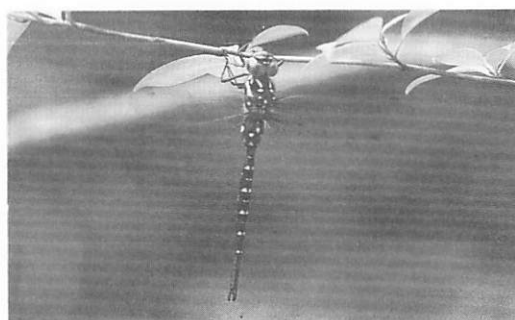
蛭田 永規

多可郡中町東安田(新池)上流側の湿地においてサラサヤンマを確認したので報告する。当池は6年前から主としてトンボと水生昆虫の調査が続いているが、ため池、湿地、林(アカマツの二次林)の環境が段階的にあり、トンボ類にとっては生息に適した環境ではないと思われる。確認したのは周囲を木立に囲まれた湿地で、地面から50~150cmの高さのところを時折ホバリングしながら飛行していた。縄張り占有もしくは♀を探していたものと思われる。なお、検索後、写真撮影のみにとどめ、採集はしていない。

(確認月日) 1997年5月18日 正午ごろ

また、当地の林においてギフチョウの卵を1997年4月27日に9個、5月2日7個確認したので付け加えておく。

(HIRUTA HISAKI 姫路市飾磨区阿成字黒石22-3)



翅を休めるサラサヤンマ



産みつけられたギフチョウの卵

兵庫県で採集した蛾の記録

山本 義丸

兵庫県産蛾類の分布資料として、筆者は先年氷ノ山とその周辺地域の蛾相について兵庫生物(1955-'59)に報告し、また氷上郡地方の蛾相について兵庫県氷上郡昆虫目録(1958)の中に報告した。いずれも古い時代のものであったので、分類学上の位置の変更や誤同定の修正を施し、また未記録であったものを追加して、前者については兵庫生物(1989)に、後者についてはきべりはむし(1996-'97)にそれぞれ補正報告を発表した。

本報は、それらのほかに兵庫県内各地で採集した標本のうちで、これまで県未記録の種や採集例があまり多くないものについてまとめたものである。古い記録ではあるが資料として報告する。*印を付したものは兵庫県未記録と思われるものである。

なお、主な採集地は鉢伏高原、段ヶ峰(生野高原)、扇ノ山(畑が平高原)、神鍋(日高町)、瀬川山(村岡町)などであり、一部に城崎温泉、湯村温泉、伊丹市などのものがある。また、氷ノ山及び氷上郡で採集して未記録であったものを含んでいる。

<ヤガ科 NOCTUIDAE>

1. *Anacronicta plumbea* (Butler)

ナマリケンモン 段ヶ峰。♂, 6. VII. 1953.

兵庫県内では氷上郡、宝塚市などの記録があり、大阪府箕面にも産する。

2. *Colocasia jezoensis* (Matsumura)

ネグロケンモン 鉢伏高原。♀, 23. VII. 1975.

氷ノ山、引原ダム、須留ヶ峰など山地での記録がある。

3. *Narcotica niveosparsa* (Matsumura)

シロフクロケンモン 鉢伏高原。♀, 24. VII. 1974; ♀, 23. VII. 1975.

数はあまり多くはないが、各地で記録されており、低山地にも産する。

4. *Heliocheilus fervens* (Butler)

ニセタバコガ 段ヶ峰。♂, 6. VII. 1953.

原色昆虫大図鑑(1), pl. 67:5(1959)に図示されているのがこの標本である。その後全国各地で採集され、県内でも摩耶山、関宮町、宝塚市(西谷)などの記録がある。

5. *Pyrrhia bifasciata* (Staudinger)

ウスオビヤガ 神鍋。♀, 19. VII. 1976.

氷上郡や引原ダムの記録があるが、あまり多くない。

6. *Polia goliath* (Oberthür)

オオシモフリヨトウ

鉢伏高原。♀, 24. VII. 1974.

本州では山地性で、ほかに氷ノ山でも記録している。

* 7. *Lacanobia contigua* (Denis & Schiffermüller) ムラサキヨトウ 鉢伏高原。♀, 24. VII. 1974.

本州では東北や中部の山地帯に産する。筆者は長野県白樺湖でも採集しているが、関西では未知である。

8. *Mythimna grandis* Butler

オオフタオビキヨトウ 鉢伏高原。3♂, 24. VII. 1974; ♂, 23. VII. 1975.

本州西南部では高地性となる。県内では摩耶山の記録がある。

9. *Mythimna divergens* Butler

ナガフタオビキヨトウ

段ヶ峰。♀, 7. VIII. 1953.

山地性であるが前種よりは多いようで、但馬の山地、引原ダム、氷上郡(栗鹿山)などで記録されている。

10. *Cucullia fraterna* Butler

ホソバセダカモクメ 伊丹。♂, 26. VI. 1958. (幼虫飼育, 羽化)。

阪神地域でも各地で採集されているが多く

はない。

11. *Cucullia elongata* (Butler)

キクセダカモクメ 神鍋. ♂, 19. VII. 1976.

山地性の種で、摩耶山、引原ダムなどの記録があるほか、宝塚周辺でも記録されている。

* 12. *Anapamea minor* (Sugi)

ヒメキイロヨトウ

鉢伏高原. ♂, 24. VII. 1974.

産出はやや局地的とされている。筆者は長野県白樺湖でも採集している (Paratype)。

13. *Amphipoea ussuriensis* (Petersen)

ショウブヨトウ 段ヶ峰. ♂, 6. VII. 1953.

鉢伏高原. ♀, 24. VII. 1974.

氷ノ山や猪名川町の記録がある。但馬の山地には広く分布すると思われる。

* 14. *Athetis pallidipennis* Sugi

キバネシロテンウスグロヨトウ 鉢伏高原.

1♂2♀, 24. VII. 1974 ; 1♀, 23. VII. 1975.

北海道から本州中部地方の山地に分布が知られている。

15. *Cosmia restituta* (Walker)

シラホシキリガ 鉢伏高原. ♂, 24. VII. 1974.

山地性の種で、県内では須留ヶ峰の記録がある。

16. *Chasminodes sugii* Kononenko

クロハナギンガ 鉢伏高原. ♂, 23. VII. 1975.

17. *Chasminodes unipuncta* Sugi

ヒメギンガ 段ヶ峰. ♀, 7. VII. 1953.

ギンガ属は兵庫県で6種記録されており、いずれも山地のものである。

18. *Dysgonia dulcis* (Butler)

ヒメアシブトクチバ 神鍋. ♂, 19. VII. 1976.

19. *Melapia electaria* (Bremer)

ユミモンクチバ 瀬川山. ♂, 21. V. 1967.

20. *Calyptra albivirgata* (Hampson)

ハイイロオオエグリバ

鉢伏高原. ♀, 24. VII. 1974.

21. *Hypocala subsatura* Guenée

タイワンキシタクチバ

神鍋. ♂, 19. VII. 1976.

以上4種は珍しい種ではないが、県内ではまだあまり多くは記録されていない。

* 22. *Pangrapta yoshinensis* Wileman & West

ヨシノツマキリアツバ

柏原. ♂, 3. VII. 1954.

氷上郡地方の蛾類に追加すべきものである (これまで未同定のままになっていた)。分布は局地的で、近畿では奈良、和歌山両県に記録があり、筆者も吉野で採集している。

* 23. *Anatatha wilemani* (Sugi)

クロオビアツバ 鉢伏高原. ♀, 24. VII. 1974.

新潟、福井、近畿以西の本州に分布するが局地的のようである。

<ドクガ科 LYMANTRIIDAE>

1. *Arctornis chichibense* (Matsumura)

ヒメシロドクガ 扇ノ山. ♀, 19. VII. 1953.

氷ノ山や須留ヶ峰の記録があり、県北部の山地には広く分布すると思われる。

<シャチホコガ科 NOTODONTIDAE>

1. *Ellida viridimixta* (Bremer)

シロテンシャチホコ

鉢伏高原. ♀, 24. VII. 1974.

本種以下の各種は、氷ノ山とその周辺や引原ダムなどで記録されており、県北部の高地帯に分布するものと思われる。いずれも丹波地方では未知である。

2. *Nerice bipartita* Butler

ナカスジシャチホコ

段ヶ峰. 2♂, 5-7. VII. 1953.

3. *Notodonta albicosta* (Matsumura)

マエジロシャチホコ

鉢伏高原. ♀, 23. VII. 1975.

4. *Peridea rotundata* (Matsumura)

マルモンシャチホコ

鉢伏高原. ♀, 23. VII. 1975.

5. *Fusapteryx ladislai* (Oberthür)

シロスジエグリシャチホコ

扇ノ山. ♂, 18. VII. 1953.

6. *Gluphisia rurea* (Fabricius)

コフタオビシャチホコ

鉢伏高原. ♂, 24. VII. 1974.

<カレハガ科 LASIOCAMPIDAE>

1. *Euthrix potatoria* (Linnaeus)

ヨシカレハ 段ヶ峰. ♂, 6. VII. 1953.

関東以西では山地性で、氷ノ山でかなり多く採集している。

<シャクガ科 GEOMETRIDAE>

1. *Scopula emissaria* (Walker)

キトガリヒメシャク 伊丹. ♀, 27. V. 1958.

本州からインド、オーストラリアにかけて分布する種で珍しいものではないが、県内の記録は氷上郡、淡路島などで多くはない。

2. *Trichopteryx misera* (Butler)

クロシタコバネナミシャク

城崎. ♂, 29. III. 1954.

早春の発生で、北摂地域や佐用郡三日月町の記録があるがあまり多くない。

3. *Trichobaptia exsecuta* (Felder & Rogenhofer)

シロオビクロナミシャク

段ヶ峰. ♂, 7. VII. 1953.

昼飛性で山地に見られる。県内では宝塚市西谷の記録がある。

* 4. *Rheumaptera neocervinalis* Inoue

キボシヤエナミシャク

段ヶ峰. ♀, 6. VII. 1953.

北海道から中部山地にかけて知られており、京都も記録されている。

* 5. *Rheumaptera hecate* (Butler)

サカハチクロナミシャク

瀬川山. ♂, 21. V. 1967.

関東以西では山地性で、中部山地には普通とあるが、近畿ではまれと思われる。

* 6. *Chiloroclystis kumakurai* Inoue

チビアオナミシャク

段ヶ峰. ♀, 7. VII. 1953.

珍しい種類ではないが、小形のためか県内では採集記録を見ない。

7. *Abraxas fulvobasalis* Staudinger

クロマダラエダシャク

瀬川山. 5♂1♀, 21. V. 1967.

本種の確実な同定には交尾器検査が必要であって、筆者にとっては県内で確認しているのはこれだけである。この採集地には多発していた。

8. *Ectephrina semilutea* (Lederer)

アカエダシャク 湯村. ♀, 19. VII. 1953.

本種以下の各種は、分布上特に珍しいものではなく県内各地の記録があるが、一般にあまり多くはない。

9. *Amblychia insueta* (Butler)

チャマダラエダシャク

神鍋. ♂, 19. VII. 1976.

10. *Biston regalis* (Moore)

ハイイロオオエダシャク

鉢伏高原. ♀, 24. VII. 1974.

<トガリバガ科 THYATIRIDAE>

1. *Macrothyatira flavida* (Butler)

キマダラトガリバ 段ヶ峰. ♀, 6. VII. 1953.

関東以西の本州では高地性で、氷ノ山、引原ダム等の記録がある。

<カギバガ科 DREPANIDAE>

1. *Sabra harpagula* (Esper)

ウスオビカギバ 鉢伏高原. ♀, 23. VII. 1975.

関東以西では高地性で、氷ノ山、須留ヶ峰の記録がある。

2. *Deroca inconclusa* (Walker)

ホシベッコウカギバ 段ヶ峰. ♂, 8. VII. 1953.

山地性の種で、県北部の山地帯ではよく見られる。

<メイガ科 PYRALIDAE>

1. *Stericta kogii* Inoue & Sasaki

ネグロフトメイガ

段ヶ峰. ♀, 7. VII. 1953.

山地性の種で、氷ノ山でも採集している。

2. *Myelois cribrella* (Hübner)

ゴママダラメイガ

段ヶ峰. ♂, 6. VII. 1953.

日本からシベリア、ヨーロッパに分布する種であるから山地性と思われる。県内では氷上郡妙高山及び有馬の記録が見られる。

<マドガ科 THYRIDIDAE>

* 1. *Pyrinioides aureus* Butler

ハスオビマダガ 段ヶ峰. ♀, 6. VII. 1953 ; 鉢伏高原. ♀, 23. VII. 1975.

関東以西では山地性の種で、北摂地域(箕面、豊中)の記録があるがまれである。

<マダラガ科 ZYGAEIDAE>

1. *Rhagades pruni* (Denis & Schiffermüller)

ルリハダホソクロバ

段ヶ峰. ♂, 6. VII. 1953.

昼飛性、日本からヨーロッパにかけて知られる広分布種である。近畿では1932~37年に採集された能勢妙見山、豊中市、及び池田市の記録があるが、今回のものも含めて

古い記録のみである。

<スカシバガ科 SESIIDAE>

* 1. *Nocona feralis* (Leech)

キクビスカシバ(ダイセンアトスカシバ)

扇ノ山. ♀, 18. VII. 1953.

鳥取(大山)、福岡、岐阜、長野など各県と北海道の記録があるが、一般にまれである。

<ハマキガ科 TORTRICIDAE>

* 1. *Cryptophlebia yasudai* Kawabe

オオアシブトヒメハマキ

氷ノ山. ♂, 11. VII. 1956.

東北から中部山地に分布が知られる大形のヒメハマキである。これまでの記録に脱落していた。

<マカリガ科 INCURVARIIDAE>

* 1. *Nemophora rubrofascia* (Christoph)

ベニオビヒゲナガ 氷ノ山. ♀, 22. VII. 1954.

全国的に分布する種で、当地方では山地性と思われ、これまで未記録であった。

(YAMAMOTO YOSHIMARU 大阪府池田市渋谷2-2-20)

明石公園のキョウトアオハナムグリ

山口 福男

1997年6月下旬から7月中旬にかけて明石公園のキョウトアオハナムグリの発生状況を観察したので報告する。

キョウトアオハナムグリが明石公園に発生することに私が気づいたのは1972年の夏であった。しかし発生のピークからかなり遅れていたため採集できたのは数匹に過ぎなかった。そこで翌年の1973年6月中旬に再調査したところ、流蜜してい

る数本のアベマキに多数の個体が吸蜜していたが、圧巻は直径が1メートルほどの大木の根元に群がる大群でその数は500匹は超えていた。アベマキ以外ではアキニレにも集まっていたが、個体数は多い木でも十数匹に過ぎなかった。この時に公園内にどれくらいのキョウトアオハナムグリが生息しているかについて調査しはじめたが、虫取りの子供たちに先に取られてしまって目的は果たすこ

とができなかった。

その後は気になりながら観察する機会がないままに経過したが、急に思い立って24年ぶりの調査となった。

6月21日明石公園東門からクヌギ・アベマキ・コナラ・アキニレ等で流蜜の有無を調べながら、以前に見たアベマキの大木を探したが残念なことに見当たらなかった。公園には直径50センチメートルを超えるアベマキの大木が20数本健在なので諦めずに調査を続けたところ、桜堀の近くの大木に千匹を超えるキョウトアオハナムグリの大群を見ることができた。このアベマキは公園内で最大級で地際で2本に別れ樹周はそれぞれ2.8、2.6メートルあり樹齢は約200年と推定できた。どれだけの頭数なのか数えてみたが飛び立つの、飛び込んで来るの、スズメバチに追い立てられるの、仲間どうして喧嘩して落ちるの等で正確な数をつかむことはあきらめざるを得なかった。何回か数えなおして1200±200位が当たらずとも遠からずと自分を納得させてこの日の調査を終了した。この大群のなかに3匹のカナブンと1匹のシラホシハナムグリ、数匹のオオスズメバチとコガタスズメバチが吸蜜していた。

6月25日にカウンターを持って再調査を試みたが個体数は激減しており244♂251♀合計495匹で、ほかにカナブン27、シラホシハナムグリ17、シロテンハナムグリ1が混在し、オオスズメバチ・コガタスズメバチの働き蜂が頻繁に訪問し、ヒカゲチョウが1匹吸蜜にきた。7月15日に3回目の調査を試みたが、キョウトアオハナムグリは1匹の雌を見ただけで、カナブンは23、シラホシハナムグリが17のほかオオスズメバチを見るだけであった。

以上が今年の調査状況で、個体数は24年前と比較し大差ないと推定したが、私の独断であって正確な根拠があるわけではない。しかし流蜜するアベマキの大木に1000匹を超える個体が観察できたことで明石公園内にキョウトアオハナムグリが温存されていると考えてもいいだろう。今回の最初の調査で個体数が最大で、わずか5日あとでは個

体数が2分の1以下であったことから見て発生的高峰は6月20日以前であったかもしれない。前回には発生時期を知ろうとして6月上旬から公園内を見回したが、本種は樹液にしか集まらないのでアベマキなどが流蜜するまで出会うことはなかった。また中旬になって路上に落下している個体が少なからずあり、死んでいるかと拾いあげるとすべて生きていた。あとで分かったことであるが気温が20度より下がると飛べなくなり、夜に木から落ちてそのまま動けないでいるらしい。日が高くなると路上には1匹も見られなくなる。このようなことから発生の時期は最低気温が20度を越える頃と考えるようになった。発生の初期がいつ頃なのかまだ確認できていないが大胆に推定して6月上旬と見ている。ピークは中旬、終息は7月中旬であろう。ついで発生源であるが、このことについては何も分かっていない。コアオハナムグリやシロテンハナムグリなどの幼虫が森の腐葉土の中で育つことから本種も同じような経過であろうと推察するだけである。もしもそうであるならば話がうまく展開する。公園内には林と言うより森と表現するほうがよい環境が多く残されている。この森の何処かの落ち葉の下で幼虫が育っているに違いない。公園周辺には森も林も全く存在しないので明石公園だけが発生のよりどころとなっている可能性が高い。

余談であるが、前回の調査の時に同時に飛来していたのはカナブんとシロテンハナムグリだけでシラホシハナムグリは見かけることはなかった。今回の調査ではシロテンハナムグリが少なく、これに代わってシラホシハナムグリが増加していたのが注目された。念のため9月3日にも同じ樹について観察したが流蜜を続けていてシラホシが89、シロテンが4匹吸蜜していた。キョウトアオハナムグリにもこのような盛衰が現れないと断言できないであろうが、そうあってほしくはないと願う次第である。

(YAMAGUCHI FUKUO 神戸市須磨区神の谷3丁目6-4)

ヒメアカタテハの食草・ゼニバアオイ 近藤 伸一

アオイ科のゼニバアオイ (*Malva neglecta* WALLR) が、ヒメアカタテハの食草になっていることを確認した。これまで県下で確認された食草は、ヨモギ、ハハコグサ、チチコグサモドキ(以上キク科)、カラムシ(イラクサ科)で、アオイ科の植物は初めての記録である。

1989年10月神戸市西区岩岡町で、畑の土手に生えているアオイ科植物から、ヒメアカタテハの幼虫の巣を偶然見つけた。中令～終令の幼虫を多数確認したが、外来種と思われるこのアオイ科の種名が特定出来ないまま年月を経た。

1996年10月16日、久しぶりに同じ場所を通り、このアオイがかなり分布を広げているのに気づいた。巣はすぐに見つかり、若令から終令まで多数の幼虫を確認した。12月8日にも同地で多数の幼虫が見られ、持ち帰った終令幼虫はアオイを食べて蛹化した。

1997年春、アオイの花と実の図を、植物に詳しい清水美重子氏に見ていただき、ユーラシア大陸原産のゼニバアオイであることがわかった。

1997年10月10日(岩岡町内の別の場所)、ヒメアカタテハがゼニバアオイに産卵しているのを見つけ、若～中令幼虫の巣を多数確認した。

当地では、過去にヨモギを食べて越冬する幼虫

を確認しているが、ゼニバアオイの葉は冬季も青々としており、冬季もこの幼虫がこの葉で越冬している可能性は高い。

ゼニバアオイの日本における分布は知らないが、東京に帰化したものに和名がつけられたそうで、外来種特有の強さで分布を拡げている。現在で西区周辺のみならず、加古川市周辺でも畑の縁でよく見られ、各地でヒメアカタテハの重要な食草になっているものと思われる。日本に帰化している *Malva* 属は、他にもフユアオイ、ゼニアオイ、ウサギアオイなど多く、これらの植物もヒメアカタテハの食草になっているのかどうか、調査が必要である。

<参考文献>

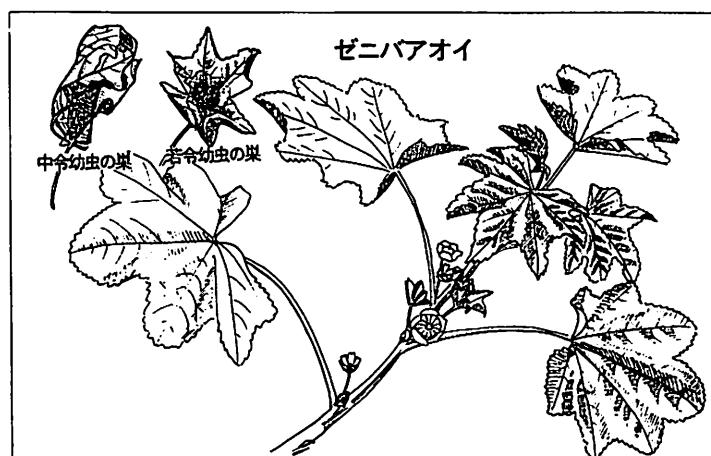
長田武正(1981) 原色日本帰化植物図鑑 保育社・大阪

長田武正(1985) 野草図鑑7 さくらそうの巻 保育社・大阪

近藤伸一(1984) 兵庫県におけるヒメアカタテハについて ひろおび(7):1-14

唐土洋一(1997) ヒメアカタテハの食草について てんとうむし(11):83

(KONDO SHINICHI 神戸市西区岩岡町岩岡619-57)



稲畑憲昭氏採集 兵庫県下産甲虫類若干の記録 高橋 寿郎

本会々員稲畑憲昭氏は、祖父の家のある氷上郡市島町北奥塚原並びにその近所での甲虫類の採集調査をやっておられる。此处にそれ等のうち注目種と考えられるとしたもののいくつかのデータを送って頂いた(一部神戸市灘区篠原祖母野山産のものもふくまれている)。本来なら採集者自身によって記録して頂ければよいのであるが、今回は筆者がまとめてコメントをつけておいた。標本は全く見ていないので同定の不安無きにしもあらずであるが、此处にある大方の種はそれ程同定が難しいものと考えられないので、そのまま利用させて頂いた。

◎ キノコゴミムシ *Lioptra erotyloides* BATES,
1873 (オサムシ科)

市島町塚原妙高山の入り口の炭焼き小屋の丸太の下から 1ex., 23. V. 1997. 県下でもそう普通に見ることはない。

◎ キンバネハネカクシ *Ocytus gloriosus* SHARP,
1874 (ハネカクシ科)

市島町北奥塚原、櫻の木から 1ex., 28. IV. 1997. 県下の記録では伊丹市[河上, 1974], 氷上郡[山本, 1958]があるがかなり珍しい種と考えられる。

◎ タテジマカネカメコメツキ *Gambrinus vit-*
latus (CANDEZE, 1873) (コメツキムシ科)

氷上郡市島町北奥塚原 1ex., 27. IV. 1997. 氷上郡市島町多利と神泥寺の間、道路横のピーティングで 1ex., 29. IV. 1997.

この種は県下に普通に見られるコメツキムシの1種ではないのだろうか？

◎ アカハラケシキスイ *Librodor rufiventris*
(REITTER, 1879) (ケシキスイムシ科)

氷上郡北奥塚原、腐ったかぼちゃの下から 1ex., 26. III. 1997. 本種の幼虫はククイムシの孔道にいるといった記録がある。県下からは初めての記録種と思われる。

◎ キバネカミキリモドキ *Xanthochroa luteipennis* MARSEUL, 1876 (カミキリモドキ科)

氷上郡市島町塚原のはずれ(妙高山入り口)の炭焼き小屋にて 1♀, 27. VI. 1996. 県下での記録は少ない。

◎ ワダカミキリモドキ *Xanthochroa wadai* NAKANE, 1954 (カミキリモドキ科)

当時、京都大学学生であった和田義人博士(筆者の所へもしばしば和田博士は遊びに来ておられた)が摩耶山で採集された1♂(26. VI. 1949)をホロタイプに朝比奈正二郎博士が九州大隅半島佐多岬で得た1♀(24. V. 1952)をアロウタイプに、パラタイプに柴内俊一氏採集の神戸産(1♀, 17. VII. 1949)を加えたもので、中根猛彦博士が和田博士に献名、新種記載として発表された種である(Sci. Rep. Saikyo Univ., Nat. Sci. and Lin. Sci. Vol. 1, No. 4:33-34, Fig. 1, 1954).

大変珍しい種のように、兵庫県下では上記原記載以後の記録がなかった。もっとも筆者も六甲山の紅葉谷で1ex. 採集の記憶があるのだが、残念ながら現在標本が手許にないのでなんともし様がな

い。今回、神戸市灘区篠原祖母野山(六甲学院の上)のナラ類の木から 3exs. (14. VI. 1997) が採集出来ている。これは大変うれしい記録である。恐らくこのあたりにはまだ本種は見る事が出来るであろう。

分布は本州(東海以西)、四国、九州であるが一般的に少ない種のようなのである。

◎ アメイロカミキリ *Sterodryes clavigera clavigera* BATES, 1873 (カミキリムシ科)

灘区篠原祖母野山(六甲学院の上)長峰道のササのピーティングにて得た(1ex., 18. VII. 1997). もっともこのカミキリムシは兵庫県下では広く分布している種と考えられる。

◎ コササコクゾウムシ *Diocalandra elongata* (ROELOFFS, 1875) (オサゾウムシ科)

◎ ササコクゾウムシ *Diocalandra sasa* MORIMOTO, 1978 (オサゾウムシ科)

灘区篠原祖母野山(六甲学院の上)長峰道入り口付近でササコクゾウムシかコササコクゾウムシが、この斜面のヒメササがいっぱいはいっていた所で 1ex., 8. VI. 1997, 1ex., 19. VI. 1996 と採集していると、ササコクゾウムシの方はわりと見られるが、コササコクゾウムシの方は筆者は宋栗郡赤西で採集しているだけであり、眼にすることが少ないように思われる。

以上、一応教えて頂いたものをまとめてみた。なかなか面白い記録もある。氷上郡の北奥地方は詳しく調べたらまだまだ面白い甲虫に出会えると思われる。稲畑氏の今後の活躍を大いに期待したい。

(兵庫県甲虫相資料・342)

(TAKAHASHI TOSHIO 神戸市兵庫区氷室町1-44)

ケブカアカツヤメクラガメ
神戸市内にも産す

高橋 寿郎

最近中谷至伸・尾崎光彦氏が本州からケブカアカツヤメクラガメ *Deraeocoris koreanus* LINNAEUS, 1763 の採集された各県を示された(Rostria, No.

46:11-13, 1997). その中で兵庫県からは丹南町南矢代, 8♂, 4. VII. 1995, Y. NAKATANI leg. 篠山町矢代, 1♀, 3. VII. 1994, Y. NAKATANI leg. が記録されていた。本種の兵庫県下からの初めての記録になると思われる。未発表であるが筆者もかなり前に神戸市内で採集しているので此処に報告しておく。

神戸市兵庫区島原貯水池畔, 1ex., 28. VII. 1983, T. TAKAHASHI leg., 宮本正一博士同定, 標本同博士保管, 1ex., 5. VII. 1982, T. TAKAHASHI leg. 標本県立人と自然の博物館保管。

末筆になったが、同定して頂いた宮本正一博士に厚くお礼申し上げる。

(IV. 1997)

(TAKAHASHI TOSHIO 神戸市兵庫区氷室町1-44)

ルイスクビナガハムシの採集記録
柴田 剛

ルイスクビナガハムシの兵庫県下における採集記録は、高橋(1995)及び永幡(1996)の報告があるが、4月下旬という早い時期に採集したので報告する。

美方郡村岡町役場の真北の山の上に但馬福岡UHF送信所があり、そこから少し南に下ったところに小さな池がある。その池の土手に立っていたところ、どこからか飛んできてシャツにとまったのを採集したものである。

美方郡村岡町村岡 alt. 500m, 26. IV. 1997

(SHIBATA TAKESHI 豊岡市正法寺字堂屋敷425-6
タジママンション3-A)

ミヤマオオハナムグリの分布について

高橋 寿郎

最近ある必要があつて、G. Lewis の日本産コガネムシについての論文を見ていて、いささか気になることを見出したので、此处にその点についてのべてみたいと思う。

まず、1879年の論文 "On certain new Species of Coleoptera from Japan" (Ann. Mag. Nat. Hist. (5) IV: 459-467) の中の p. 463 に北海道産早標本で *Cetonia insperata* Lewis (ミヤマオオハナムグリ) なる新種を記載している。

1887年の論文 "On the Cetoniidae of Japan, with Notes of new Species, Synonymy, and Localities" (Ann. Mag. Nat. Hist., XIX(5): 196-202) の p. 198 に、4. *Cetonia insperata*, Lewis. I took about thirty examples in Yezo, Vries Island, Chiuzenji, Nikko, Wada-toge are other localities for it. とのべている。即ち、北海道にて30頭あまりの個体を採集しているが、他に Vries Island, 中禅寺, 日光, 和田峠—長野県の産地があるとなっている。その Vries Island というのが何処のことか調べてみたがよくわからなかった。たまたま1884年(明治17年)にアーネット・サトウの主編著になる「明治日本旅行案内」改訂第二版がジョン・マレー社から刊行されたものを庄田元男が訳した「明治日本旅行案内、上、中、下巻」が平凡社から1996年に出版された。その中巻、p89-90に「フリーズ島。Maerten Gerritsz der Vries はオランダの探検家で、1643年には北海道、千島、樺太などに来航した。この時は伊豆大島に寄港したことから同島は外国人の間ではフリーズ島とよばれていた」とあった。即ち、Vries Island は伊豆大島のことである。

G. Lewis は日本に2度来て(1867-1872, 1880-1881) (厳密にはそれ以前、1864, 1865に日本に立ち寄ったことがあると) 日本各地を採集しているが、はじめの時は長崎や神戸、大阪を中心として横浜、鹿児島ぐらいに限られているが、後の2年

間には北は北海道から南は九州まで精力的に歩き回っているが、伊豆大島へは行っていないようである。ただ後の時に G. Lewis によって訓練された日本人の有能な採集人を方々に送っており、その中には佐渡、伊豆大島も含まれている(湯浅啓温, 1927, 草間慶一, 1971, 藤野直也, 1994), そのことから、この伊豆大島産は採集人によって得られているものであることになる。そうすると、*Cetonia insperata* Lewis = *Protaetia (Liocola) insperata* (Lewis) ミヤマオオハナムグリの分布に伊豆大島があることになる。

このようにはっきりと伊豆大島の産地が出ているのに、その後の日本のコガネムシの分類研究論文とか目録、図鑑に図説された時の分布地などに伊豆大島というのが全く出てこない。本州の中に含んでいるといえればそれ迄であるが。ただ、1941年発表の八幡英夫の「日本産 PROTAETIA 属の種に就いて(1)」(昆虫 Vol. 15, No. 2, :75, 84) の中では産地に Yezo, Vries Island, Chiuzenji, Nikko, Wada-toge と Lewis の記録として記している。

Lewis の Vries Island という記録が間違っていたといったような記述は筆者の見た文献からは出て来ない。大体、ミヤマオオハナムグリというのは、本州、四国、九州の山地に分布しているような種に思われる(北海道には勿論産する)(和名はその意味のものがつけられている)が、伊豆大島のような島に分布しているとなると非常に面白い記録になると思われる。

伊豆諸島のコガネムシの記録も野村 鎮(1969), 石田正明(1979, 1984)の報文の中には本種は出てこない。したがって、本種が伊豆大島に産するかどうかははっきりとしない。一度調べてみたいと思うが現在では実現しそうにもない(本種の分布については筆者, 1987, 今坂正一, 1991の報文も是非参照して頂きたい)。

<参考文献>

- 藤野直也(1994) 我が敬愛するジョージ・ルイス
biohistory 2(2):16-18.
- 今坂正一(1991) 日本産シロテンハナムグリ属に
ついて(1)(2). 月刊むし(248):4-8. (249):
13-18.
- 石田正明(1979) 伊豆諸島のコガネムシ類
月刊むし(104):29-34.
- 石田正明(1984)伊豆半島のコガネムシ主科につ
いて 東京経済大学人文自然科学論集. (68):43-
60.
- 草間慶一(197) ジョージ・ルイスの足跡につ
いて(上・下). 月刊むし(8):18-23. (9):14-20.
- 野村 鎮(1969) 伊豆諸島産コガネムシ主科の動
物地理学的研究. 昆虫学評論21(2):71-94.
- 高橋寿郎(1987) ムラサキツヤハナムグリとミヤ
マオオハナムグリについて. きべりはむし15
(2):31-42.
- 湯浅啓温(1927) 我が甲虫学会の恩人 GEORGE
LEWIS 逝く. 昆虫2(2):112-113.

(V. 1997)

(TAKAHASHI TOSHIO 神戸市兵庫区氷室町1-44)

マツムシモドキの播磨地方での記録 相坂 耕作

マツムシモドキ *Aphonomorpha japonicus* は静岡県以西にすむというが、兵庫県下での記録は大変少ないと思われる。筆者は播磨地方の次の3地点で採集したので記録しておきたい。

生息地はいずれも低山帯の樹上にすんでいたものであるが、揖保郡新宮町においてはすべてコナラの葉上にて採集したものである。新宮町ではどうやらブナ科植物の葉を食べるのではないかとと思われる。

翅に発音器がないとの事で、体を枝や葉に打ち

つけ発音させるというが、赤穂郡上郡町産のものを飼育したが、鳴くところは観察できなかった。

採集データ

- 1ex. 30-VII-1995 三木市福井
三木山森林公園
- 多数 30-IX-1997 赤穂郡上郡町岩木
- 多数 5-X-1997 揖保郡新宮町宮内

(AISAKA KOUSAKU 姫路市大津区天満960-19)

食糞性コガネムシ3種の採集記録 蛭田 永規

相生市陸(くが)においてオオセンチコガネ、クロマルエンマコガネ、コブマルエンマコガネを採集したので報告しておく。手入れが十分でなく鬱閉状態のヒノキの二次林内で、イノシシ(?)の糞に集まっていた。

相生市陸 1997年6月10日

- | | |
|------------|-------|
| オオセンチコガネ | 3exs. |
| クロマルエンマコガネ | 2exs. |
| コブマルエンマコガネ | 3exs. |

(HIRUTA HISAKI 姫路市飾磨区阿成字黒石22-3)

上郡町で採集した蛾の記録の訂正 高島 昭

きべりはむし25(1)で報告した上郡町で採集した蛾の記録のうち、ミヤマフタオビキョトウ *Mythimna matsumuriana* (Bryk) についてその後検討した結果フタオビキョトウ *M. turca* (Linnaeus) であると思われるので、訂正する。

(TAKASHIMA AKIRA 姫路市書写2542-2)

県関係文献紹介

○ 稲田和久・上野哲郎・久後地平

「水に棲む昆虫展」解説本 A4, 44p.

1997年6月14日～7月21日, 姫路科学館において「水に棲む昆虫展」が開催され, それらの解説本として出版されたものである。カワゲラ, トビケラ類が主体でホタル類についての解説もある。図も多く入っていて大変わかりやすい。本書は相坂耕作氏よりお送り頂いた。厚く御礼申し上げる。(T).

○ Awajiensis 05 (March, 1997)

自然環境研究所刊

特に昆虫に関しての報文はないが, “淡路島と地震”といった興味ある報文がふくまれている。(T).

○ 監修・兵庫県

編集 兵庫県自然保護協会(1997)

RED DATE ひょうごの野生動物

(神戸新聞総合出版センター刊。定価1,600円+税)

兵庫県が“兵庫の貴重な自然～兵庫県版レッドデータブック～”を作成(平成7年3月)したが, その貴重性ランクに対応したもので構成, 種の選定, 貴重種の評価基準としては(1)人為性, (2)生態の特殊性, (3)学術性が考慮されてまとめられている。

昆虫は138種収録されているが, かなり流動性のものが多くいるのでどの時点で押さえるのか色々問題があるであろう。とにかく, 多くの執筆者の原稿をとりまとめられた朝日 稔先生は大変だったろうと思われる(当会の会員の方々も多く執筆されている)。

ただこのような貴重な野生動物をこれからどの様に取り扱ってゆくべきであるのかとなると難問題である。日頃, 日々自然破壊のすすむ現状で野生動物に眼をむけてくれる人がいるのかどうか心もとない次第である。

さて余談ではあるが, 筆者の手許にこの種各県単位でのレッドデータブックが次のように積まれている(発行順)。鳥取県(1993), 島根, 神奈川, 山口, 兵庫, 広島各県(1995), 三重県(1996), 島根, 長野県(1997)など。後から発行されるもの, また県関係の直接編集・発刊に加わったものにはかなり豪華本が出版されていて驚いている。(T).

県関係・学会誌・同好会誌・連絡誌

(Ⅲ・1997～)

兵庫生物ニュース (兵庫県生物学会連絡誌) No. 28(Ⅲ・1997), No. 29(Ⅳ・1997), No. 30(Ⅶ・1997)

兵庫陸水生物 (兵庫陸水生物研究会) No. 48(Ⅳ・1997)

兵庫陸水生物ニュース (兵庫陸水生物研究会) No. 9(Ⅳ・1997), No. 10(Ⅶ・1997)

宝塚の自然 (宝塚の自然に親しむ会) 第11号(Ⅲ・1997)

自然とともに (県生活文化部環境局環境政策課自然環境情報誌) 第37号(Ⅲ・1997), 第38号(Ⅵ・1997), 第39号(Ⅸ・1997)

姫昆サロンニュース (姫路昆虫同好会連絡誌) No. 123(Ⅴ・1997), No. 124(Ⅵ・1997), No. 125(Ⅶ・1997)

兵庫生物 (兵庫県生物学会々誌) Vol. 11, No. 3(Ⅴ・1997)

Sympetrum Hyogo (兵庫トンボ研究会誌) Vol. 4(Ⅱ・1997)

混蟲ずかん (但馬むしの会連絡誌) No. 57(Ⅴ・1997), No. 58(Ⅸ・1997)

てんとうむし (姫路昆虫同好会々誌) 第11号(Ⅴ・1997)

のせ (大阪昆虫同好会連絡誌) Vol. 26, No. 2～7(Ⅱ～Ⅶ, 1997)

PARNASSIUS (淡路昆虫研究会々誌) No. 45(Ⅸ・1997)

エコひょうご (ひょうご環境創造協会) No. 4(夏号・Ⅵ・1997), No. 5(秋号・Ⅸ・1997)

交 換 誌

ゆらぎあ (鳥取昆虫同好会倉吉支部会誌) No. 14(XⅡ・1996)

すずむし (倉敷昆虫同好会々誌) No. 131(Ⅵ・1997)

KURAKON (倉敷昆虫同好会連絡紙) No. 39(Ⅴ・1997), No. 40(Ⅶ・1997)

くらしきのトンボ (倉敷市・Ⅲ・1997)

日昆協ニュースレター第31号 (Ⅶ・1997)

訂 正 と お わ び

前号(きべりはむし第25巻第1号)の、兵庫県産蝶類分布資料(8)のなかで、五十君 亘弘氏の名前が入力ミスにより五十嵐 亘弘となっておりました。五十君様には大変ご迷惑をおかけしました。お詫びして訂正します。

会費納入についてのお願い

1998年度会費 3,000円

出費多端の折、恐縮に存じますが、会費納入を年内に同封振替用紙御利用の上、お願い申し上げます。

編 集 後 記

今年は6月に台風が上陸したり3年続きの猛暑になったりと変な年でした。秋になってようやく天候が安定してきました。最近、アサギマダラがやたらに目につく今日この頃です。きべりはむし第25巻第2号をお届けします。今回は、本誌25周年ということで高橋寿郎さんに特別に「キベリハムシが初めて記録されたころの思い出」と題して当時の回想文を寄稿頂きました。本誌の誌名となっているキベリハムシですが、今ほど情報網が発達していなかったであろう発見当初の時期は、さぞ珍奇で謎に満ちた虫だったろうと思います。

現在では調査も進み、「すわ！新種発見か」といったロマンはあまり期待できなくなりましたが、反面多くの同好者の皆さんの努力と情報の蓄積により、兵庫県内の昆虫の分布もかなり明らかになったものと思います。

兵庫昆虫同好会で25年間蓄積した貴重なデータをまとめ、整理できたら一番いいのですが、私たちの能力の及ぶところではありません。もちろん、今後そのような努力はしていきたいと考えていますが、とりあえず創刊以来の総目次を刊行することでまとめに代えたいと考えています。この総目次は来春に発行する予定です。

また、前号で予告しましたきべりはむし第25巻第3号、高橋寿郎氏の「日本産コガネムシ類分類目録」については、今校正の最終段階に入っており、年内にお届けできる予定です。ご期待下さい。

次号は1998年5月に発行します。原稿の締切は3月末日とさせていただきます。奮って投稿いただきますようお願いします。

(編集担当：近藤伸一・高島昭)

きべりはむし 第25巻 第2号
1997年 11月 15日 発行

発行：兵庫昆虫同好会
〒652 神戸市兵庫区氷室町1丁目44 高橋寿郎方
振替 01170-3-26646

編集：近藤伸一・高島昭
原稿送付先 〒671-22 姫路市書写2542-2 高島昭宛

印刷：岩峰社

目 次

兵庫県産蝶類分布資料(9) —ミドリシジミ族6種の記録—広畑政巳・近藤伸一	1
兵庫県産ゾウムシに関する文献目録(1).....高橋寿郎 兵庫県甲虫相資料・333	13
兵庫県産水棲甲虫目録(2).....高橋寿郎 兵庫県甲虫相資料・338	23
兵庫県氷上郡地方の蛾類(3).....山本義丸	31
黒川のトンボ.....木下修一・牛尾巧	39
キベリハムシが初めて日本で記録されたころの思い出・高橋寿郎	44
兵庫県の蝶／観察と知見② —サカハチョウ・ツマゲ・ヒョウモン—大東康人	48
サラサヤンマを中町で確認.....蛭田永規	53
兵庫県で採集した蛾の記録.....山本義丸	54
明石公園のキョウトアオハナムグリ.....山口福男	57
ヒメアカタテハの食草・ゼニバアオイ.....近藤伸一	59
稲畑憲昭氏採集 兵庫県下産甲虫類若干の記録.....高橋寿郎	60
ケブカアカツヤメクラガメ神戸市内にも産す.....高橋寿郎	61
ルイスクビナガハムシの採集記録.....柴田 剛	61
ミヤマオオハナムグリの分布について.....高橋寿郎	62
マツムシモドキの播磨地方での記録.....相坂耕作	63
食糞性コガネムシ3種の記録.....蛭田永規	63
上郡で採集した蛾の訂正.....高島 昭	63
県関係文献紹介.....	64
県関係・学会誌・同好会誌・連絡誌(Ⅲ・1997~).....	65
交 換 誌.....	65
会員異動.....	66